

第四百五十六條ノ二

〔第九百五十三號〕 本條ニハ吾人カ堤防ノ毀壞ノミト稱スルモノヲ記載セリ故ニ或ハ例外ニ因テ一旦堤防ヲ毀壞シタルモ直チニ之レヲ修復シ又ハ甚タシキ溢水ナキ中ニ俄カニ水量ノ減シタルカ若クハ溢水ハ犯人ノ目的及ヒ豫想ニ反シテ方向ヲ轉シ毫モ損害ヲ醸生セサリシ場合ヲ假想セスンハアルヘカラス○又本法ハ溢水ノ爲メ生シタル損害前條ニ豫定シタルモノヨリモ少ナキ場合ヲ以テ右ノ場合ト同視セリ

本條ニ於テ犯人ニ科スル所ノ刑ハ最早輕罪ノ刑ニ過キス蓋シ社會ノ害惡殆ント存セサレハナリ

〔第九百五十四號〕 堤防毀壞ノ未遂犯又ハ導水管ニ穴ヲ穿ツキノ未遂犯ハ共ニ本法ニ豫定スルヲ要セリ其故何トナルニ是等ノ所爲ハ溢水ノ如キ俄カニ四方ニ汎濫スルコトヲサレハ犯罪着手中ニ意料外ノ原由ニテ停止スルモノナレハナリ

諸テ前條ノ場合ニ於テハ決水ニ因テ生スル禍害ハ即チ其罪ノ構造事實ト看做シ既遂罪ノミニ刑罰ヲ適用スヘキモノナレハ未遂犯ニ關スル問題起ルコト無シ○是レ蓋シ斯ル理由アルニ因リ本法ハ平常記載スル所ノ「未遂犯ハ罰スヘキモノナリ」トノ文體ヲ用ユルコトヲ得ナリ

第四百五十六條ノ三

〔第九百五十五號〕 吾人カ前文即チ第九百四十八號ニ說明セシ如ク既ニ水ノ侵入シタル一地方ノ住民ニ於テ時トシテハ故意ヲ以テ決水罪ヲ犯スコトアリ此際犯人ノ目的ハ堤防堤塘又ハ其他ノ土工ヲ設ケテ種々ノ災害ヲ防止スル所ノ他ノ地方ニ溢水ヲ注流セシメントスルニ在ルナリ

固ヨリ是等工事ノ如キハ水害ヲ防遏セントノ目的ヲ以テ築造セサルコトアリト雖モ亦水害ヲ防クヘキモノナレハ則チ本法ハ其目的ト効力トヲ同視スルノ注意ヲ爲セシナリ水害除ケノ爲メニ築造セサル堤塘トハ例ヘハ谿谷ノ間ヲ通スル道路ノ兩側ノ斜傾ヲ廢除シ又ハ減少センカ爲メニ玆ニ設ケタルモノ、如キチ云フ

又彼ノ天然ノ水害除ケノ毀壞ヲ以テ人造ノ土工ノ毀壞ト同視スルハ至當ノコトス日本ニ於テハ(和蘭國「ペーハー」ニ存スルカ如キ)海面ヲ保持スル所ノ堤防ニ付テ論究スルノ要アルヲ見スト雖モ彼ノ波除ケヲ毀損スル場合ノ如キハ本法ニ豫見スルヲ要セリ蓋シ波除ケハ眞ニ海水ヲ保持スルニアラサルモ平常ノ波濤ノ溢出ヲ防遏シ且暴風ノ際住民又ハ土地ヲ多少保護スルモノナリ

堤防ノ毀壞ニ付キ以上同視スル所ノ種々ノ事柄ヲ法律ニ明記セサルニ於テハ疑團ヲ生ス

ルノミナラス遂ニ以テ犯人ヲ無辜ノ者ト爲スヲ或ハ之レアラン是レ甚タ痛歎スヘキヲナ
リ

第四百五十七條

〔第九百五十六號〕 本條ニ豫定シタル事實ハ前數條ニ豫定シタル堤防ノ毀壞ヨリモ輕ロシ
何トナレハ堤防毀壞ニ於ケル程ノ重大ナル損害ヲ醸生セサレハナリ詳言セハ規定ノ水流
ヲ妨害スル者ハ其レヲシテ溢出セシムト雖モ唯水流又ハ導水管ニ滿テ餘レル部分ノ溢出
スルニ過キス然ルニ堤防又ハ導水管ヲ毀壞スルキニハ平常ノ水平線ヨリ降りテ溢出スル
モノナリ加之堤防ヲ毀壞シタルキニハ溢水ヲ防止スルヲ甚タ難シト雖モ尋常水流ニ設ケ
タル障碍物ハ容易ニ除却スルヲ得レハナリ

本條ニハ自然ノ（ナチュレール）又ハ尋常ノ（ノルマル）水流ト記セスシテ規定ノ（レギエ
リエー）水流（規則ニ適シタ
ル水流ノ義）ナル語辭ヲ撰用セリ（本條ノ譯文ニハ天然又ハ人作ノ水流ヲ妨害シ云々トアリ
テレギエールノ規定）ノ語ヲ脱シタリ宜シク補足スヘ
シ其故何トナルニ水流ハ其源ニ從ヒ官署又ハ私ノ合意ヲ以テ規定スルヲ得ルモノナ
レハ最モ汎博ニ渉ル語辭ヲ用ユルヲ優レリトス

凡ソ水流ハ天然又ハ人作ニ起因スルヲアリ故ニ若シ其源カ灌漑水又ハ工業場ニ係ルハ雨
水若クハ源泉ニ關スルハモ更テニ其流通ヲ妨害スルヲ嚴禁スヘキナリ

水流ヲ妨害セント企テタル意思ハ本法責罰スヘキモノト想像ス蓋シ是レ一身上ノ怨恨ヲ
復サントノ希望又ハ我慾ヨリ出ツル利益ヲ圖リタルニ外ナケレハナリ

第四百五十八條

〔第九百五十七號〕 本法ハ前數條ニ於テ堤防ノ毀壞又ハ其他水流ニ關スル犯罪ヨリ生シタ
ル財産上ノ損害ノミヲ豫定セリ○今ヨリ本法ハ決水罪ニ因テ人身ヲ毀傷シ又一名若クハ
數名ヲ死ニ致シタル場合ヲ豫定スルモノナリ

舊草案（第四百五十六條）ハ故意ヲ以テ決水罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ放火罪（第四百四十
五條）ノ場合ニ於ケルカ如ク假令ヒ人ヲ死ニ致サスト雖モ人ノ住居スル家屋又ハ人ノ住
居ニ供スル建造物ヲ毀壞セシキハ犯人ヲ死刑ニ處罰スヘキ旨ヲ掲ケタリ○頒布法典ニハ
該嚴刑ヲ廢止シタレハ（頒布法典第四百十一條）吾人ニ於テモ之レヲ再設セント企テサル
ナリ

〔附言〕 吾人本草案第十七條ノ註解第五十二號ヲ起草セシ際ニハ右死刑廢止ノコトニ付
キ改正ヲ要スヘシト信セサリシナリ故ニ水ヲ決シテ人ノ住居スル建造物ヲ害シタル場
合ニ於テ住家ニ放火シタル場合ト同視シタルハ蓋シ宜シキニ適セサルモノナリ（第五
十二號ノ改正ノ部ヲ參觀スヘシ）

然リト雖モ水ヲ決シテ住屋ヲ毀壞シ因テ人ヲ死ニ致セシキハ犯人心理ニ貯ヘシ所ノ豫見ト遂ニ之レヲ實行セシト又一一般危險ノ重大ナルトニ因シ吾人ハ舊草案ノ嚴刑ヲ放棄ス可カラスト信ス(附言)○看ヨ彼ノ白耳義法典ハ故意ヲ以テスル放火及ヒ決水罪ニ關シテハ我草案ヨリモ寛裕ナリト雖モ既ニ是等ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死ニ致セシキニハ斷然死刑ヲ採用セリ(同法典第五百十八條及ヒ第五百四十八條)○他又該法典ニ豫定シタル所ノ故意ヲ以テ決水罪ヲ犯シ因テ一名若クハ數名ヲ死ニ致セシ場合ハ地下ニ通路ヲ設ケテ採掘ニ從事スル礦坑ヲ沈沒シタル特別場合ニ過キサルナリ

〔附言〕 頒布法典ヲ編纂セラレタル諸君ハ故意ヲ以テ決水罪ヲ犯シ因テ一名若クハ數名ヲ死ニ致セシキニ於テモ眞實死刑ヲ廢止セラレタルヤ如何余ハ之レヲ知ラサルナリ夫レ故意ヲ以テ決水罪ヲ犯セシ者ヲ死刑ニ處スルノコトハ人ノ住居スル建造物又ハ地下ノ礦坑ヲ沈沒荒廢シテ人命ヲ害シタルキニ限リタリト雖モ未タ此決水罪ノ事項ニ於テハ特別ノ嚴刑タルヲ免カレズ何トナレハ此際人命ヲ害シタルコトヲ以テ故殺ト看做シタルモノハ唯法律上ノ推測即チ犯人カ住家又ハ地下ノ礦坑ヲ荒廢シテ殆ント避クヘカラサルノ危險ヲ人身ニ醸生スルコトヲ豫知セリトノ推測ニ基キシニ過キサレハナリ然レトモ斯ク故意ヲ以テ水ヲ決シタルキハ過クヘカラサルノ損害ヲ生シテ人ヲ死ニ致スヘキコト殆ント豫見

ナレハ法律上其殺人罪ヲ以テ故意ニ出テタルモノト看做スハ失當ニアラズ且此故意ハ自カラ決水罪ノ前ニ存スルカ故ニ豫メ謀リテ人ヲ殺シタルモノトシテ罰スヘキナリ人ノ住居スル家屋ノ全部ヲ毀壞シテ人ヲ死ニ致シタルヤ又ハ唯其一部ヲ毀壞シテ人命ヲ害シタルヤノコトハ犯人ヲ死刑ニ處スルニ付キ必要トスルニアラズ即チ本條ノ場合ニ於テハ全部又ハ一部ノ毀壞ヲ要スルニアラスシテ唯決水罪ヲ犯セシコトヲ以テ足レリトス但シ人身ニ害ヲ及ホシタルニアラサルキニ於テノミ住屋ノ毀壞ヲ以テ犯罪ノ最モ重大ナル構造事實ト爲スモノナリ是ヲ以テ疾病ニ罹ル者又ハ癱疾者其住家ニ於テ沈溺シ又ハ總テ其他ノ者水害ニ罹レル住家ヲ逃レテ水中ニ絶命シタルキノ如キハ本法定ムル所ノ嚴刑ヲ以テ犯者ヲ罰スヘキモノナリ○然レトモ法文ニ説明セル如ク決水罪カ人ノ死去ノ「直接ノ原因」ナルコトヲ要スヘクシテ唯間接ニ死去ノ助ケトナリタルキハ未ダ以テ犯人ヲ死刑ニ處スルニ足ラス例ヘハ彼ノ多少仁慈及ヒ無謀ニ屬スル豪勇ヲ施シテ水中ニ飛入り水害ニ罹レル人又ハ物件ヲ救ハンカ爲メニ自身落命スル者アルモ之レカ爲メ犯人ニ死刑ヲ施ササルモノトス

〔第九百五十八號〕 前項ニ於テハ人ノ住居スル家屋又ハ地下ノ礦坑ヲ荒廢シテ人ヲ死ニ致シタル場合ヲ論シタレハ今ヤ本法ハ決水罪ヲ犯シテ等シク人命ヲ害フタルモ住屋又ハ地

下ノ礦坑ヲ沈没セサル場合ヲ豫定ス扱テ斯ル場合ハ第四百五十六條ニ掲ケタル住屋又ハ地下ノ礦坑ノ荒廢ニ關セサル三事項ノ場合(即チ第二項第三項第四項)若クハ次ノ三ヶ條ニ定メタル場合ナルヘシ總テ是等ノ場合ニ於テハ最早法律ハ犯者カ人身ニ危險アルヲ豫知セリト推測セス且又犯者カ他人ノ生命ヲ輕シタリト思考セス故ニ犯者ニ於テ人身ニ危險アル旨ヲ豫知セリトノ直接ノ證據アルニアラサレハ之レヲ死刑ニ處セサルナリ而シテ其證據ナキニ於テハ之レヲ罰スルニ有期徒刑ヲ以テスル而已○斯クノ如ク有期徒刑ニ處スルヲ以テ人ヲ殺スノ意ナクシテ故意ヲ以テ人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル場合ノ刑ニ比スルニ更ラニ嚴格處分ヲ用ヰタルモノナリ(第二百三十四條參觀)然レトモ斯ク嚴格處分ヲ用ヰタルニハ道理上左ノ二箇ノ必要アルニ因レリ○第一死刑ヨリ減等スルヲ二級ニ止マリ其上ニ減スルヲ難シ何トナレハ第三百三十四條ニ於テモ人ヲ殺スノ意ナクシテ死ニ致セシ罪ノ本刑タル無期ノ徒刑ヲ減スルヲ唯二等ニ過キサレハナリ○又第二ニハ故意ヲ以テ決水罪ヲ犯シ人ノ住居セサル家屋ヲ毀壞セシキハ有期ノ徒刑ヲ以テ犯者ヲ罰シタリ然ラハ則チ之レト同一ノ原由ヲ有スル殺人罪ニシテ輕ク罰スルノヲハ吾人ノ會得スルヲ能ハサル所ナリ

又人ノ住居セサル建造物ヲ毀壞シテ人ヲ死ニ致サス唯之レヲ毀傷セシキハ故意ノ毆打創

傷ニ照シ重キニ從フテ處斷スヘシ是レ蓋シ決水罪ヲ犯シテ第四百五十六條ノ二并ニ第四百五十七條ヲ適用スヘキトシテ且人ノ身體ヲ重大ニ毀傷シ無期ノ癡疾ト爲シタル場合ニ施スヘキモノト知ルヘシ

第四百五十九條

〔第九百五十九號〕 本條ニ於テハ犯人ヲ監視ニ付スルヲ記シタリ是レ亦故意ヲ以テ犯ス所ノ決水罪ト放火罪トノ類似ヲ表スルモノナリ然レトモ本條ノ場合ニ於ケル監視ハ裁判所ノ權能ニ委テテ敢テ必行セヨト命シタルモノニアラス然ラハ放火罪ト決水罪トノ間ニ區別ヲ設ケタルモノナリ斯ク差異ヲ設ケタル所以ノモノハ第四百五十七條ニ於テ監視ヲ宣告スルト宣告セサルトハ裁判所ノ査定ニ委ヌルヲ要シタレハナリ加之又一方ヨリ論究セハ法律上第四百五十七條ノ場合ト他ノ數多ノ場合トニ區別ヲ設ケシカ如キハ事甚ク錯雜ニ涉リテ到底其宜シキヲ見ス故ニ唯該附加刑ヲ宣告スルニ差支ナキ旨ヲ示スヲ以テ足レリトス

第四百六十條

〔第九百六十號〕 疎虞又ハ規則ヲ遵守セサルニ因テ溢水シ人ニ損害ヲ及ホシタルキハ其犯人ヲ罰スルニ疎虞ニ因テ失火シタルキヨリ重クスルヲ得ス又輕クスルヲ得サルナリ

是ヲ以テ吾人ハ第四百五十四條ノ失火ノ例ニ照シ而シテ該條モ亦第三百五十三條及ヒ第
三百五十四條ニ照シテ處斷セリ

第九節 衝突、乗掛等ノ罪

人ヲ載セ
タル船舶

第四百六十一條

何人ト雖モ海

「ラード」ハ船舶ノ碇泊スル所ト雖モ少
港（「ポール」ハ船舶
ノ安全碇泊スル
所ニシテ四所大）ニ於テ衝突、乗掛又ハ其他放火、發爆外ノ有罪ノ起作ニ因リ人ノ住居シ
（住所ト爲
ナル所ヲ云フ）

又ハ人ヲ載セタル大船小船ヲ故ラニ滅失セシメタル者ハ船舶及ヒ其所載ノ價值ヲ見
積リタル貨物ノ過半、右犯者ニ屬セシキハ左ノ如ク罰ス

第一 人ニ何等ノ損傷ヲモ加ヘサリシキハ輕懲役

第二 一時ノ損傷ヲ加ヘシキハ重懲役

第三 無期ノ癡疾ニ至ラシメタルキハ有期ノ徒刑〇刑、第四百十五條參觀〇千八百五十

二年三月二十四日并ニ四月二十六日佛蘭西法律第八十九條第一項及ヒ第三項

刑ノ最高

第四百六十一條第二

（船舶又ハ其所載ノ過半ノ貨物犯者ニ屬セサリシキハ前條ニ掲ケタ
ル刑ノ最高點ヲ宣告ス可シ）

刑一等ノ
加重

（犯者右事變ノ際其船舶ノ指揮ヲ爲セシキ又ハ指揮ニ直接ノ干與ヲ爲セシキハ前條ノ刑ニ
一等ヲ加ヘテ處斷ス可シ）前項ニ述ヘタル佛蘭西法律第二項

死刑

何レノ場合ニ於テモ一名若クハ數名ノ死去カ船舶ノ滅失ヨリ直接ニ生ジ而シテ衝突又ハ乗
掛ニ關スル罪ノ既遂缺効又ハ未遂ナルキハ死刑ヲ宣告ス可シ（刑、第四百十五條〇同上第三

項）

人ヲ載セ
ザル船舶
ノ滅失

第四百六十二條

故サラニ滅失セシメタル船舶其事變ノ時ニ住人ナク且ツ人ヲ載セサリシ
ト雖モ其船舶他人ニ屬シ又ハ載貨ノ價額ノ過半他人ニ屬スルモノヲ包含セシキハ一年以上

四年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス（刑、第四百十六條）

（譯者曰ク本項ト次項ト致テ異ナル所ナキヲ以テ之ヲ考フルニ恐ラクハ印刷ノ際誤リテ第一項ニ「チートール」（水犯）ニ
屬スル云々トアルヘキヲ「チートリユイ」（他人ノ義）ニ屬ス云々ト植ヘタルモノナラン他日起草者ニ質シテ修正スルヲ
要ス）

刑ノ加重

船舶及ヒ其載貨ノ過半他人ニ屬セシキハ刑（前項ノ刑ニ）一等ヲ加フ而シテ犯人若シ其船舶
ノ指揮ヲ爲シ又ハ指揮ニ直接ノ干與ヲ爲セシ者ナレハ更ニ一等ヲ加フ可シ

未遂犯

〔該犯ノ未遂罪ハ罰スヘキモノトス〕

船舶ノ滅
失シタル
トハ如何
ナル場合
ヲ云フ乎

第四百六十二條第二（前條々ヲ適用スルニ際シ船舶衝突シテ他人ノ救助ヲ求ムルニアラ
サレハ決シテ航海ヲ繼續シ得サルカ又ハ船舶ノ乗掛ケタルニ因リ自力ノミヲ以テ浮フヲ
得サルキハ其船舶滅失シタルモノト看做スヘシ）

所有權ノ
他人ニア
ル物

第四百六十三條 犯人ニ屬スル船舶又ハ商品ト雖モ海上危害ニ付キ保險セラレタルカ又ハ

衝突、乗掛等ノ罪

之レニ第三ノ人カ書入質、動産質又ハ其他物上權ヲ有スルモノナルキハ之レヲ他人ニ屬スル物件ト看做ス可シ〔刑、零〕

過誤ニ因
レル船
ノ滅失

第四百六十四條 第四百五十四條ハ疎忽又ハ規則不遵守ニ因リ加ヘタル衝突又ハ乗掛ニ適用ス可シ〔刑、零〕

要旨

第四百六十一條及ヒ第四百六十一條第二

第九百六十一號 本節ニ掲クル犯罪ノ構造事實ニ付キ更ラニ加ヘタル區別ノ事

第九百六十二號 人ノ住居シ又ハ人ヲ包含スル船舶

第九百六十三號 乗組人ノ種々ノ損傷

第九百六十四號 船舶及ヒ其載貨ノ所有權ヨリ生スル影響

第九百六十五號 船舶ノ指揮者タル身分ヨリ生スル影響

第九百六十六號 一名若クハ數名ノ死去

第九百六十七號 人ノ住居スルヲ無ク且ツ人ヲ包含セサル船舶用所有權ニ關スル前同一ノ區別ニ未定記ヲ關スル事

第四百六十二條第二

第九百六十八號 本節ニ掲クル條例ヲ適用スルニ付キ船舶ノ滅失シタリト稱スルハ何ナル場合ナルヤヲ論ス

第四百六十三條

第九百六十九號 船舶又ハ載貨ノ犯人ニ屬スルキト雖モ他人ニ屬スルモノト看做スヘキハ如何ナル場合ナル乎

第四百六十三條第二

第九百七十號 監視

第四百六十四條

第九百七十一號 疎忽ニ因レル衝突又ハ乗掛ノ一

第四百六十一條及ヒ第四百六十一條ノ二

〔第九百六十一號〕 舊草案ニハ船舶ヲ衝突シ及ヒ覆沒スルノ罪ニ關シテ殊ニ今吾人ノ本節ニ説明スル如ク充分ニ之レヲ説明セサリシナリ而シテ吾人ノ本節ニ於テ更ニ詳細ニ之レヲ説明スルモノハ決シテ該罪ノ大ニ恐ルヘキモノタリト信シタルニ基因スルニアラスシテ唯本節ノ諸條例ヲ以テ前二節（即チ第七節及ヒ第八節）ト調和セシメンカ爲メナリ蓋シ若シ刑ノ階級

衝突、乗掛等ノ罪

ヲ定ムルニ社會及ヒ道德ノ害惡ノ階級程度ヲ遵奉セサルキハ法律ハ或ハ其目的ヲ達セサルヘク或ハ其目的ヲ越ヘテ處斷スルノ恐レアルヘケレハナリ

〔附言〕 本節ニ於テモ亦頒布法典ハ草案ニ豫定スル所ヲ増加スルニ非スシテ却テ之レヲ廢止スルヲ多シ

本節ニ豫定セル犯罪ノ主タル構造事實ハ故意ヲ以テ大小船舶ヲ滅失スルヲナリ而シテ第四百六十二條ノ二ニ於テハ或ル重大ノ毀損ニシテ全部ノ滅失ト同視シタルモノヲ指定ス蓋シ斯ク同視シタルハ全ク是等ノ毀損ニシテ他ヨリ救助ヲ蒙ラサル以上ハ自カラ全部ノ滅失トナルヘキ程ノモノナレハナリ然レトモ斯ク同視スルニ付テハ尙ホ犯罪ノ手段カ第七節ニ豫定シタル放火又ハ破裂ニ非サル他ノ有罪ナル企計ニ屬スルヲ要ス即チ此企計トハ船舶ヲ相衝突セシメ又ハ船舶ヲ覆没シ又ハ之レヲ暗礁、砂地ニ乗掛ケ及ヒ其他總テ之レヲ流失覆没セシメントスル有罪ノ所爲ナリ又犯罪ノ場所即チ大洋若クハ港灣モ亦該構造ノ事實ナリ何トナレハ危險ノ甚ダシキハ獨リ此等ノ場所ナルヲ以テナリ

本邦ニ於テ若シ清國、米國及ヒ歐洲二三邦國ノ如キ大河ノ在ルアラハ或ハ河川ニ於ケル船舶ノ滅失ニ就テ論スル所アルヘシト雖モ然レテ流水中ニ船舶ノ覆没スルハ其危險少クナルヘキヲ以テ爲メニ法律ヲ設ケルノ要ナカルヘシ故ニ唯河川ニ於テ衝突又ハ沈没手段

ニ因リ故意ヲ以テ船舶ヲ毀損スルキハ故意ヲ以テ他人ノ財產ヲ毀壞スル罪(次節參照)又ハ既ニ吾人ノ豫定シテ罰セシ所ノ身體ニ對スル犯罪ニ關スル普通法ヲ適用スルヲ以テ足レリトス

〔第九百六十二號〕 本節第一ニ設ケタル區別ハ(既ニ舊草案ニモ存在セリ)人ノ乗込ミタル船舶ト乗込マサル船舶トニ在リ○其人ノ乗込ミタル船舶ハ人ノ死去スル危險アルヲ明瞭ナリト雖モ人ノ乗込マサル船舶ハ唯財產ニ關スル危險アル而已

船舶ニシテ眞ノ住家ト爲シタルモノ又ハ唯住居ニ供シタルモノ又ハ航海ノ用ニ供シタルモノナルヲハ左程必要ニアラス唯其必要トスルモノハ故意ヲ以テ船舶ヲ毀壞シタル時ニ犯人外ノ者如何ナル名義ニ因ルモ其船中ニ現存スルニ在リ詳言セハ唯其現存スルヲ以テ足レリトス例ヘハ甲地ヨリ乙地ヘ行カンカ爲メ若干時間乗船スル者税關ノ役員又ハ報酬金ヲ受ケテ使役セラレテ港灣ニ碇泊スル船中ニ乗込ム者等ノ如シ

又之レニ反シテ其衝突又ハ覆没ノ害ヲ蒙リタル船舶人ノ住居ニ供セシモノナルキハ假令ヒ其事變ニ遭遇スルハ人皆ナ上陸セシ後ナルトモ常ニ人ノ乗込ミ居ルモノト看做ス勿論ナリ實ニ船ヲ以テ眞ノ住居ト定メス又住居ニ供シタルニアラスシテ唯偶然之レニ乗込ム者アルキハ則チ本法ハ犯者ヲ罰スルニ嚴刑ヲ用非テ人身保護ノ點ニ就テハ放火罪及ヒ

決水罪ノ事項ヨリモ嚴格ヲ守リタリ此ノ如ク偶然ニ人ノ現存スル場合ナリト雖モ已ニ其現存スルノ一事ヲ以テ嚴刑ニ處スルニ足レリト爲ス以上ハ船舶カ人ノ住居ニ供シタルモノナルキニ實際人ノ乘込ムヲ要ストスルハ是レ偶然ニ人ノ乘船スル場合ヨリモ輕ロク罰スルモノナリ豈ニ斯ノ如キノ理アラフヤ故ニ其住居ニ供シタル場合ニ於テモ等シク嚴格ニ罰シタリ○勿論是等ノ論點ニ付キ生スル所ノ疑團ヲ釋然タラシメンカ爲メ詳カニ之レヲ法文ニ記載セシナリ

凡ソ人ヲ乘載スル船舶ハ概テ貨物商品ヲ積込ムモノナリ○故ニ是等ノ物件ノ犯人ニ屬スルト屬セサルトノ場合ヲ區別スルヲ要ス加之其一部犯人ニ屬シテ他ノ一部ハ之レニ屬セサルモノタルコアルカ故ニ何レノ部分ニ最モ廣大ナル權利アルヤヲ斟酌セズンハアルヘカラス但シ其權利ハ分量ヲ以テ之レヲ定メス價額ヲ以テ之レヲ定メタルモノナルコトハ尙ホ法文ニモ記載セシ所ノ如シ

又船舶ノ所有權ニ關スル問題ハ最モ重要ナリ而シテ該問題ハ放火罪及ヒ決水罪ノ事項ニ於ケルカ如ク犯者ニ對シ最モ嚴格ヲ旨トスル意義ヲ以テ決定スルコトヲ要シ若シ第三ノ人ニシテ犯人ト共ニ船舶ノ共同所有者ナルキハ其所有權アル部分ハ何程些少ナルモ吾人ハ其犯者ヲ處斷スルニ故意ヲ以テ他人ノ船舶ヲ滅失シタル罪ノ刑ヲ以テスヘシ(第四百五十八

十三條ヲ參觀シ并セテ第四百五十條ト比較スヘシ)

〔第九百六十三號〕 本法ハ人身ニ影響ヲ及ボスヘキ實際ノ害惡ヲ先ニシテ論ジ詳言セハ多少人身ニ蒙ラシメタル危難ヲ豫定シ之レヲ以テ刑罰ノ第一ノ階級ト定メタリ即チ犯罪ニ因テ毫モ人ノ身體ヲ毀傷セサリシキハ輕懲役、一時ノ毀傷ヲ致セシキハ重懲役、終身ノ癡疾ト爲セシキハ有期ノ徒刑ヲ以テ犯者ヲ罰シタル斯ル處斷ハ故意ヲ以テスル毆打創傷ニ關スル普通法ヨリモ大ニ嚴酷ナルコト勿論ナリ(第三百三十五條以下參觀)是レ既ニ前ニ論述セシ如ク法律ヲシテ威力ノ寡キモノ又ハ苛酷ニ過クルモノト駁撃ヲ受ケサラシムル様ニ勤ムルニハ道德及ヒ社會ノ害惡ノ諸等級ヲ措テ問ハサルヲ得スシテ本條ノ場合ノ如キハ乃チ身體ノ毀傷アルノ外船舶ノ滅失タル經濟上ノ害惡アレハナリ

〔第九百六十四號〕 又本條ニ於テハ船舶ト其所載ノ貨物トヲ問ハス總テ他人ノ所有權ヲ害スルコトヲ斟酌スルヲ要シ犯者船舶ノ全部(アンチエール)ノ所有權ヲ有セサルノミナラス價額ヲ見積リタル貨物ノ少ナクモ半ハ(モワチエール)ノ所有權(附言)ヲ有セサルキハ以上述フル所ノ刑ヲ加重シ之レヲ最高點ニ至ラシメテ犯者ニ科スルモノナリ

(附言) 抑モ本條ニ於テ船舶ノ所有權ト其所載ノ貨物ノ所有權トノ中何レカ犯者ノ有セサル場合ト其兩所有權共ニ犯者ノ有セサル場合トヲ區別セサルモノハ道理ヲ嚴重ニ

衝突、乗掛等ノ罪

守リタルニアラスシテ唯簡易ヲ主トシタルニ在リ○併シ第四百六十二條ニ於テハ右兩
場合ノ區別ヲ斟酌スルヲ得ヘシ何トナレハ唯輕罪ノ刑ニ過キササルヲ以テ其四分一ヲ重
クスルモ爲メニ非常ノ嚴刑ニ至ラサルヘケレハナリ

〔第九百六十五號〕 第四百六十一條ニ掲ケタル刑ヲ眞實一等加重スルハ犯者カ船舶ノ指揮
官又ハ船長ナリシキカ若クハ其滅失ノ時指揮ニ直接ノ干與ヲ爲シ例ヘハ該船舶ノ「オフ
ヒシエー、ド、カール」(松船ノ役員中順番ヲ立テ他ノ者ノ)又ハ「ヒロット」(水先案内)若クハ器械方或
ハ水先案内者ノ指揮ヲ受ケテ舵楫ノ運行ヲ支配スル者ノ身分ヲ以テ船長ノ補助ヲ爲セシ
キニ限レリ○此規則ハ嚴格ノ點ニ於テハ吾人ノ會得スルカ如ク彼ノ惡意ヲ以テ己レニ委
任セラレタル船舶ヲ曲取シ又ハ毀壞スル所ノ船長ノ背信罪トハ大ニ異ナレリ即チ第四百
四十條ハ「船舶衝突又ハ覆没ノ場合」ヲ貯存シテ之ニ該條ヲ適用セサル旨ヲ記セリ而シテ
此貯存セシ場合中ニハ船長カ故意ヲ以テ船舶ヲ毀壞スル他ノ場合ヲモ含蓄セシムルヲ要
ス

〔附言〕 右第四百四十條ニ船長欺計ヲ以テ其委託セラレタル船舶ヲ損壞(デトリイ)〇〇〇〇〇〇

(譯者曰正條ノ譯文ニ損壞云々ト記シタルヲ以テ見レハ松ノ一部ヲ毀傷シタルノ意義ニモ解スルヲ得レドモ原文ノ
「デトリイ」ノ意義ニ因レハ全ク毀壞シ打崩スルト會得スヘキナリ而シテ起原者ハ斯ク全ク打崩ストノ意ニテ記
シタルニアラサルナカ放ニ社)シト記シタルハ注意ノ至ラキリシモノナリ故ニ此「デトリイ」

ノ文字ヲ刪除スルヲ要ス此點ニ於テハ同條ノ註解ハ法文ヨリモ一層正當ナリト謂フヘ
シ(第四百四十條ノ註解第九百十八號參觀)

〔第九百六十六號〕 船舶ノ滅失ニ因リ直チニ一名若クハ數名ノ人ヲ死ニ致シタル場合ヲ論
究シ以テ本條ノ註解ヲ終ラントス扱テ本法ハ斯ル重罪ニ關シテハ死刑宣告ヲ排除スルヲ
ヲ得ス蓋シ犯罪ニ因リ人ヲ死ニ致サ、ルノ場合ニ於テモ既ニ無期徒刑ヲ宣告シタルカ故
ナリ加之本法ハ人ヲ死ニ致シタルノミナラス船舶モ共ニ滅失シタル場合ニアラサレハ死
刑ヲ宣告セサルモノナリト信スル者或ハ之レアルヤナ慮リタルニ因リ乃チ人ノ死亡ヲ釀
生シタル場合ニ於テハ假令ヒ故意ヲ以テスル衝突又ハ覆没スルノ罪ニシテ唯未遂犯若ク
ハ關効犯ニ過キサリシキ即チ船舶ノ滅失セサリシキト雖モ亦其犯罪ノ結果ハ人身ヲ害シ
タルカ故ニ常ニ死刑ヲ惹起スヘシト掲グルノ注意ヲ取レリ

第四百六十二條

〔第九百六十七號〕 凡ソ海若クハ港灣ニ碇泊スル船舶ヲ故意ヲ以テ滅失セシメタル時ニ其
犯者ノ外ニ何人モ乗船セサリシコハ甚タ希ナル場合ナラシ然レトモ吾人ハ彼ノ釣船ニシ
テ港灣ニ碇泊セス亦港灣ヨリ離去セサルモノヲ想像スヘシ
若シ人ノ乗込マサル船舶カ犯者ニ屬シ且所載ノ貨物ナキハ其貨物ノ大半犯者ニ屬セシ

衝突、乗掛等ノ罪

此ハ該船ヲ滅失セシメタルカ爲メ多少ノ損失ヲ蒙リタル者ニ償金ヲ與フヘキノ外毫モ犯者ニ宣告スヘキノ刑ナシ斯ク自己ノ所有品ヲ毀壞滅失スルノ所爲ハ惡心ヲ懷ク者ノ所爲ト云ハソヨリ寧ロ瘋癲人ノ所爲ト謂ツヘシ○其レ然リ然レトモ若シ其船舶若クハ所載ノ貨物ノ大半他人ニ屬セシキハ犯者ハ輕罪ノ刑ニ處セラル、モノナリ而シテ若シ其船舶及ヒ貨物ノ所有權悉ク他人ニアルキハ刑一等等ヲ増加シ又犯者其船舶ヲ指揮セシキ又ハ指揮ニ直接干與セシキハ更ラニ又一等ヲ加重スヘキナリ

前條ハ重罪ノ刑ニ關スト雖モ本條ハ最早唯輕罪ノ刑ニ關スルニ過キサルカ故ニ本法該輕罪ノ未遂犯ノコト記シタリ而シテ之レヲ罰スヘシト定メタルハ當然ノコトナリ

第四百六十二條ノ二

〔第九百六十八號〕 故意ヲ以テ物件ヲ毀壞スル罪ヲ罰スル條例中本法ハ屢々物件全部ノ滅盡ト其一部ノ滅盡トナ同視スルコトアリ然レトモ本條ニ於テハ斯ル例文ヲ認許スルコト難シ何トナレハ船舶全部ノ毀壞トシテ罰スルニ足ルヘキ重劇ナル一部ノ毀壞トハ如何ナル限度ナルヤヲ確定スルコト難ケレハナリ○是ヲ以テ吾人ハ刑罰ヲ定ムルニ航行ノ保護ニ要スル所ノ限度ヲ以テスルヲ要スト信セリ是レ蓋シ法律ノ精神ニ背反セサルモノトス

沈没シタル船舶ニ付テハ全部又ハ一部ノ毀壞ニ關スル問題起ラサルヘシ何トナレハ假令

ヒ沈没後多少ノ時日ヲ經テ且多費ヲ要シテ波上ニ浮フコト得ルニ至ルヘキモ斷然該船ヲ滅失セシモノト看做スヘキナリ然レトモ衝突シタル船舶又ハ乗掛ケタル船舶ニ就テハ外人ノ救助ヲ受クルニアラサレハ航行ヲ繼續シ得サルカ又ハ波上ニ浮フコト得サルキニアラサレハ犯人ノ所爲ニ因テ滅失セシモノト看做スヘカラス故ニ此場合ニ於テハ假令引續テ外人ノ救助ヲ受ケテ航行シ得タルノ時ト雖モ亦宜シク其船舶ハ滅失セリト看做スコト得ヘシ而シテ此場合ヲ以テ闕効犯ノ場合ト云フヘカラス何トナレハ是レ眞ニ犯罪ヲ遂ク終リタルモノニシテ恰モ彼ノ物件ヲ竊取セシ後チニ更ニ本人ノ掌中ニ復歸シタリト雖モ是レヲ以テ既遂ノ盜罪犯ト稱スルト一般ナリ

船舶衝突罪ニ關シテハ滅失シタル船舶ハ犯者ノ毀壞セント欲セシモノニアラサルキト雖モ總テ本節ニ掲載スル刑罰ヲ以テ其犯者ニ適用ス可シ是レ吾人ノ注視スヘキモノトス何トナレハ他ヨリ衝突ヲ受クル船舶ノミ常ニ最モ損害ヲ蒙ルモノト定マリタルニ非ス加之既ニ有罪ノ意思ヲ心裡ニ懷キシ以上ハ之レニ刑罰ヲ附スルカ爲メニハ其意思カ實際ノ害惡ヲ醸生シテ其害惡ハ犯者ノ企圖セシ外ノモノタリト雖モ唯其害惡ヲ生セシコト以テ足レリトス而シテ其害惡タル本節ニ掲グルモノヨリ更ラニ重大ナルコトアリ果シテ然ルキハ犯人ヲ罰スルニ第三百三十三條ヲ以テスヘキナリ

第四百六十三條

〔第九百六十九號〕 本法ハ盜罪又ハ放火罪(第四百一十一條及ヒ第四百五十條參觀)ノ事項ニ於テ既ニ(他人ノ物件)シヨーズ、ドートリコイナル語辭ノ非常ニ廣大ナル意味アルヲ決定メタリ而シテ茲ニモ亦船舶若クハ所載ノ貨物ヲ以テ目的物ト爲セシ所ノ書入質、動産質及ヒ海上保險ニ關シテ同様ノ條例ヲ再出シタルモノナリ

第四百六十三條ノ二

(譯者曰ク正條中ニモ亦改正ノ部中ニモ第四百六十三條ノ二ナル箇條アルヲ見ズ他日起草者ニ就テ買サントス然レモ今註解ニ據リテ之レヲ考フルニ本節ニ掲ケタル犯者ヲ監視ニ付スベシトノ本文ナラン乎)

〔第九百七十號〕 本節ニ豫定シタル犯罪ハ輕罪ノ刑ヲ以テ罰スルニ過キスト雖モ已ニ其罪ヲ犯シタルヲ以テ觀レハ犯者ノ心裡ニハ同様又ハ異ナレル罪科ヲ復ヒ犯スヘキノ傾向アリト認メシムルモノトス是レヲ以テ犯者ヲ監視ニ附スルハ必要ナル豫防ノ處置ニシテ茲ニハ裁判所ニ之レヲ命令スルモノナリ

第四百六十四條

〔第九百七十一號〕 船舶衝突又ハ覆没ハ有罪ノ意思ニ因スルヨリモ疎虞懈怠ニ因スルヲ尙ホ數々ナリ而シテ此場合ニ於テモ亦假令ヒ人ノ死傷ナキモ其犯者ヲ罰セスンハアルヘカラス何トナレハ法律ヲ以テ疎虞ニ因スル衝突又ハ覆没罪ヲ罰スルノ明文及ヒ慣例ヲ設ク

ルキハ船長法律ニ觸レゾチ恐レテ益々其本分ヲ盡クシ自無人命ノ安全ヲ擔保スヘケレハナリ○茲ニ定メタル輕罪ノ刑及ヒ民事上ノ賠償アルノ外ニ尙ホ航行ニ關スル特別規則ニ據リ懲戒處分ヲ以テ一時船長タルノ免許狀ヲ失フヘキ旨ヲ宣告スルヲアルヘシ又本邦ノ規則ト國際法トヲ問ハス凡テ海上規則ノ遵守ヲ以テ疎虞ト同視スヘキハ勿論ノヲナリ而シテ此ノ如キ條例ハ殊更船舶衝突ノ害ヲ未然ニ防クノ處置ト云フ可シ

第十節 他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

他人ノ建築物ノ毀壞及ヒ破損 第四百六十五條 人ノ住居スルト否ラサルトヲ問ハス放火及ヒ溢水外ノ手段ヲ以テ故ラニ他人ニ屬スル家屋又ハ建築物ヲ毀壞又ハ破損セシメタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮及ヒ三圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第四百十七條)

所有地ノ境界 第四百六十六條 何人ニ屬スルヲ問ハス所有地ノ境界ノ外部ノ標示ノ全部又ハ一部ヲ惡意ニテ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮及ヒ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第四百二十條)

加重 隣人境界ノ變更ニ付キ利益セントノ目的ヲ以テ右輕罪ヲ犯セシキハ刑一等ヲ加重ス可シ(刑、零〇佛刑、第四百五十六條)

家屋ノ附屬物、生籬、橋、工 第四百六十七條 家屋ノ附屬物、支柱、足場又ハ裝飾物、中庭、花園又ハ田地ニ存スル生籬又ハ他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

柵、橋、堆地、溝梁又ハ其他土地ニ附着スル工業物ヲ故ラニ毀壞、破損又ハ卑惡（テララディトハ外ニ至ラシムルニ過キズト雖モ、テアリナレ）ニ至ラシメ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮及ヒ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス（刑、第四百十八條）

根ニ據リテ地上ニ附着スル有益ナル生産物（土地ヨリ離レザルモノヲ云フ）ヲ故ラニ毀壞又ハ破損セシメタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮及ヒ貳圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

樹木矮樹 他人ニ屬スル樹木又ハ其支持物、矮樹又ハ竹ヲ毀壞又ハ破損セシメタル者モ亦前項ト同一ノ刑ニ處ス但シ森林法ニ定メタル特別規則ト牴觸スヘカラス（刑、第四百十九條）佛蘭西刑法第四百四十四條乃至第四百五十條○同森林法第百八十二條以下

船舶、農具及ヒ工 械、農業又ハ工業ノ用ニ供スル欄柵、守舎又ハニアブリ（小舎ノ類）ヲ故ラニ毀壞又ハ破損セシメ以テ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮及ヒ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス（刑、第四百二十一條）佛刑、第四百四十三條、第四百五十一條

飲食品、商品、動産物 第四百七十條 總テ他人ニ屬スル飲食品、商品又ハ或ル動産物ヲ故ラニ毀壞シ又ハ使用シ得サラシムル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮及ヒ貳圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス（刑、第四百二十一條）

馬種牛種 第四百七十一條 自己ノ爲メ又ハ他人ノ爲メニ重大ナル危險ヲ避クルノ必要ナクシテ故ラニ他人ニ屬スル馬種、牛種又ハ羊種ノ獸類ノ一又ハ數多ニ死又ハ重傷ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮及ヒ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス（刑、第四百二十二條）佛刑、第四百五十二條乃至第四百五十五條

其他ノ獸 第四百七十二條 前條ト同一ノ景狀ニ於テ故意ニ且ツ必要ナクシテ前條ニ掲クル外ノ家畜ノ獸類ヲ死ニ致シ又ハ重傷ヲ加ヘタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ

告訴 本條ニ豫定シタル輕罪ノ起訴ハ被害者ノ告訴アルニアラサレハ生セス（但シ其罰スヘキ所爲ヲ公然ニ爲サ、ルキハ此限ニ在ラス）刑、第四百二十三條○千八百五十年七月二日及ヒ九日ノ佛法

人ヲ死傷ニ致ス事 第四百七十二條第二 既遂、未遂又ハ缺効ナルヲ問ハス前條々ニ豫定シタル所爲ニ因リ直接ニ人ヲ死又ハ傷ニ致セシキハ假令ヒ犯者ノ故意ニ出テサルモ此等ノ危害ヲ豫見スルヲ得タリシ場合ニ於テハ第三百三十四條以下ニ照準シ故意ノ毆打創傷ニ關スル普通ノ刑ヲ適用シテ其一等ヲ減輕ス可シ（刑、第四百十七條參觀）

減輕ノ刑一等ノ死傷ニ致スヘキ事 他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

ヲ豫見シ
得サル場
合附輕罪
ノ刑

死ニ至ラシメタルハ二年以上五年以下ノ重禁錮及ヒ貳拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
無期ノ癘疾ニ至ラシメタルハ一年以上三年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上三拾圓以下ノ罰金
ニ處ス

疾病又ハ勞働シ能ハサラシメタルハ一月以上一年以下ノ重禁錮及ヒ五圓以上貳拾圓以下
ノ罰金ニ處ス

證書ノ正
本

第四百七十三條 何人ト雖モ利益又ハ惡意ニテ他人ニ屬スル所有權又ハ總テ其他ノ物上權
若クハ義務、義務皆濟又ハ義務解免ヲ證明スル證書ノ正本ヲ故ラニ毀壞シ又ハ使用シ能ハ
サラシメタル者ハ二月以上五年以下ノ重禁錮及ヒ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第
四百二十四條○佛刑、第四百三十九條)

副本

前條ニ掲ケタル證書、書翰、備忘録、計算書又ハ其他總テ他人ニ有益ナル書類ヲ毀壞シ又ハ使
用シ能ハサラシメタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮及ヒ貳圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ
處ス(刑、零)

加重

證書ノ毀壞又ハ破損ヲ蒙リタル者ノ從者、番頭又ハ手代并ニ總テ其書類ノ受托者ニ對シテ
ハ刑一等ヲ加フ(刑、零)

身分證書

第四百七十三條第二 身分證書ノ正本ヲ保存スル任アル公ケノ官吏ノ掌中ニ該證書ノ附托

アリタル後ヲ故ラニ之レヲ毀壞シ又ハ使用シ能ハサラシメタル一切ノ常人ハ輕懲役ニ處ス
可シ

若シ犯者右ノ官吏ナルカ又ハ其屬員中ノ者ニシテ該職掌ヲ帶フル者ナルハ重懲役ニ處ス
可シ(佛刑、第四百二十九條)

要旨

第九百七十二號 本節ノ區別並ニ順序

第四百六十五條

第九百七十三號 家屋ノ滅盡又ハ破壞附損害ノ輕重懸隔スルニ從テ刑ノ最輕ト最重トニ

懸隔アル事

第四百六十六條

第九百七十四號 經界標ヲ毀壞又ハ之ヲ移植シタル所爲ノ危險ナル事

第九百七十五號 之ヲ罰スルニ惡意ノアルヲ要スル事

第九百七十六號 隣佑ノ經界標ヲ破壞又ハ移植シタル者ノ刑ヲ加重スル事

第四百六十七條

他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

第九百七十七號 家屋ノ附屬裝飾田園池沼ノ樊圍

第四百六十八條

第九百七十八號 稼穡樹木其他ノ植物

第四百六十九條及第四百七十條

第九百七十九號 船舶農具工具食料商品其他ノ動産

第四百七十一條及第四百七十二條

第九百八十號 牛馬及ヒ家畜

第九百八十一號 其他ノ動物○公ケニ犯ス場合ノ外其被害者ノ告訴ヲ待テ之カ起訴ヲ爲

スノ必要ナル事

第四百七十二條ノ二

第九百八十二號 因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ハ犯人ニ其死傷ノ逆メ賭ラレシヤ否ニ從

テ普通殺傷ノ刑ニ輕重ヲ來ス可シ

第九百八十三號 其逆シメ賭ラレ得ルヤ否ノ證據ヲ舉ルノ困難ナル事

第九百八十四號 新クニ本條ヲ設クル所以ノ要略

第九百八十五號 犯人ノ意ニ出テヤル殺傷ニ關シ更ニ附條ヲ置クノ必要ナル事

第四百七十三條

第九百八十六號 人ノ權利義務ニ關スル書類ノ原本又ハ謄本ヲ毀壞滅盡シタル罪附加重

ノ情狀

第四百七十三條ノ二

第九百八十七號 身上證書ヲ毀棄滅盡スルノ罪

第九百八十八號 本條ノ監視ヲ附加セス亦タ犯ノ未遂犯ヲ問ハサル所以

第九百八十九號 公有物又ハ官有物ニ對スル犯罪ハ官有物財産ニ對スル罪ノ各本條ニ照

ス事

〔第九百七十二號〕 本節モ亦人民ノ所有ニ係ル財産ニ對スルノ重罪輕罪ニシテ種類頗ル多

シト雖モ大抵情ノ輕キ者許多ナリ併身上證書ヲ破毀スル件ニ就テハ尙ホ重罪ノ刑ヲ見ル

不動産ヲ破毀滅盡スルノ罪ハ載セテ第四百六十五條乃至第四百六十八條ニアリ動産及ヒ

證書類ヲ破毀滅盡スルノ罪ハ第四百六十九條以下ニ記載セラル

凡テ如何ナル場合ニ於テモ被害ノ財産ハ他人ノ所有ニ屬スル者トシテ定メラル

余ハ今少ク舊案ノ順序ヲ變シ最終ニ本節中至重ノ罪乃チ證書破壞ノ罪ヲ記載スルナリ

然レモ本節中最モ注意ヲ要スヘキ者ハ財産ニ對スル罪ヲ犯シタルニ因リ誤テ他人ヲ殺傷

他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

シタル場合ヲ記載スル條ナリ此ノ條ハ古今未ダ嘗テ有ラサルノ法條ニシテ舊草案ニ於ルモ亦外國ノ刑法ニ於ルモ均シク法ノ缺典ナリシニ因リ余今之ヲ以テ此缺典ヲ補フナリ
(第四百七十二條ノ二參看)

第四百六十五條

(第九百七十三號) 本條ハ人ノ住居スルト否トナ分タス人ノ家屋ヲ破毀損壞スル罪ヲ定ム而シテ之ヲ毀壞破損シタル手段ハ必ス放火及ヒ洪水ノ外ナル可シ何トナレハ放火及ヒ洪水ハ別ニ自ラ嚴重ニ處斷セラル、アリ此ノ事茲ニ明記セラレスト雖モ當ニ已下數條ヲ通覽スルキハ自ラ判然タル可シ

毀壞若クハ破損ノ所爲ハ必ス犯人ノ故意ニ出ルヲ要ス若シ否ラスシテ犯人ノ不注意又ハ疎漏ニ因ルトキハ人ノ身體ヲ毀傷シタルニ非レハ唯タ民事上ノ損害賠償アルノミ
建造物ノ實害ハ極メテ微少ナルコトアリ或ハ極メテ重大ナルコトアリ其構造ニ從テ自ラ輕重アリ矮屋茅家ハ修復ニ便易ナリト雖モ大廈高閣例ヘハ公私ノ寺院、廟社、古堂ノ如キハ之ヲ保維スル莫大ノ費用ヲ要スルモノナリ然レモ本條ハ其他ノ章節ニ許多ノ區別ヲ爲スカ如ク若カク區別ヲ爲サ、ルナリ是レ夫ノ毀壞破損物ト及ヒ犯罪ノ手段犯罪ノ時又ハ情狀トニ關シ細別條分スル外國刑法ト最モ趣キ異ニスル所ナリ故ニ本條ハ唯タ禁錮及ヒ

罰金ノ最少數ト最大數トノ間ニ至大無比ノ間隔ヲ設ケタリ即チ一月以上五年以下ノ禁錮ニ四圓以上五拾圓以下ノ罰金トセリ(附言參看)

(附言) 余ハ茲ニ極端ニ驚セテ最短期ヲ禁錮十一日罰金貳圓以上トシ最長期ヲ禁錮五年罰金五拾圓以下トスルコトヲ敢テセス然レモ次回ノ改正ニ於テハ一ニ之ヲ裁判官ノ明斷ニ委シ斟酌輕重セシムルハ余ノ最モ満足スル所ナリ

余カ上卷第七六號ニ論セシ如ク尙ホ今日ニ在テモ此ノ刑法中一ノ輕罪ノ爲メ十一日以上五年以下ノ禁錮ノ例ヲ未ダ曾テ見スト云フ説ヲ主張スルヲ得ヘシ

第四百六十六條

(第九百七十四號) 田畑土地ノ經界ヲ指示スル標識ヲ毀壞又ハ移轉シテ多少ノ日月間露顯セサルトキハ占有ノ權ヲ喪ヒ(附言參看) 所有權ヲ害セラルノミナラス或ハ期滿特權ノ時期經過スレハ全ク他人ノ所有ニ歸スルコトアル可シ凡ソ何レノ場合ニ於テモ正當ノ所有者入額所得人又ハ小作人ノ如キ占有者ハ殆ント以前ノ經界ニ包含セル一部分ノ土地ノ所得ヲ失フコトヲ免レサル可シ

(附言) 占有ノ權及ヒ其期限其他ノ占有權ヲ行フノ條件ハ民法草案ヲ參看ス可シ(第二百十二條及ヒ其次)

他人ノ財產ノ毀壞及ヒ破損

〔第九百七十五號〕 經界ヲ侵スノ所爲犯人ノ故意ニ出テタルノミニテハ未タ以テ刑ヲ施ス
 ニ足ラス本條ノ殊ニ希望スル所ハ其所爲ノ奸惡ナルニアリ故ニ正當ノ所有者又ハ占有者
 ニシテ意外ノ異變又ハ不取締ニ因リ經界ノ推移シタルモノト確信シ標木ヲ移轉シタルハ
 完ク之ヲ正フシ又ハ自ラ不正ノ害ヲ回復スルノ目的ニ外ナラサルトキハ奸曲ノ蹟絶テ有
 ルコトナシ斯ノ如キ場合ニハ其經界標ヲ移シタル者モ固ヨリ其自ラ正當ノ所爲ト信スル
 所ノ所爲ナリシコトヲ明言スヘケレハ經界標ニ利害ノ關係アル者ニ於テモ侵竊ヲ受クル
 ノ危険鮮ナカル可シ素ヨリ最初自ラ經界標ヲ移スコトヲ爲サスシテ經界ノ訴ヲ法衙ニ出
 シテ至當ノ裁判ヲ仰クノ優レルニ如カサルハ亦言フチ俟タスト雖モ刑法ハ人間行爲凡百
 ノ宜シカラサル者ヲ一々問フ者ニ非ス畢竟心術ノ惡ヲ問フテ其非ヲ譴ムル者ナリ

〔第九百七十六號〕 經界標ヲ移スノ犯人ハ殆ント隣接ノ人ヲ常トス何トレハ之ヲ移シテ利
 ヲ得或ハ後ニ至リ漸ク占有スル者ハ境ヲ接スル隣人ナルハ自然ノ理ナレハナリ故ニ刑法
 ハ殊ニ境界ヲ嚴守シテ互ニ或ハ敢テ侵スヲ莫ラシメンカ爲ニ隣人ニ對刑ノ一等ヲ加重シ
 タリ本件ニ就キテハ既ニ第四百十六條(第八六一號)ニ於テ陳セシ如ク夫ノ佛國刑法ノ境
 界ヲ移轉シテ所得ヲ盜奪シタル者ノ刑ヲ加重スルノ條ヲ採ラサル所以ヲ顧フ可シ夫レ經
 界標ヲ移シテ他人ノ財產ヲ竊ムノ所爲ハ自ラニ罪ニ分ル大抵此二者ノ間頗ル長キ時間ニ

依テ分ルコト最多シ且縱七經界標ヲ移スト雖モ同時ニ侵奪スルモ道理ニ於テ
 孰レノ罪ヲ加重スヘキヤヲ未タ知ル可ラス故ニ余カ情ニ起案セシ如ク(第百十二條ノ二
 及ヒ其次參看)唯タ數罪俱發ノ罪ハ一ノ重キニ從テ處斷スルノ法ヲ茲ニ適施スルノ更ニ
 善良ナルニ若カサルカ如シ加之ナラス本條ハ隣人其境界ヲ推移シテ利ヲ射ントスル者ニ
 對シ刑ヲ加重セリ本草案ハ此ニ就キ佛國刑法ヨリ更ニ一層嚴重スルモノト云ハサルヲ得
 ス何トナレハ隣人果シテ實ニ其利ヲ得タルト否トヲ問ハス唯其標木ヲ移シタル所爲ハ竊
 取ノ目的ニ出テタル蹟アルヲ以テ加重ノ理由トスレハナリ

第四百六十七條

〔第九百七十七號〕 本條ハ之ヲ舊草案ニ比スレハ更ニ完全ナリ亦又其註解敷衍ヲ要セス其
 ノ所犯ノ損害モ前二條ニ記スル場合ニ較フレハ一目シテ其輕微ナルヲ知ルヘキカ故ニ刑
 モ亦隨テ輕ク其最短期モ可及的卑低ニセリ
 本條ノ樊圍及ヒ柵欄ハ土地ノ境界ヲ爲サ、ル者ト知ルヘシ是レ前條ト重複ナカラシメン
 カ爲メナリ例ヘハ路傍ノ柵欄ニシテ經界標ヨリモ寧ロ樊圍トナル者或ハ田圃ノ内部ニ在
 リテ借人又ハ小作人其他耕耘ノ種類ヲ分ツタメニ植立スル者若クハ家畜ヲ入ル、ニ備フ
 ル者ト知ル可シ

他人ノ財產ノ毀壞及ヒ破損

第四百六十八條

〔第九百七十八號〕 法律ハ稼穡竹木植物ノ竊取ヲ防禁スルト同ク之ヲ毀壞スル者ニ對シ保護ヲ爲サ、ル可ラス然レモ之ニ適用スルノ刑ハ竊取ニ該ツルノ刑ニ比スレハ〔第四百十四條參看〕更ニ輕且寛ナリ蓋シ稼穡竹木植物ヲ毀壞スルノ罪ハ之ヲ竊取スル罪ニ比スレハ社會ノ危險モ少ク又惡ムヘキ情モ稀ニ且竊取ノ如ク屢ニスル者ニ非サレハナリ本條ハ佛國刑法（佛刑第四百四十五條乃至第四百四十八條同山林法第百九十二條及ヒ其次）ノ如ク伐截又ハ毀壞セラレタル樹木ノ數、性質、及ヒ其大小ニ關シ細別條分セサルナリ若夫レ日本モ歐米諸邦ノ制ニ倣ヒ森林ヲ保護ノ必要ニ應ジ制裁ヲ定ムルハ一ニ山林法（現時其起草中ナリ）ニ讓ル可キノミ

本條ノ保護ノ及フ所ハ小樹木ニ止マルカ故ニ若シ庭園裝飾ノ花卉草木ヲ毀棄スル者ニハ之ニ向テ唯民事上ノ損害賠償ヲ要求スルアルノミ

第四百六十九條及ヒ第四百七十條

〔第九百七十九號〕 本條ヨリ以下ハ乃チ動產ヲ破毀滅盡スルノ罪ナリ先ツ第一ニ物ノ保存一國ノ公益經濟ニ係リ併セテ人民ノ私益ニ關スル者船舶（航海又ハ海漁ニ使用スル船舶）
ハ第四百六十一條ニ記載シアレハ並ニ之ヲ除ク）及ヒ農業或ハ工業ニ使用スル器械其他

ノ物件等ナリ（附言參看）

〔附言〕 舊草案ニハ工業ノ器械ヲ言ハスシテ家具ヲ言ヘリ今之ヲ交換シ工業器械ヲ言テ家具ヲ言ハス以テ一層順序ノ整頓ヲ見ル可シ

而シテ家具ハ第四百七十條ノ總稱ニ包含スル者トナセリ

第二ニハ一般ニ他人ニ屬スル食料商品其他ノ動產ヲ毀壞シ又ハ用ユ可ラサルニ至ラシメタル者ヲ罰ス固ト是ノ以前ト以後トニ列舉スル者ヲ除クハ言ヲ俟テ知ラサルナリ抑モ法律ノ定語ヲ以テ事物ヲ總含包容スル者ハ他ノ條ニ於テ特殊ニ掲記ナキ諸ノ場合又ハ一定ノ性質ヲ網羅スルニアリテ個々別々ニ記載スルモノヲ含マザルナリ（格別ニ記載スル者ヲ除ク）（羅旬語）
本條ノ禁錮ノ最長期ハ六月ニシテ初メノ特別ナル場合ノ禁錮ハ三月ニ過キサリシコトヲ注意スヘシ其然ル所以ノ理由ハ本條ヲ貴重品又ハ莫大ノ商品ヲ破壞スル者ニ適用セシメシカ爲ナリ

第四百七十一條及第四百七十二條

〔第九百八十號〕 法律ハ殊ニ牛馬及ヒ家畜ノ竊取ヲ禁シ以テ其家畜所有者ヲ保護スルノ典ヲ設ケタルコトハ讀者ノ既ニ知ル所ナリ（第四百十五條參看）經濟上ノ道理ニ於テ此ノ有

他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

益ノ家畜ヲ殺傷スル者ヲ格別ニ禁シ以テ他ノ財産ヲ毀壞スル罪ヨリ更ニ重ク罰スルヲ要スルハ之ヲ竊取スルヲ禁スルノ理ト同シ唯之ヲ竊取スル者ノ刑ヨリ稍々輕カルヘキノミ本條ニ家畜ノ類ヲ一々枚舉スルモ有益ノコトニ非レハ今之ヲ避ケテ第四百十五條ニ記スル如ク馬牛羊ノ類(第八六〇號參看)ト云フ總稱ヲ下ス

此ノ類ノ家畜ヲ殺傷シタル者ヲ處スルハ必ス其殺傷故意ニ出ルノミナラス搏噬蹂躪等ノ危險ヲ避クルノ已ムヲ得サルニ出テスシテ之ヲ殺傷シタル場合ニ限ルハ固ヨリ自然ノ理ナリ

〔第九百八十一號〕 其他ノ獸類ニ關シテハ已ムヲ得サルノ必要ナク之ヲ殺傷シタル者ヲ論スルノ刑ハ唯罰金ニ止ルノミ

此ノ犯罪ニ就テ特ニ注意ヲ要スルモノアリ何ソヤ犯罪ノ度極メテ輕易ナルカ故ニ其證據ヲ舉ルモ亦困難ナリ故ニ之カ訴ヲ起ス者ハ官ニ非スシテ其被害者ナリ即チ起訴ハ被害者ノ告訴ヲ待ツヘキナリ

然レモ公ケニ之ヲ犯スノ場合ハ復通例ニ依ル可シ何トナレハ此ノ場合ニ在テハ獨リ證據ヲ舉ルノ困難檢察官ノ障礙ヲナサハルノミナラス意外ニ此ノ犯罪ヲ目撃シタル者ヲ喚驚セシメタル陳暴ノ所爲ヲ責ム可ケレハナリ

本條ハ千八百五十年七月二十九日ノ佛法ノ家畜ヲ暴虐シタルノ例ヲ參照シタルモノナリ

第四百七十二條ノ二

〔第九百八十二號〕 他人ノ財産ニ對スル罪ハ放火決水ノ罪ヨリ輕シト雖モ犯人ノ意ニ非スシテ因テ以テ人ヲ殺傷シタルノ場合ヲ特ニ豫メ定メ置クハ立法者ノ任ナルヘシ

是ノ困難ヲ說キシハ既ニ數回ニ及ヘリ(第百六十五號ノ三第六百七十四號第九百四十三號第九百五十六號及第九百六十六號)而シテ其論スル處事ニ從テ各宜キヲ異ニスト雖モ財産ニ對スル罪ヲ犯シ誤テ人ヲ殺傷シタル者ハ如何ナル場合ニ於テモ意外ノ過失ニ因リ人ヲ殺傷シタル者トシテ之ヲ恕スルヲ得ス何トナレハ其主因タル犯罪ノ事實タル社會ノ大害ナルノミナラス往々其心術ノ惡亦社會ノ害ノ深キニ減セス時ニ却テ焉ヨリ甚シキモノアレハナリ

犯人カ此殺傷ヲ豫メ賭ルヲ得ヘキト否トチ分ダス現ニ殺害又ハ有形若クハ無形ノ損害ヲ出現シタル者ニ對シ立法者ハ之ヲ不問ニ措クヲ得ス宜ク其罪ノ淺深ニ從テ重罪輕罪ノ刑ニ該ツ可キナリ此場合ニ在テハ犯人殺スノ意アラサルモ毆打創傷ニ因テ遂ニ死ヲ致シタル例ト及ヒ故意ニ出テタル損傷ノ例ヲ以テ處斷ス是レ不正ニ人ヲ拘留シタル場合(第三百六十二條)幼者又ハ老者ヲ遺棄スルノ場合(第三百九十一條)ニ於テ亦然リ(附言參看)其

他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

他ノ場合ニ於テハ輕罪ノ刑ヲ言渡スノミ例ヘハ脅迫ノ如キ是ナリ何トナレハ脅迫ニ因テ人ニ殺害ヲ生セントハ犯人ノ豫メ慮ル能ハサル處ナレハナリ及ヒ脅迫セスシテ婦人ノ承諾ニ因リ墮胎セシメタル場合はナリ(第三百七十一條)唯タ婦人ノ墮胎ヲ承諾シタルノ一事乃チ犯人ノ豫メ死傷ノアラフコトヲ察スル能ハサル所以ナリ

〔附言〕 夫ノ第二百七十七條ノ用水ヲ汚瀆シテ危害ヲ生シタル者及第三百十五條ノ囚人ニ對シ苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ヲモ亦此意ヲ以テ解釋ス可シ

然レハ其主タル事件ハ善良ナラサレハ亦罪ノ深キモノニ非ス固ヨリ財産ヲ毀壞滅盡スル犯人ニ於テ人ヲ殺害毀傷スルノ意ナキノミナラス最初罪ヲ犯スノ所爲ハ一意財産ニ對スルカ故ニ誤テ人ニ及ホシタルハ殆ト犯人意料ノ外ニ出テタル不意ノ椿事ナレハ其心術ノ惡ハ酷ク深カラサルナリ

財産ニ對シ罪ヲ犯シ之ヲ人身ニ及ホシタル殺傷ト尋常普通ノ殺傷ト判別スルノ原則ハ犯人カ此ノ惡結果(人身ニ殺傷ヲ及ボスコト)ヲ逆メ賭得シヤ否ヲ以テ基トスルナリ故ニ普通ノ殺傷ヲ以テ犯人ヲ論スヘキハ一ニ犯人カ人身ニ毀害ヲ波及スヘキヲ豫メ賭得テ尙ホ敢テ之ヲ犯シタルニ限リ縱令ヒ之ヲ殺傷ヲ以テ論スルモ尙ホ之ニ一等ヲ減セサル可ラス何トナレハ此ノ豫見タルヲ尙ホ罪ヲ犯スノ過ハ實ニ惡ムヘシト雖モ素ヨリ直ニ人ヲ害スルノ意初ヨ

トナケレハナリ

犯罪者財産ニ對スル罪ヲ犯シ而シテ實際其罪ニ由リ人身ニ及ホスヘキ傷害ヲ豫メ見ル能ハサリシ場合ニ於テハ縱令ヒ之レカ爲メニ生命ヲ害スルニ至ルト雖モ其刑ヤ只タ輕罪ニ止マル可キナリ今マ之レニ當ルニ輕罪ノ刑ヲ以テシ而シテ罪ノ輕重ニ隨ツテ一々之ヲ區別スル時ハ煩雜ニ涉ルノ恐アリ是ヲ以テ本條ハ之ヲ分ツテ三種トセリ其一ニ曰ク死ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス其二ニ曰ク肢體ヲ折傷シ癱篤疾ニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ禁錮ニ處ス其三ニ曰ク一時疾病ニ陥リ或ハ業ヲ執ル能ハサルニ至ラシメタル者ハ一月以上一年以下ノ禁錮ニ處スト

犯罪者豫メ其罪ニ由リテ生ス可キ結果ヲ推知スルヲ得ルトニ依ツテ其處刑ノ輕重ヲ異ニスルハ只タ此場合ノミニ止マラス尙ホ許多ノ場合アリ共犯者及ヒ從犯者其共犯從犯ノ資格ヲ以テ犯罪事件ニ加擔シ而シテ之レニ由ツテ生スルトコロノ結果ニ隨ツテ其責任ヲ異ニスル場合ノ如キ殊ニ然リトス(第二百二十條第百二十一條第一項第百二十二條第五項第百二十三條第一項及ヒ註釋上卷第五百十葉ヨリ同第五百十四葉ニ至ル迄參看)若シ夫レ犯罪者其罪ニ因ツテ生ス可キ結果ヲ豫メ確知スルヲ得ル場合ニ於テハ依テ以テ其此結果ヲ生スル意志ヲ抱テ罪ヲ犯セシヲ證スルニ足ルヘシ若シ又タ實際之ヲ前見セ

他人ノ財産ノ毀壞及ヒ殺傷

サリシモ少シク願ミレハ之ヲ見ルヲ得可キ場合ニ於テハ其及ホセシトコロノ傷害ハ只タ過失ニ出ツル者タルニ過キス決シテ故意ニ出テタル者ト言フ可カラス然レモ若シ此過失ハ一個獨立シタル者ニアラス他ノ故意犯罪事件ニ附着スル者ナル時ハ其失タル極メテ重シ之ヲ以テ不注意或ハ怠慢ニ因リテ法律ヲ遵守セサル者ト同視ス可カラサルナリ

〔第九百八十三號〕 犯罪者其罪ニ因リテ人身ニ傷害ヲ及ホス可キ事ヲ豫見スルヲ得ルト得サルトニ依リテ其刑ノ輕重ヲ異ニスルハ以上言フトコロノ如シ然レモ之ヲ舉證スルノ任ハ何レニアルヤ或ハ檢察官被告人ノ之ヲ能スルヲ得シヲ證明セサル可カラサルカ或ハ被告人其之ヲ爲ス能ハサリシヲ證明セサル可カラサルカ是レ一箇ノ問題ナリ

今マ法律ノ原則ニ本ツヒテ之ヲ論スルコト犯罪ト成ル可キ事實ヲ舉證シ而シテ之レカ處刑ヲ請求スルハ則チ檢察官ノ職務ナリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ此場合ニ於テ被告人ノ之ヲ豫見スルヲ得シ事ヲ證明スルハ亦タ檢察官ノ任タラサル可カラサルヘシ然レモ財產ヲ毀損スル時ハ從ツテ人身ニ傷害ヲ及ホスニ至ルヘキハ事ノ最モ明白親易キ者ナリ若シ財產家屋ノ外ニ在ル場合ノ如キ殊ニ然リトス故ニ被告人タル者ハ何ヲ以テ人身ニ危難ナカルヘシト思料セシヤ必ラス自ラ之ヲ證明セサル可カラサルナリ今マ一例ヲ以テ之ヲ詳ニセン一人アリ惡意ヲ以テ瓦石ヲ人ノ住居スル家屋ノ窓中ニ投シ以テ人ヲ傷ツケシ事ヲ告訴セラレ

タリトセシコト其之ヲ投セシハ眞ニ惡意ニ出テ而シテ此家屋ハ實際人ノ住居セシ者タルヲ證明スルハ檢察官コアリ夫レ家屋ニ人ノ住スルト否トハ大抵一見シテ明ナル者ナリ且ツ檢察官ノ之ヲ舉證スルアリ則チ被告人モ亦タ自ラ之ヲ知り而シテ之レニ瓦石ヲ投スル時ハ人ニ危難ヲ及ホス可キヲ豫知セシヲ推定スルヲ得シ故ニ被告人若シ其反證ヲ舉ルヲ得ル時ハ之ヲ舉ケテ家屋ハ當時人ノ住居セシ者ニアラスト信セシヲ以テ其ノ豫見セシトコロハ只タ財產ニ對スルノ傷害ノミナリシト言ハサル可カラサルナリ

又タ被告人正當ナル理由ナクシテ他人ニ屬スル獸畜ヲ殺害シ或ハ殺害セント欲シ而シテ誤ツテ人命ヲ害ヒ或ハ之ヲ創傷セシ場合ニ於テモ亦タ然リ其犯罪ノ場所ハ寂寞タル無人ノ境域ニアラス是ヲ以テ隣傍ニ人アルハ必ラス被告人ノ推察セサル可カラサル事ナルヲ證明スルハ檢察官コアリ此證明既ニ成ル則チ被告人若シ之レニ對フルヲ得ル時ハ其反證ヲ舉ケテ實際其迷謬ニ由リ豫メ此危難ヲ見ル能ハサリシ事ヲ明ニセサル可カラス然レモ若シ被告人ノ獸畜ヲ殺傷セシハ自己ノ危難ヲ防カンガ爲メニ出テタル時ハ其事實ヲ證明スルハ被告人ニアリ檢察官ハ此危難ノ存セサリシヲ證明スルニ及ハサルナリ其ノ此ノ如クナル所以ノ者ハ蓋シ家畜ハ大抵其性危難ナル者ニアラス其時ニ人ニ危害ヲ及ホスハ特別非常ノ變ニシテ普通ノ場合ニアラス然リ而シテ特別非常ノ變ハ豫メ推知ス可キニアラス

他人ノ財產ノ毀壞及ヒ破損

是ヲ以テ之ヲ援引シテ其罪ヲ輕フセント欲スル者之ヲ證明セサル可カラサルナリ
 [第九百八十四號] 舊草案ニ於テハ財産ニ對スル犯罪ニ由リテ人ノ身體ヲ創傷シ或ハ生命
 ヲ害スルニ至ル結果ヲ規定セシハ只タ一個ノ場合ニ止マレリ即チ故意ヲ以テ家屋ヲ破壊
 シ或ハ毀損セシ場合はレナリ而シテ人ノ此ニ住居スルト否トナ別タサルナリ且ツ之レニ當
 ルニ普通一般ノ刑ヲ以テシ而シテ犯罪者ノ人身ニ對スル危難ヲ豫見セシト否トチ分タス又
 タ之レニ隨ツテ其刑ヲ輕重スルコトナシ

余カ現案ヲ草スルニ當リ之レニ改更ヲ加ヘント欲スル者頗ル多シ其目左ノ如シ

第一 犯罪者其罪ニ由リテ危害ヲ人身ニ及ホス可キ事ヲ豫見セシト否トチ分別スル事此
 情狀ヲ分別スルハ極メテ重要ナリ若シ被告人此危難ヲ豫見スル能ハサリシ場合ニ於テ
 ハ其刑ヲ決シテ輕罪ノ上ニ出ルヲ得ス

第二 若シ又タ被告人之ヲ豫見セシ場合ト雖モ之レニ加フルノ刑ハ普通ノ例ニ照シテ一
 等ヲ減ス可シ

第三 此ノ如ク誤ツテ人身ヲ傷害シ而シテ之レニ加フルニ特別ナル刑ヲ以テスルハ只タ家
 屋或ハ其他ノ不動産ニ對スルノ犯罪ニ由ツテ生スル場合ノミニ止マラス船舶、馬、家畜
 ノ如キ動産ニ對スル犯罪ニ由ツテ危害ヲ人身ニ及ホセシ場合ニ於テモ亦タ然リトス我

兼現條ノ法文ヲ以テ現節ノ首ニ冠セシメ以テ全節ノ總則タルカ如クナラシムル所以ノ
 者蓋シ之レカ爲メナリ但シ證券類ヲ毀損シタル場合ハ此例中ニアラス如何トナレハ證
 券類ノ毀損ニ由ツテ人身ニ危害ヲ及ホスハ想像ノ外ニ在ルヲ以テナリ

第四 破壊或ハ毀損シ爲メニ現條ノ制裁ヲ受ク可キ物件ヲ指舉スル少ニ過クル時ハ現條
 ノ定則或ハ充分其ノ力ヲ施ス能ハサルノ恐アリ故ニ之ヲ防カンカ爲メニ舊法文ニ附記
 スルコト下ノ如シ曰ク家屋ノ盤梯或ハ支柱、樹木ノ支柱(附言參看橋梁、導道、土堤或ハ其
 他ニ附着シタル建造物、又タ川水用ノ船舶或ハ海、灣、港ノ外ニ於テ用ユ可キ船舶是レナ
 リ海、灣、港ニ用ユ可キ船舶ニ關シテハ第四百六十一條ヲ以テ之ヲ規定セリ

[附言] 日本ニ於テハ樹木ヲシテ高大ナラシメ之レニ施スニ相當ナル支柱ヲ以テスル
 ノ習慣アリ故ニ惡意ヲ以テ樹木ヲ毀損スル時ハ其ノ顛墜或ハ只タ支柱ノ顛倒ニ因リテ
 人事ニ危害ヲ及ホスノ恐アリ

第五 現條ノ法文ニ於テ財産ニ對スル犯罪ヲ罪スルニハ此犯罪事件人命ヲ殺害シ或ハ肢
 體ヲ毀傷スル直接ノ原因^{コトズレト}タラサル可カラサルコトヲ明言セリ是レ我輩ノ特ニ意ヲ注セシ
 トコロナリ此性質ハ只タ此場合ニ必要ナルノミナラス他ノ許多ノ場合ニ於テモ亦タ然
 リトス是レ我輩ノ既ニ規定セシトコロナリ(第三百三十二條第三百五十三條第三百五

十八條第四百六十一條參看)其然ル所以ノ理由亦タ既ニ之ヲ説明セリ(第六百七十二號及ヒ第九百七十一號參看)若シ夫レ此性質ナキモ尙ホ可ナリトセンカ則チ財產ニ對スル犯罪ハ生命ノ殺害肢體ノ毀傷ニ於ケル一遠因タルニ過キス決シテ之レニ依ツテ殺害毀傷ヲ來セリト言フ可カラサル場合ト雖モ尙ホ現條ヲ以テ之レニ適用シ以テ之ヲ刑ニ處スルニ至ル可シ故ニ必ラス他ノ犯罪殺傷毀損ノ直接ナル原因タラサル可カラス但テ裁判官ニ與フルニ多少ノ專權ヲ以テシ以テ其ノ直接ナル原因ナルト否トヲ識定セシメサル可カラサルヘシ(附言參看)

〔附言〕此ノ點ニ關シテ一言ス可キヲアリ現條ニ掲ケタル場合ノ外ニ於テ他ノ目的ヲ以テ罪ヲ犯シ而シテ人ヲ殺傷セシ場合ニ在ツテハ法文ノ文辭現條ノ如ク精明ナラス然レモ其他ノ犯罪殺傷ノ直接ナル原因タラサル可カラサルヲ規定スルハ則チ一ナリ

第一、第三百三十五條第二項、第三百七十三條第三項、第四百二十六條及ヒ第四百五十三條ニ於テ我法文ハ只タ「犯罪創傷或ハ死ノ原因トナリタル時」ト言フニ止マリ更ニ直接ニ之ヲ釀スヲ要スルノ明文ナシ然レモ之ヲ要セスト言フニアラス是レ其缺漏ノミ法官ノ明議之ヲ補充セサル可カラサルハ復タ言フヲ須タサルナリ又タ第二百七十七條第二百八十四條第二百八十六條第二百九十九條第三百十五條第三百五十五條第三百六十二條

第二百七十一條及ヒ第二百七十七條ニヨリ殺傷ノ結果ヲ生ゼシ時ト言フコ止マリ復タ他ノ條件ヲ要スルナシ然レモ法文ハ間接ナル結果ヲ言フコアラサルヤ明亮ナリ故ニ此諸條ヲ解スル亦タ上ノ諸條ト同一ノ義ヲ以テセサル可カラス然レモ第三百三十四條第三百三十五條第一項第三百三十六條第一項第三百五十四條第三百六十二條第三百六十八條第一項及ヒ第二項並ニ第三百九十一條ノ法文ニ於テハ「犯罪創傷或ハ死ノ機會トナル時」ノ字ヲ用ヒタリ夫レ機會ナル字ハ以上諸條ニ用ヒタル文字ヨリ其意頗ル弱シ故ニ世或ハ機會ヲ以テ原因ト相反對セシムルニ至レリ然レモ機會ト原因ト解スルニ反對ノ義ヲ以テスルヲ得ルハ只タ不意ノ機會タルノ時ニ止マル余モ亦タ嘗テ機會ヲ以テ原因ニ對シテ之ヲ用ヒタリ然レモ是レ此等諸條法文ノ意ニアラサルナリ且ツ法文ニ於テハ同一ノ法則中ニ以上二字ヲ疊用スルコトアリ是ヲ以テ其二字ヲ視ルコト異ナラサルヲ證スルニ足ルヘシ(第三百五十四條第三百五十五條第三百六十二條及ヒ第三百六十三條參看)

佛國法典ニ於テモ亦タ此點ニ關シテハ同一ナル意義ヲ以テ「原因、機會、結果」ノ三字ヲ用ヒ又タ時トシテハ同條中ニ「三字ヲ連用スルコトアリ」(第三百零九條ヲ參看ス可シ又タ第三百一十一條第三百一十二條第三百一十七條第四項第三百十九條並ニ第三百二十條ヲ對照ス

他人ノ財產ノ毀壞及ヒ破損

可シ)

以上引證スルトコロニ依リ現草案中ニ用ユルトコロノ三字其意義ニ異ナル無キヲ知ル
ヲ得可シ然レモ若シ草案中ノ文字ヲシテ異同ナカラシメント欲セハ亦タ容易ニ之ヲ爲
スヲ得ヘシ即チ以上引用シタル諸條ニ於テ機會ナル字ニ換ユルニ源因ナル字ヲ以テシ
或ハ源因並ニ機會ナル字ニ加フルニ副詞「直接」ナル文字ヲ以テスレハ則チ充分ナル
可キナリ

且ツ法文中ニ犯罪事件創傷或ハ殺害ノ直接ナル源因タラサル可カラスト言フト雖モ亦タ
他ノ源因アツテ之レニ加ハラサル可カラス必ラス只タ此犯罪ノミニ因ツテ創傷殺害ヲ
サハル可カラサルヲ要セサルナリ凡ソ創傷或ハ殺害ニ至ルニハ之ヲ生スル最大源因ノ
外尙ホ必ラス之レニ附屬シタル許多ノ源因アリテ以テ之ヲ扶援スル者ナリ被害者ノ年齒
健康或ハ偶然ナル事故アツテ人ヲシテ其急ニ趨ル能ハサラシメ或ハ其救援ヲシテ運搬ナ
ラシムルカ如キ是レナリ此等ノ小源因ハ何レノ場合ニ於テモ之レナキハナシ故ニ犯罪事
件創傷或ハ殺害ノ最大ナル源因タレハ則チ足レリ他ノ小源因ノ之レニ加ハルアルモ以テ
其之レカ源因タルニ害セサルナリ

(第九百八十五號) 以上陳說スルトコロハ未ク以テ盡ク現條ノ法則ヲ詳悉スルニ足ラス如

何トナレハ此法則ハ只タ財產ニ對スル犯罪ノミニ關スル者ニアラズ尙モ他ノ事件ニ適用
スルヲ得可キヲ以テナリ今マア人身ニ對シテ不正ナル所爲ヲ行フ而シテ此所爲ヤ毆打
創傷或ハ暴行ニアラスト雖モ之レカ爲メニ不意ニ其肢體ヲ折傷シ或ハ之ヲ死ニ至ラシム
ルヲアルヘシ之ヲ例ヘハ人アリ一小婦ヲ拐奪セントスルニ當リ小婦ハ之ヲ通レント欲シ
車上或ハ船中ヨリ跳出シ誤ツテ重創ヲ被リ或ハ其命ヲ喪フカ如キ是レナリ本條ニ於テハ
特別ナル法則ヲ設ケテ此場合ヲ規定スルトコロナシ夫ノ第三百八十四條ノ如キハ此場合
ニ適用ス可キ者ニアラス又タ第三百八十條及ヒ第三百八十一條ハ只タ拐奪ノ場合ノミチ
規定セリ然レモ現場ノ如キハ其有無未タ確知ス可カラス然リ而シテ之レカ爲メニ該條ノ
法則ヲ變改スルハ少シク爲シ難キニ似タリ且ツ此他人身ニ對スル不正ナル所爲ニ因リ誤
ツテ竟ニ之ヲ折傷シ或ハ之ヲ死ニ至ラシムル場合ノ現出スル亦タ頗ル多カルヘシ又タ或
ハ公有物ニ對スル不正ノ所行ニ因リ誤ツテ人身ヲ創傷スルヲアルヘシ之ヲ例ヘハ警察者
獄ヲ破ツテ遁逃ス獄丁之ヲ追フニ當リ偶然ナル事故ニテ重創ヲ蒙ルニ至ル而シテ其此ニ
至ル者ハ全ク破獄之レカ源因タル場合ノ如キ是レナリ(世或ハ言フ獄丁ノ創傷ヲ蒙ムル
タル直接ノ源因ハ破獄ニアラスシテ其遁走者ヲ追フノ熱心ニアリト此論穿鑿ニ過キタル
者ト言フ可シ夫レ獄丁ノ熱心遁走者ヲ追フハ能ク其務ヲ盡ス者ナリ其務ヲ盡サンカ爲メ

他人ノ財產ノ毀壞及ヒ破損

ニ創傷ヲ蒙ムリタルノ故ヲ以テ之ヲ此ニ至ラシメタル者ヲ罰スルニ其刑ヲ寛フスルノ理ナカルヘシ又タ之ヲ例ヘハ一人アリ賣買或ハ所有スルヲモ禁制セラレタル武器ヲ試撃シ誤ツテ他人ヲ殺害シ或ハ之ヲ傷痕スル場合ノ如キ是レナリ(第百八十九條第百九十條及ヒ第百九十五條參看)此ノ如キノ場合モ亦タ之レカ制裁ヲ設ケサル可カラズ是ヲ以テ我輩ハ誤ツテ人ヲ創傷シ或ハ殺害シタル場合ニ關シタル一條ヲ現編第一章第四節ノ終尾ニ附加セント欲ス而シテ之ヲ以テ第三百五十五條第三ト成スヘシ其用ユルトコロノ刑又タ其區別及ヒ此條ヲ設クル理由ノ如キハ現條ト異ナルヲナキヲ以テ更ニ之ニ註釋ヲ附スルニ及ハサル可シ(追加條參看)

第四百七十三條

〔第九百八十六號〕 證書類原本ノ價ハ之ヲ以テ記證スルトコロノ權利ノ輕重ニ隨ツテ其大小ヲ異ニス且ツ之ヲ喪失スルモ權利ノ存在ヲ證明スルハ尙ホ他ニ方法ノ存スルアリ故ニ證書有無ノ關係スルトコロ其大小輕重素ヨリ同一ナル者ニアラス然レモ人アリ之ヲ破裂シ或ハ之ヲシテ其用ヲ爲ス能ハサルニ至ラシムル時ハ嚴ニ其所爲ヲ罰セサル可カラス是ヲ以テ本條ハ證書ヲ區別シテ原本及ヒ贓本ノ二種ト爲シ以テ其ノ刑ノ輕重ヲ分テリ此ノ如ク區別スル所以ノ者ハ蓋シ贓本ノ効力ハ原本ノ効力ヨリ小ナリ故ニ其喪失ニ由ラテ被

ムルトコロノ損害モ亦タ原本ノ喪失ノ如ク大ナラキヲ以テナリ且ツ贓本ハ一度之ヲ失フモ更ニ原本ヨリ抄寫スルヲ得可キヲ以テナリ(頒布刑法第二十四條ニ於テハ原本及ヒ贓本ノ區別ヲ廢棄セリ)

然レモ時トシテハ贓本亡失シタル原本ノ代用ヲ爲スコトアリ此點ヲ規定スルハ民法ノ規則ニ在リ(日本民法草案ハ未ダ之ヲ定ムルニ至ラス此法則ハ第五卷證據篇ニ關スルヲ以テナリ故ニ佛國民法第一千三百三十五條ノ例ニ照シテ此點ヲ處斷スルヲ得可シ)此ノ如キノ場合ニ於テ證書ノ破裂ヲ處罰スルハ現條ノ第二項ニアラスシテ其第一項ニアルヘシ又タ本條ハ證書ニ第二ノ區別ヲ設ケタリ其區別ハ此等證券ノ目的物即チ之ヲ以テ證明スルトコロノ物體ニ關セリ故ニ主權ト附屬權トヲ論セス凡テ對物權ヲ記證シ又タ對人權或ハ義務ノ消却ヲ記證スルトコロノ證書ヲ破裂シタル者ヲ罰スルハ計算或ハ其他只タ他人ニ要用ナル事件ヲ證明スルトコロノ物體ニ關セリ故ニ主權ト附屬權トヲ論セス凡テ對物權ヲ記證シ又タ對人權ヲ罰スルハ計算或ハ其他只タ他人ニ要用ナル事件ヲ證明スルトコロノ證券ヲ破裂シタル者ヲ罰スルヨリ嚴ナリ即チ第一類ノ證書ヲ破裂シタル場合ニ於テハ其刑重キハ五年ノ禁錮ニ至ルヲ得ルモ第二ノ場合ニ於テハ其刑禁錮六ヶ月ニ過クルヲ得サルナリ

他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

然レハ以上二種ノ場合ニ於テ此罪ヲ犯セシ者ハ一モ關係ナキ他人ニアラスシテ證書ノ保存ヲ依托セラレタル者或ハ其奴僕或ハ其手代等ニアリ故ニ其非常例ト異ニシテ信用ヲ害スルノ性質ヲ有スル時ハ之ヲ處スルノ刑ハ更ニ一等ヲ加フ可シ(頒布刑法第四百二十四條ニ於テハ受托者ニ加フルニ一等ノ加重ヲ以テスルヲ許サス)

第四百七十三條ノ二

〔第九百八十七號〕 然レハ破裂シタル書類ハ普通ノ證券ニアラスシテ戶籍帳ノ原本ナル時ハ法律ノ之ヲ罰スルコト上例ニ比スレハ更ニ嚴ナリ蓋シ此等ノ書類ハ之レニ關係スル各個人並ニ社會全般ノ利害ノ關スルコトコロニシテ其價極メテ重大ナリ是ヲ以テ其破裂ノ所爲ヲ罰スル只タ輕罪ニ止マラス之ニ當ツルニ重罪ノ刑ヲ以テセリ然レハ之レニ加フルニ重罪ノ刑ヲ以テスルヲ得ルハ只タ此書類ノ保存ヲ任セラレタル吏員既ニ之ヲ領掌シタル後ニ在ツテ之ヲ破裂シタル場合ニ於テノミ其他ハ則チ然ラス蓋シ吏員未タ之ヲ領掌セサル以前ニ在ツテハ之ヲ破裂スルモ容易ニ之ヲ改修スルヲ得可キヲ以テナリ(附言參看)

〔附言〕 日本ニ在ツテハ家ノ主長自ラ其一家ニ關スル戶籍帳ヲ製シ或ハ他人ヲシテ己レノ名義ヲ以テ之ヲ製セシメ而シテ後之ヲ吏員ニ差出ス吏員ハ更ニ之ヲ特別ナル帳簿中ニ登錄ス是レ現時ノ慣法ナリ故ニ登錄後ニ在ツテハ此帳簿ヲ以テ原本ト爲サ、ル可カ

ラス

若シ家長其戶籍帳ヲ製シテ之ヲ吏員ニ差出シ而シテ吏員未タ之ヲ登錄セサル時ニ當ツテ之ヲ破裂スル者アル時ハ之ヲ處スルニ現條ノ刑ヲ以テス可シ如何トナレハ登錄前ニ在ツテハ此帳簿ハ即チ原本ナルヲ以テナリ又必要ナル期限内ニ於テ其破裂セラレタルヲ發見スル能ハサルコトアル可キヲ以テナリ又久シク之ヲ登錄スル能ハサル可キヲ以テナリ而シテ又一家及ヒ社會ニ重大ナル損害ヲ醸ス可キヲ以テナリ

此ノ如キ書類ノ謄本ヲ破裂スルコトニ關シテハ本條ハ特ニ其刑ヲ設クルトコロナシ蓋シ此等ノ謄本ハ一度之ヲ失フモ更ニ之ヲ原本ヨリ抄寫スルヲ得ル者ナルカ故ニ其之ヲ失フ爲メニ被ムルトコロノ損害極メテ重大ナル者ニアラサルヲ以テナリ然レハ此等ノ謄本ハ前條ニ言フトコロノ如キ(他人ニ要用ナル書類)ノ部中ニ列ス可キヲ以テ之ヲ破裂シタル者ヲ罰スルニ前條第二項ノ刑ヲ以テス可キナリ

若シ又タ戶籍帳主掌者或ハ之ヲ保存センカ爲メニ其委任セラレシトコロノ吏員親ラ之ヲ破裂シ或ハ之ヲシテ其用ヲ爲サ、ルニ至ラシメタル時ハ常刑ニ加フルニ一等ヲ以テシ以テ之ヲ處罰ス可シ而シテ其重キハ重懲役ニモ至ルヲ得可シ我第二百零七條ハ既ニ此場合ヲ規定シ書記其管掌ニ係ルトコロノ文書ヲ毀損シタル時ハ之ヲ處スルニ加重ノ刑ヲ以テ

他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

セリ「獨逸ノ法典ハ時トシテ甚タ寛ニ過キルヲアリ官吏其管掌スルところノ文書ヲ毀損スル場合ノ如キモ只タ之ニ加フルニ一月以上五年以下ノ禁錮ヲ以テスルニ過キス（同法第四百四十八條參看）」

現條ヲ説クニ當ツテモ亦タ我既ニ第三百八十四條ノ二ヲ解釋スルニ當リテ論セシトコロノ者ヲ反復セサル可カラス夫レ現條ノ法則ヲ以テ或ハ書記庫或ハ記録庫中ニ封藏シタル文書ヲ竊取或ハ毀損スルニ關シタル諸犯罪ノ次ニ於ケル（第二百零六條以下參看）公有物ニ對スル重罪輕罪ニ關スル諸法則中ニ列スル時ハ其位置最モ其當ヲ得可シ然レモ之ヲ此ニ置クモ亦タ必スシモ不當ナルニアラス如何トナレハ戶籍帳ノ毀損ハ社會利害ノ關スルトコロナリト雖モ一個人ノ之レカ爲メニ損害ヲ被ムルハ又タ益々甚シケレハナリ佛國刑法（第二百四十五條參看）之ヲ以テ「小兒ニ對スル重罪輕罪」中ニ列セリ然レモ是レ決シテ探ル可キニアラス如何トナレハ戶籍帳ヲ毀損スルハ只タ出産ノ帳簿ニ止マラス或ハ婚姻或ハ死去ノ帳簿ヲ毀損スルコトアル可キヲ以テナリ

又タ一言ス可キ事アリ現條ノ法則ヲ以テ戶籍簿ノ變造ニ適用ス可カラサルナリ此犯罪ハ變造ノ事實戶籍官有帳簿ニ登錄スルノ前後ニ在ルニ從ツテ私文書或ハ公文書偽造ノ例ニ照シテ之ヲ處罰ス可シ

〔第九百八十八號〕 現條ニ於テハ法律ハ警察官ヲシテ犯罪者ヲ監視セシムル事ヲ規定セシ

又タ現節中ニ指目シタル犯罪ノ着手ヲ罰スル事ナシ何ヲ以テ之ヲ監視ニ附セシメサルカ蓋シ此ニ列指スルトコロノ犯罪タル其ノ事甚タ重大ナラス且ツ此ノ如キ犯罪ハ一時ノ惡心ニヨリテ起ル極メテ多シ故ニ一度刑罰ニ遭フ時ハ復タ再ヒ之ヲ犯スノ恐ナシト云フモ可ナリ今マ罪ノ輕ロキコト此ノ如シ而シテ之レニ加フルニ監視ヲ以テス形實其宜ヲ得サルニ似タリ是レ監視ヲ命セサル所以ナリ

何ヲ以テ此等犯罪ノ着手ヲ罰セサルカ蓋シ本條ハ以上目舉シタルトコロノ動産或ハ不動産ヲ破壊スルノミナラス尙ホ其ノ損傷ヲ以テ既遂ノ犯罪ト爲シ以テ之ヲ罰セリ夫レ此種ノ犯罪ノ實行ニ着手スル時ハ物件ヲ損傷スルハ必ラス免カル可カラサル可シ然リ而シテ我法律ハ其損傷ヲ罰ス然ラハ則チ犯罪ノ未遂ト其既遂ト一モ區別スルニ由ナシ何ヲ以テ其ノ刑ヲ異ニスルヲ得ン且ツ縱令ヒ犯罪ニ着手スルモ一モ物件ニ損傷ヲ施サ、ルコトアリトスルモ此ノ如キ場合ニ於テハ之レカ確證ヲ舉グル極メテ難カル可ク又タ之ヲ罰スルモ甚タ益スルトコロナシ寧ロ之ヲ不問ニ付スルノ愈レルニ若カサルナリ是レ其未遂ヲ罰セサル所以ナリ

前第四百七十二條ノ二ニ於テハ犯罪未遂ナリト雖モ之レニ因ツテ他人ニ傷害ヲ及ボス時

他人ノ財産ノ毀壞及ヒ破損

ハ之ヲ罰セリ然リ而ノ現條ニ於テハ未遂ノ犯罪ヲ罰セス前後相ヒ矛盾スルニ似タリ否ナ
然ルコアラサルナリ蓋シ第四百七十二條第二ノ場合ニ於テ法律ノ罰セント欲スルトコロ
ノ者ハ識定シ難キ財産毀損ノ着手ニアラスシテ生命ヲ殺害シ肢體ヲ損傷セシ犯罪ニアル
ナリ今マ一例ヲ以テ之ヲ詳ニセシ一人アリ正當ナル理由ナク他人所有ノ犬ヲ殺サント欲
シ誤ツテ犬ノ所有者或ハ其家ノ僕隸ヲ殺害シ或ハ之ヲ創傷セリトセンカ此ノ場合ニ於テ
犯罪者ハ未タ犬ヲ殺ス能ハサリシト雖モ其人身ニ對スル犯罪ヲ罰スル事猶ホ既ニ犬ヲ殺
セシ時ト同一ナラサル可カラサルハ理ノ當ニ然ルヘキトコロナリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ此
條ノ罰スルトコロハ財産ニ對スル未遂犯罪ニアラスシテ人身ニ對スル犯罪ナリ故ニ現場
ノ法則ト相抵觸スルトコロナシ

〔第九百八十九號〕 現節ニ於テハ政府ノ公有地或ハ其私有地ノ財産或ハ縣或ハ邑或ハ公共
會社其他集合體ニ附屬スル財産ニ對スル犯罪ニ關シテハ更ニ之ヲ規定スルトコロナシ然
レモ此等ノ財産ヲ保護スルヨリ厚カラサルモ少ナクモ之レト同一ナラサル可カラサルナ
リ今マ現節ニ於テハ之ヲ規定スルトコロナシト雖モ我草案中之ヲ罰スルノ明文ナキニ非
ス即チ第二百十條ハ此點ヲ規定シテ曰ク政府或ハ公共ニ附屬シ或ハ宗旨ニ供セラレタル
動産或ハ不動産ヲ竊取シ或ハ破壞シ或ハ損傷シ而シテ此等ノ犯罪ニ對シテ法律ノ特ニ明文

ヲ設クルナキ時ハ各個人ニ對スル犯罪ノ例ニ照シ而シテ第二章第一節及ヒ第七
節ヨリ第十節ニ至ル區別ニ從ツテ之ヲ處分ス可シト此明條アリ故ニ上例モ亦之ニ從ツ
テ處分スルヲ得可キナリ

此法文ニ依テ之ヲ觀レハ其適用セント欲スルトコロハ只ク其指擧スルトコロノ諸節ニ限
レル者ニ似タリ是レヲ惜ム可シト然レモ財産ニ對スル重罪輕罪ニ關シタル同章十節ハ
凡テ之ヲ適用シ一モ之ヲ除ク可カラサルナリ今マ一二ノ例ヲ擧ケンニ許多ノ無形人其貯
蓄ヲ竊取セラレテ傷害ヲ被ムルコトアル可シ或ハ破産ノ爲メ或ハ詐偽ノ爲メ或ハ欺罔ノ爲
メ或ハ藏匿ノ爲メニ損害ヲ蒙ルコトアルヘシ此ノ如キ場合ニ於テ此等ノ犯罪ヲ罰スルハ
即チ第三篇第二章諸節ノ法則ニアリ故ニ第二百十條ニ於テハ第三節ヨリ第六節ニ至ル諸
節ヲ指擧スルコトナシト雖モ此諸節ヲ政府其他集合體所屬ノ財産ニ對スル犯罪ニ適用スル
コト猶ホ他ノ諸節ノ如クナラサル可カラサルナリ(校正草案ニ於テ第二百十條指擧ノ制限
ヲ廢棄セリ)

又タ此點ニ關シテ尙ホ校正ヲ加フ可キ者アリ即チ第二百十條ヲ轉シテ現章諸條ノ終尾ニ
列シ之レニ附スルニ「以上十節ノ通則」ノ名ヲ以テシ以テ之ヲ總括セシムルコト是レナリ

要旨

第九百九十號 違警罪ヲ順次類別スルノ必要

第九百九十一號 違警罪ニ於テモ亦重罪輕罪ニ於ケルト同一ナル區別ヲ用ユ

〔第九百九十號〕 違警罪ノ類別タル歐羅巴諸邦ノ法典ニ於テハ頗フル之ヲ忽ニセリ是レ蓋シ刑法編纂者ノ違警罪ニ着手スルニ當ツテハ既ニ其事業ノ終尾ニ近ツクヲ以テ速ニ之ヲ遂ケ之ヲ實施セント欲スルノ熱心ヨリ生シ或ハ違警罪ノ罪タル極メテ輕ク之ニ加フルノ刑亦タ極メテ輕キヲ以テ特ニ之レカ爲メニ許多ノ類別ヲ設クルニ及ハサルヘシト思料セシヨリ來リタルモノナルヘシ是ヲ以テ歐洲諸邦ノ法典ハ大抵之ヲ別ツテ三類或ハ四類ト爲スニ過キス而シテ其類別ノ基ツク所ハ犯罪ノ爲メニ社會ノ蒙ムル所ノ損害ノ性質ニアラスシテ罪人ニ加フル所ノ刑ノ輕重ニ在リ

夫レ刑ノ輕重ハ犯罪ノ社會ニ加ヘタル損害ノ大小ヲ以テ定ムルモノナリ然レモ刑ノ輕重相均シキ者ヲ蒐集シテ違警罪ヲ類別スルモ何ノ益スル所カ之レアラン是レ猶ホ重罪ヲ區別スルニ當ツテ第一類ニハ極刑ニ當ルノ罪ヲ列シ第二類ニハ無期徒刑ニ當ルノ罪ヲ序シ以テ流刑懲役等ニ及フカ如ク又猶ホ輕罪ヲ區別スルニ當ツテ二年以上五年以下ノ禁錮ニ

觸ル、可キ罪ヲ以テ第一類ト爲シ次ニ一年以上三年以下ノ罪ヲ以テ第二類ト爲シ以テ以下ノ刑ニ及フカ如キナリ若シ夫レ此ノ如クナル時ハ某重罪或ハ某輕罪ニ該當ス可キ刑ヲ知ラント欲スル者ハ其考究セント欲スル所ノ罪ヲ得ルニ至ルマテハ許多ノ刑名ヲ盡ク經覽セサルヲ得サルニ至ル可シ是レ此類別法弊害中ノ最少ナル者ナリ而シテ此弊害ハ佛國、白耳義、獨逸、其他今日存スル所ノ法典中ニ現ニ見ル所ナリ只之ナキモノハ伊太利法律草案ノミ(和蘭國近時新ニ刑法ヲ改正セリ我輩未タ此新法典ヲ得ル能ハサルヲ憾ム是レ我緒言中既ニ述ヘシ所ナリ)故ニ我輩違警罪中ノ某刑ヲ求メント欲スル毎ニ偶然三類中ノ一ヲ採ツテ之ヲ搜索セサル可カラズ或ハ第一類ヨリ第三類ノ終ニ至ルマテ盡ク之ヲ閱覽セサル可カラサルニ至レリ

〔第九百九十一號〕我輩ノ既ニ縷々引舉セシ如ク歐洲諸邦ノ法典中獨リ伊太利法案ハ其類別ノ法極メテ正シク又タ能ク學理ニ適シ我カ類別法ノ因テ以テ基スル所ノモノニシテ我輩眞ニ之ニ謝セサル可カラズ只我輩ハ根源タル二種ノ區別ヲシテ一層較著ナラシメ細別ノ數ヲ減センコトヲ勉メタリ

今マ茲ニ伊太利法案ノ類別ヲ舉示セシニ該草案ハ先ツ若干ノ總則ヲ定置シタル後違警罪ヲ分ツテ七篇トセリ其第一ヨリ第五篇ニ至ルマテハ公益ニ關シ(即チ社會ノ秩序、公安、衛

生、風俗、公寧、ニ關スルノ違警罪是レナリ)其最終ニ二篇中第一ハ公私ノ安全ニ關シ第二ハ公私ノ所有權ニ關スルノ違警罪是レナリ該草案ノ類別此ノ如シト雖モ其中ニ包含セル利害ニシテ之ヲ區別スルノ愈レルモノアルコト似タリ又該草案ハ此諸篇ヲ許多ノ章ニ分テリ即チ第一篇ヲ分ツテ八章トシ第二篇ヲ四章トシ第三篇ヲ七章ト爲セリ而シテ此諸章中ノ二三ニ加フルニ總則ヲ以テセリ我輩ノ見ル所ヲ以テスレハ其類別繁密ニ過クルアルニ似タリ我輩亦伊太利法典ト同シク二三ノ總則ヲ設ケテ違警罪ノ首ニ冠セント欲ス然レモ之レニ附スルニ本案ノ首條ニ於ケルカ如ク總則ノ名ヲ以テスルハ高大ニ過クルニ似タリ故ニ寧ロ之ヲ稱シテ通則ト爲スノ愈レルニ若カサルナリ

此通則ヲ設定シタル後違警罪ニ於テモ亦重罪輕罪ニ於ケルカ如ク之ヲ大別シテ二章ト爲サント欲ス即チ第一章ハ「公益ニ對スル」違警罪ヲ規定シ第二章ハ「各個人ニ對スル」違警罪ヲ規定ス

内亂又ハ外患ニ關スル罪及ヒ萬國公法ニ對スルノ犯罪中ニハ違警罪トナルヘキ者ナシ然レモ第二篇ノ順序ヲ逐フテ見ルニ社會ノ靜謐ヲ害スル重罪輕罪ト相對スルモノヲ公安、公寧、及ヒ道路ノ安寧、便益ヲ害スル違警罪ト爲ス次ニ社會ノ信用、一般ノ風儀、健康及ヒ衛生ニ關スル違警罪アリ是レ亦第二篇ノ順序ト相ヒ應スルモノナリ又我輩ハ之レニ附加ス

ルニ尙ホ一節ヲ以テシ以テ公共ノ所有權ニ對スル違警罪ヲ列記セント欲ス
各個人ニ對スル違警罪ハ猶第三篇ニ於ケルカ如ク之ヲ細別シテ各個人ノ身體ニ對スル違
警罪ト其財産ニ對スル違警罪トノ二類ト爲ス

此類別法タル未ダ以テ盡ク困難ヲ消滅スルモノニアラス如何トナレハ犯罪ノ社會ニ及ホ
スヘキ損害ノ性質ニ依ツテ其類ヲ別ツト雖モ同性質ノ違警罪ハ必スシモ輕重ヲ同フスル
モノニアラサルヲ以テナリ故ニ我輩ハ同性質ノ違警罪ニシテ其刑ノ輕重異ナル者ハ二三
ノ箇條ヲ設ケテ之ヲ分チ以テ此弊ヲ療濟セント欲ス

又我輩ハ將來警察規則ノ制定セラル、トアルヘキヲ以テ爲メニ附則ヲ設ケ以テ本編ヲ結
フヘシ

〔附言〕 余カ一千八百七十七年ニ於テ第一稿ヲ草スルニ當ツテ此類別法ヲ用ヒタレモ
廢シテ用ヒラレス今日現案ヲ草スルニ及ンテ獨リ其責ニ任シテ肯テ之ヲ用ヒタリ
現行刑法ニ於テハ違警罪ヲ分ツテ纔カ五條ト爲セリ然レモ每條許多ノ項ニ別チ項
數總テ七十一アリ佛國法典ニ於テモ違警罪ヲ分ツテ三類トナシ而シテ其ノ含ム所ノ
項數四十二アリ蓋シ現行刑法ハ佛式ヲ採用シタルモノニシテ其弊一モ佛法典ト異ナ
ルナシ

通則

第四百七十四條 第九十七條及ヒ第九十八條ニ定メタル自首減輕ノ例ハ違警罪犯ニ適用ス
ルノ限ニ在ラス

第四百七十五條 第百條ニ於テ許容シタル酌量減輕ノ例ハ違警罪犯ニ於テハ減シテ一等ノ
外降スヲ許サス

第四百七十六條 第百四條ニ定メタル例ニ依リ違警罪三犯ノ場合ニ於テハ本刑ノ最長期ニ
尙ホ本刑ノ四分ノ一ヲ加ヘテ處斷ス若シ各本條ニ別ニ拘留又ハ科料ヲ科スルモ其拘留又
ハ科料ヲ併科ス

第四百七十七條 自己ノ管理スヘキ者ノ所爲ニ因リ生シタル損害ノ民事擔當人ハ亦本人ノ
違警罪ヲ犯シタルニ因リ科セラレタル科料ヲ償フノ責アリ

要旨

第九百九十二號 既ニ第一篇ニ設定シタル二三ノ總則ヲ違警罪ノ篇ニ於テ復説ス

第九百九十三號 法律ヲ以テ罰ス可キ違警罪中ニハ常ニ必ラス過失即チ惡意ノ存スルア

ルノ新證

通則

第四百七十四條

第九百九十四號 自首スルモ罪ヲ宥恕スルヲナシ

第四百七十五條

第九百九十五號 輕減ス可キ情狀ノ存スルモ只一等ヲ減スルニ止ム

第四百七十六條

第九百九十六號 三犯ノ場合ニ於テハ二等ヲ加フヘシ

第四百七十七條

第九百九十七號 無能力者違警罪ヲ犯ス時ハ罰金ヲ命ス可シ

第九百九十八號 違警罪通則ニ關シタル最後ノ注意

〔第九百九十二號〕 此ニ掲クル所ノ通則ハ既ニ第一篇ニ於テ設定セシ總則ト大抵相同ク一

モ之ヲ排除シ又之ヲ變更スル所ナシ故ニ現諸條ニ於テハ一々之ヲ記載セサルヘシ
今マ茲ニ第一篇總則ノ大畧ヲ復説セン

第三十六條及ヒ第五十一條ハ拘留ノ刑ノ性質及ヒ其刑期ヲ定メタリ即二十四時間以上十

日間以下ノ自由剝奪ニシテ定役ナキモノナリ
第三十七條ハ違警罪ニ當ツ可キ科料ノ額ヲ定メタリ即チ五錢以上壹圓九拾五錢以下トス

第三十八條ハ違警罪ノ科料ヲ拂フ能ハサル場合ヲ規定セリ即チ輕罪ノ罰金ニ於ケルカ如

ク壹圓或ハ壹圓未滿一日ノ割ヲ以テ拘留ニ換フルヲ得可シ

監視及ヒ宣告公示ノ如キ附加刑ハ違警罪ニ適用スルヲ得ス(第四十七條乃至第五十條及
ヒ第五十六條)

拘留及ヒ科料ノ刑ノ期滿免除ハ一年ヲ以テ成就スルモノトス(第七十條第七項)

違警罪ニ當ツ可キ拘留科料二刑ノ加重及ヒ輕減ハ輕罪ニ於ケルカ如ク加減共ニ四分ノ一
ヲ以テ一等トナシ以テ之ヲ算定ス可シ(第八十五條及ヒ第八十六條)

〔第九百九十三號〕 重罪輕罪ト異ナリテ違警罪犯罪者害心ナク或ハ法律ノ存スルヲ知ラス

シテ之ニ背クノ意志ナキニ之レヲ犯シタルト雖モ單ニ法律規則ヲ遵奉セサルニ因リ之
ヲ罰スルヲ得可シ(第八十九條第一及ヒ第四項)

違警罪ニ於テハ其法則ノ嚴格ナルヲ此ノ如シ世或ハ此法則ヲ相シテ一箇私言ノ原則ヲ設

ケントスル者アリ其言ニ曰ク法律ハ違警罪ニ關シテハ他罪ト特別ナル法則ヲ設ケ縱令ヒ

犯罪者ニ過失ナキモ社會之レカ爲メニ損害ヲ蒙ルアレハ直チニ之レヲ罰スルヲ得可シ

ト
我輩既ニ此原則ノ道理ニ反シ決シテ容ル、可カラサルモノタル事ヲ辨駁シ且縱令ヒ犯罪

通則

八四五

八四四

者法律或ハ規則ノ存スルアルヲ知ラスシテ違警罪ニ觸ル、時ト雖モ其此ニ至ルハ其過失タルコ外ナラサル事ヲ説明セリ如何トナレハ法律ノ禁制ヲ知ラサルハ即チ其過失ナルヲ以テナリ(註解第十二及ヒ第十三號、第百六十三號)

曩ニ我輩ノ論セシ所此ノ如シ然レモ尙ホ一證ノ存スルアリ只此一證ニ依リ以テ犯則者ニシテ少シモ過失ノ尤ム可キモノナケレハ則チ違警罪ト雖モ之ヲ罰スル能ハサルヲ明ニスルニ足ルヘシ茲ニ人アリ暴力或ハ脅迫ヲ蒙リ止ムヲ得スシテ警察規則ヲ犯シタリトセン又白癡或ハ十二歳未滿ナル幼者アリ同則チ破リタリトセン此ノ如キ場合ニ於テ誰カ能ク犯則者ニ自由ナク又タ道理ヲ辨セサルニ拘ハラス之ヲ罰ス可シト唱フル者アルカ決シテ之レナカル可キナリ是レ他ナシ此場合ニ於テハ法則ヲ犯スモ過失ノ尤ム可キ者ナキヲ以テナリ性來ノ啞聾ノ如キモ亦其年齡ノ多少ヲ論セス之ヲ罰ス可カラス

我草案ハ此點ニ關シテ一モ疑惑ナカラシメンカ爲メニ特ニ明條ヲ設ケテ之ヲ規定セリ(第八十九條第九十一條第九十二條及ヒ第九十六條)

然レモ違警罪ニ當ツ可キノ刑ハ總テ極メテ輕ク且此罪ヲ避クルハ極メテ容易ク必ラスシモ完全ナル精神ヲ具フルコ及ハサルヲ以テ法律ハ十二歳以上十六歳以下ノ幼者ニ對シテ只一等ヨリ二等ニ至ルノ輕減ヲ與フルノミ之レニ與フルニ二等ヨリ三等ニ至ルノ寬典ヲ

以テセス又十六歳以上二十歳以下ノ幼者ニ對シテハ一モ宥恕スル所ナシ(第九十六條)

原草案ノ規定スル所ニ從ヘハ違警罪ニ於テハ若シ數罪俱發ノ場合ニ於テハ其刑ヲ合セテ盡ク之レニ當ツ可シトセリ(第百十三條)然レモ本案ニ於テハ只罰金ノミ舉ク之ヲ全科シ拘留ノ罰ニ至ツテハ少シク之ヲ寬ニシタリ(第百十二條ノ二第十二項及ヒ第十三項)

違警罪ハ既遂犯ニアラスンハ之ヲ罰ス可カラス試犯又ハ闕効犯ハ之ヲ罰セス(第百三十條)

今ヤ本篇ノ通則四ヶ條ヲ説明シ以テ違警罪ニ關シテハ更ニ舊ヨリ嚴ナルモノアルヲ知ル可シ

第四百七十四條

[第九百九十四號] 第九十七條ヲ説明スルニ當ツテ犯罪者其罪ヲ自首シタル時ハ本刑ヨリ

一等ヲ減スル特別法則ヲ設クル理由ヲ舉示セリ其理由蓋シニアリ一ハ證據不充分ナル時ハ遂ニ有罪者ヲシテ法網ヲ脱スルヲ得セシムルノ恐アリ故ニ其自首ヲ賞スルニ寬典ヲ以テシ罪人ヲシテ其罪ヲ遁ル、能ハサラシムルニ在リ一ハ裁判官時ニ識定ヲ誤リ無罪ノ人ヲ罰スルコアルヘシ故ニ眞ノ犯罪者ヲシテ自首セシメ人ヲシテ冤枉ナカラシムルニ在リ] 第九十七條ニ於テハ犯罪者自首スル所ノ罪ノ性質ヲ區別スルコトナシ故ニ或ハ違警罪ニモ

通則

亦之ヲ適用スルヲ得ルニ似タリ然レモ違警罪ニハ之ヲ適用セサルノ愈レルニ若カサルカ如シ蓋シ違警罪ノ刑タル極メテ輕ク犯罪者其罪ヲ自首スルモ甚タ賞スルニ足ラサルナリ故ニ之レカ爲メニ更ニ其刑ヲ輕減スルハ却テ其宜ヲ得サルナルヘク且第九十七條ヲ設クル所以ノ理由中第一ハ違警罪ニ關シテハ其力甚タ薄弱ナリ如何トナレハ縱令ヒ警察規則犯自首セサルカ爲メニ之レヲ知リ之レヲ罰スル能ハサルモ社會ノ之カ爲メニ損害ヲ被ムルハ極メテ憐小ナルヲ以テナリ

第四百七十五條

〔第九百九十五號〕 輕減情狀ハ法律ノ明文ヲ設ケテ認定スル所ニシテ此情狀ノ存スルモハ裁判官ノ査定ニ從ヒ本刑ヨリ一等或ハ二等ヲ減スルヲ得可シ(第百一條)法律ハ此點ニ關シテ重罪輕罪違警罪ノ間一モ區別スル所ナク之ヲ三罪ニ適用スルヲ許セリ然レモ卑族親ノ尊族親ニ對スル重罪輕罪ニ至テハ其法則常例ト異ナリ第四百八條ニ於テ輕減ス可キ情狀ノ存スルモ獨リ一等ヲ減スルヲ得ルノミトセリ蓋シ此等ノ所爲タル其罪極メテ重キカ故ニ特ニ其刑ヲ嚴ニシタルナリ

違警罪ニ於テモ亦タ法律ハ情狀ノ爲メニ只本刑ヨリ一等ヲ減スルヲ許スノミ然レモ其理由ハ前例ト異ニシテ決シテ罪ノ重大ナルカ故ニアラス其刑タル極メテ輕ク之ヨリ二等或

ハ其半ヲ減スル時ハ其刑其效ナク殆ト兒戲ニ類スルニ至ル可キヲ以テナリ

第四百七十六條

〔第九百九十六號〕 第百四條ハ違警罪ノ再犯ヲ規定シ此場合ニ於テハ輕罪ノ再犯ニ於ケルカ如ク本刑ニ加フルニ一等ヲ以テスヘシトセリ(第百三條)然レモ此二箇ノ場合ニ於テハ法律ノ其三犯ヲ罰スルヲ其再犯ヲ罰スルヨリ重カラス其特別ナル嚴罰ヲ設クルハ只重罪三犯ノ場合ニ於テノミ(第百二條)

我輩ハ今違警罪ノ三犯ニ適用スルニ重罪三犯ノ例ヲ以テシ以テ人ノ輕々ニ觸犯スル所ノ犯罪ヲ禁止スル益々確乎ナラシメント欲ス其理由又前例ニ於ケルト均シク重罪ノ三犯ヲ嚴罰スルハ其罪ノ性質ノ重キニ因リ而シテ違警罪ノ三犯ヲ嚴罰スルハ其罪ノ重キカ爲メニアラスシテ其刑ノ極メテ輕キカ爲メナリ(前條ヲ參看ス可シ)

三犯ノ場合ニ於テ之ニ加重ス可キ嚴罰ニ二種アリ第一裁判官ハ必ス本刑ノ最高度ニ加フルニ其四分ノ一ヲ以テス可シ第二拘留及ヒ罰金ノ二刑ハ初犯ノ場合ニ於テハ勿論再犯ノ場合ト雖モ尙ホ分離シテ其一ヲ命スルヲ得ルモ三犯ノ場合ニ於テハ必ラス之ヲ合科ス可シ

違警罪ニ於テ再犯ヲ罰スルニハ二三ノ條件アリ而シテ本條ハ此條件ヲ第百四條ノ定則ニ讓

レリ該條ニ据ルニ「最初ノ犯罪ト同年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニアラスンハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス」トス故コ本條ニ於テ言フ所ノ再犯モ亦必ラス此條件ニ從ハサル可カラス(第四百四條)

第四百七十七條

〔第九百九十七號〕 無能力者法律ニ反シタル所爲ヲ行ヒ之カ爲メニ他人ノ損害ヲ賠ヒ或ハ物品ヲ償還セサル可カラサル場合ニ於テ其親其夫若クハ其後見人或ハ其他無能力者ヲ監督スル人ノ當サニ負フ可キ所ノ責任ハ民法ノ定ムル所ナリ(此點ニ付テハ日本民法草案第三百九十二條以下ヲ參看ス可シ)

此責任ハ大抵之ヲ稱シテ民事上ノ責任ト云フ如何トナレハ犯罪ニ當ツ可キ刑罰ノ責任コアラサルヲ以テナリ故コ若シ無能力者非違ノ所爲ヲ行フ時ハ之ヲ監督スル者亦其義務ヲ盡サ、ルノ責アリト雖モ之レカ爲メニ決シテ自由剝奪ノ刑ニ處セラル、コナシ加之罰金ノ責ニ至テモ亦之ヲ負フコナキヲ通則トス(民法草案第三百九十七條ヲ參看スヘシ)然レモ該條ニ据ルモ別段ノ法律規則アツテ此通則ヲ適用セサル場合アリ

伊太利法案(第四百九十二條)ニ於テハ其責任無能力者ノ犯シタル違警罪ノ罰金ニ及フモノトセリ我輩亦之ヲ採用セント欲ス此例外ヲ設クル所以ノ理由ハ蓋シ無能力者ノ誘導及ヒ

教育ヲ委任セラレタル者其監督ノ義務ヲ盡サ、ルモハ其過失タル無能力者ノ過失ト殆ト相均シク或ハ之レヨリ重シト云フモ可ナルヲ以テナリ然レモ此場合ニ於テ社會ノ被フル所ノ損害ニ至ツテハ則チ獨リ一ナルニ過キサルカ故ニ共犯ノ場合ニ於ケルカ如ク數箇ノ罰金ヲ合科ス可カラス又不注意ニヨリテ罪ヲ犯シ罰金ノ責ヲ負フ場合ニ於テモ亦現場合ニ同一ナル法則ヲ設クルヲ得可シ蓋シ其ノ理由二者相似タルアルヲ以テナリ然レモ我輩ハ今マ敢テ之ヲ茲ニ主張セサル可シ違警罪ヲ改革スル新ニ過クルノ恐アルヲ以テナリ

〔第九百九十八號〕 以上違警罪ノ通則ヲ説明セリ今此説明ヲ終ルニ臨ンテ尙ホ一言ス可キ事アリ夫レ茲ニ列舉スル所ノ通則ハ第一篇ニ於テ設定シタル總則ト相反スル者ニアラス只之レニ加フルニ二三ノ法則ヲ以テシ以テ其缺漏ヲ補充スルニ過キサルナリ人或ハ曰ハシ違警罪ニ關シタル諸法則ヲ彼此兩篇ニ分置セシヨリハ寧ロ之ヲ盡ク此篇ニ聚合スルノ愈レルニ若カサルヘシト然レモ若シ此ノ如クスル時ハ第一篇中違警罪ニ關スル者ニハ一々之レカ爲メニ注目ヲ設ケ煩雜厭倦ス可キ者アルニ至ル可シ若シ然ラスシテ一々之レカ爲メニ注目ヲ設ケサル時ハ許多ノ總則中何レカ違警罪ニ適用ス可ク又何レカ之レニ適用ス可カラサルヤ判定スル能ハサルニ至ル可シ故ニ後日刑法ヲ改正スルノ時ニ當ツテ多少本案ノ定ムル所ヲ採用スルコトアラハ此通則四ヶ條ヲシテ第一篇ノ總則中ニ加フルヲ却テ

愈レリトス(且余輩ハ其不便アルヲ見ス)

第一章 公益ニ對スル違警罪

第一節 公安ニ對スル違警罪

火災及ヒ
水害ノ危
險

第四百七十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ壹圓五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニニ處ス

第一 官署ノ命令規則ヲ遵守セスシテ火藥烟火禁制ニアラサル破裂藥又ハ「アルコール」石油其他發火ノ容易ナル物品ヲ製造シ貯藏シ又ハ販賣シ若クハ市街ニ運搬シタル者(刑、第四百二十五條第一項第二項第三項)

第二 官署ノ許可ヲ得スシテ濫リニ人家稠密ノ場所ニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者其火器ハ火藥ノミヲ裝フタルモ亦同シ(刑、同前條第四項○佛刑、第四百七十一條第二項第四百七十三條第四百七十九條第三項第四百八十條第一項)

第三 蒸氣又ハ瓦斯機械其他火力ヲ用ル器械場ノ火竈又ハ烟筒ノ使用又ハ修理保存ニ關スル官署ノ規則ニ違背シタル者(刑、前同條第五項○佛刑、第四百七十一條第一項)

第四 人家ノ近傍又ハ自己ノ所有ニ係ルト他人ノ所有ニ係ルトト問ハス山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者(刑、第四百二十六條第一項)

第五 自己ノ所有ニ係ルト雖モ未ク充分ニ乾燥セスシテ自ラ火ヲ發スヘキ乾草又ハ藁ヲ人ノ家屋ニ附屬スル建造物ニ貯積シタル者(刑、第四百二十五條第二項)

第六 消防ニ備付タル唧筒及ヒ其他ノ消防具ノ保管ヲ託セラレ其修理掃除ヲ怠タル者

第七 瀧水又ハ流水ヲ支遮シ又ハ疎通スルカ爲メニ設ケラレタル堤防其他ノ土工ヲ修繕シ又ハ監督スルノ任ヲ受ケ其工事ヲ過リ若クハ疎虞懈怠ニ因テ堤防其他ノ土工ヲ破潰シ決水ヲ爲シタル者(刑、零)

第四百七十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ壹圓以上壹圓五拾錢以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニニ處ス

第一 官署ノ督促ヲ受ケテ街路又ハ人家ニ接近シテ崩壞セントスル家屋又ハ其他ノ建物ヲ支持修理シ又ハ取除クヲ怠リタル者(刑、第四百二十五條第六項)

大木ノ倒レントシテ人ノ害ト爲ラントスルモノヲ怠リテ支持又ハ取除ク爲サ、ル者ハ前項ノ規則ニ照シテ處斷ス(佛刑、第四百七十一條第五項第四百七十九條第四項)

第二 人ノ通行ス可キ場所又ハ數家族同居ノ圍圍及ヒ屋內ニ自然又ハ人爲ノ井坑其他ノ凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者(刑、第四百二十六條第五項○佛刑、前同條第四項)

第三 墜落シテ人ノ害トナル可キ物ヲ道路上ニ置キ又ハ圍圍ノ上ニ懸ケタル者(佛刑、前

公益ニ對スル違警罪 公安ニ對スル違警罪

同條第六項

第四 人ニ擲ツノ意ナキモ故意ヲ以テ道路其他公ケノ場所又ハ人ノ家屋園圍ニ瓦礫其他堅牢物又ハ衝尖物ヲ投擲シタル者(刑、第四百二十七條第五項)○佛刑、第四百七十五條第八項、第四百七十六條、第四百七十九條第二項

第五 狂人ノ看守ヲ怠リ道路ニ徘徊セシメ又ハ人ノ家屋園圍ニ入ラシメタル者(刑、第四百二十六條第七項)○佛刑、第四百七十五條第七項、第四百七十六條、第四百七十九條第二項

第六 猛獸ノ看守ヲ怠リ又ハ牛馬犬其他猛獸ニアラサル獸類ニテモ路上其他公ケノ場所又ハ家屋園圍ニ於テ之ヲ噉シ若シハ驚逸セシメタル者(刑、前同條第六項第八項)○佛刑、同前

第七 死亡ノ檢認ヲ受ケスシテ埋葬シタル者又ハ其檢認ヲ受クルト雖モ規則ニ定メタル時間ヲ經サル死屍ヲ埋葬シタル者(刑、第四百二十六條第九項、第四百二十七條第十項)○佛刑、第三百五十八條

第八 自己ノ所有地又ハ自己ノ看守スル場所ニ於テ死屍又ハ變死人ヲ發見シテ其地方官廳ニ申告ヲ爲サ、ル者(刑、第四百二十五條第八項)

第九 車夫舟手其他水陸ノ旅客運搬スルヲ業トスル者其積數定員及ヒ其他秩序安寧ニ關スル規則ニ違背シタル者(佛刑、第四百七十五條第四項、第四百七十六條、第四百七十九條

第二項

第十 惡意又ハ惡戯ヲ以テ公衆ヲ驚喝シ又ハ危險ナキヲ知リナカラ危險アリト稱シテ他人又ハ官吏ノ救ヲ呼ヒタル者(刑、第四百二十七條第十一項)

(前項人ヲ驚喝シタル場合ニ於テ因テ直ニ其人ノ死傷シタル時ハ第四百七十二條第二ニ記載スル區別ニ照シテ處斷ス)

(第九百九十八號) 夫レ人ノ最先ニ顧慮スル所ノモノハ其身體生命ヲ保全スルニアリ是レ自然ノ人性ナリ故ニ法律ノ最先ニシ最モ之ヲ重セサル可カラサル者亦タ國民一般ヲシテ能ク其堵ニ安セシムルニアル可シ

是ヲ以テ此第一節ヲ成ス所ノ二條ニ於テハ違警罪ノ多少人ノ生命ヲ危フスルモノニ對スル罰則ヲ設ケタリ然レモ茲ニ所謂人ノ生命トハ各箇人ニ關スルニアラス「全國民」ノ一部分ヲ成ストコロノ若干不定ノ人ニ關スルモノナリ各箇人ノ生命ニ關スルノ罪ハ第二章ヲ以テ之ヲ規定ス

又タ現節ノ諸法則ニ關シテハ説明解釋ス可キノ點極メテ少ナシ蓋シ類別起草ノ困難既ニ

斷スル時ハ法律ノ適用ニ關シテ困難ノ存スルモノ甚タ多カラサル可キヲ以テナリ
第四百七十八條

〔第九百九十九號〕 前篇(第四百四十五條以下及ヒ第四百五十六條以下ヲ參看スヘシ)ニ於テ
日本ニ在テハ故意ヲ以テ火ヲ放チ或ハ氷ヲ決スル者ニ對シテ特ニ嚴罰ヲ設ケサル可カラ
サルヲ論セリ我輩ハ其惡意ニ出ツルナキモ或ハ怠慢或ハ規則ヲ遵奉スル謹嚴ナラサル
ヨリ地方各部ニ火災水災ヲ醸ス者ニ對シテモ亦タ之ヲ罰スル頗ル嚴ナラサル可カラサル
ヲ信スルナリ故ニ現條ニ於テ法律ノ定ムルトコロノ刑ハ違警罪ニ當ツ可キ者ノ中最モ重
大ナル者ナリ而シテ此刑ハ時ニ之ヲ合科スルヲ得可ク時ニ又タ之ヲ分科スルヲ得可シ但シ
第四百七十六條ヲ以テ規定シタル三犯ノ場合ニ於テハ之レト異ニシテ裁判官必ラス之ヲ
全抵セサル可カラス(附言參看)

〔附言〕 三犯ノ場合ノ外ハ裁判官獨リ罰金ヲ命ジテ拘留ノ刑ニ處セサルヲ得而シテ如何
ナル場合ナルヲ論セス拘留ノ最低度ハ必ラス一日ニ上ラサル者ハ蓋シ此ノ理ヲ以テナ
リ且ツ夫レ裁判官只ク罰金ノミヲ命ジテ拘留ヲ命セサルヲ得ル時ニ當リテ拘留ノ最低
度ハ必ラス二日或ハ三日ニ下ル可カラスト制定スルモ只ハタ虛文タルニ過キス何ノ益カ
之レアラソ

本條第一項ヨリ第六項ニ至ルマテハ放火ノ場合ニ關シ而シテ第七及ヒ第八項ハ洪水ノ罪ニ
關ス

第四百七十九條

〔第一千號〕 本條ニ掲グルトコロノ場合ハ前條ノ場合ノ如ク重大ナラス蓋シ本條ノ場合ニ於
テモ亦人ノ生命ニ危難ヲ及ボサ、ルニアラス然レモ其危難ニ迫ラル、者其數前場合ニ於
ケルカ如ク衆多ナラサルヲ以テナリ且二三ノ場合ニ於テハ其危難各個人ニ止マルト言フ
モ可ナリ他人ノ家屋庭園ニ關スル犯罪ノ如キ殊ニ然リトス(本條第一項ヨリ第六項ニ至
ル迄ヲ參看ス可シ)是ヲ以テ或ハ此ノ如キ場合ヲ公共ニ對スル違警罪中ニ加フルハ其當
ヲ得タル者ニアラスト言フヲ得可シ然レモ類別ノ法ヲ嚴ニスルコト此ノ如ク而シテ本條ノ場
合ヲ本章ヨリ除キ去ル時ハ第二章ニ於テ更ニ相似タル法則ヲ設定セサル可カラサルニ至
ルヘシ而シテ其相異ナル者只ク其位地ノ變更ノミ夫レ之ヲ爲スモ其効ノ少ナキコト此ノ如シ
何ソ之レカ爲メニ更ニ力ヲ勞スルニ足ラン

次二項(第七第八兩項)ノ場合ニ於テモ上ノ場合ト同一ナル議論ヲ容ル、ヲ得可シ然レモ
尙ホ揭說ス可キ要點アリ即チ現場合ニ於ケル法律ノ目的是レナリ其目的トハ如何人ノ死
生未タ確定セサル時ニ當リテ之レニ投スルニ醫藥ノ救ヲ以テセス違違埋葬スルノ弊ヲ除

カント欲スル是レナリ

最終ノ二項(第九第十兩項)ノ場合ヲ本條中ニ列スル所以ノ者ハ亦タ人ノ生命ヲシテ危難ニ罹ラシムルヲ以テナリ殊ニ第十項ノ如キハ特別ナル場合ヨシテ從ツテ又タ之レカ爲メニ特別ナル規則ヲ設ケサルヲ得サルニ至レリ之ヲ例ヘハ觀戲場ニ於テ放火ヲ呼フカ如シ衆多ノ人之レカ爲メニ畏懼驚愕シテ遂ニ重大ナル災害ヲ生スルニ至ルコアルヘシ故ニ若シ惡意ヲ以テ訛言ヲ傳播シ之レカ爲メコ人ヲシテ死ニ至ラシメ或ハ肢體ヲ毀損シ或ハ又精神ヲ喪フニ至ラシメタル者アル時ハ法律ハ之ヲ罰スル極メテ嚴ナラサル可カラズ然リ而シテ此等犯罪者ノ被ムルトコロノ刑ハ只タ不注意犯罪ノ刑タルニ過キス惜ム可キニ似タリ我輩ハ此場合ニ於テハ當サニ第四百七十二條第二ノ例ニ照シテ之ヲ處斷ス可キ者ナリト信ス其理由ノ如キハ該條ヲ說クニ當リテ既ニ之ヲ揭示セリ

第二節 公寧ニ對スル違警罪

第四百八十條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ壹圓以上五拾圓以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

第一 夜間高聲放歌シ又ハ器物ヲ鳴ラシテ安眠ヲ妨ケタル者及ヒ晝間官ノ制止ヲ犯シテ高聲放歌シ又ハ器物ヲ鳴ラシタル者(刑、第四百二十九條第十一項)

第二 官署ニ抵抗スルノ意ナキモ公衆ニ向テ詆毀ノ揚言ヲ爲シタル者(佛刑、第四百七十九條第八項第四百八十條第五項)

(公道ニ於ケルノミナラス公道ニ接近セル家屋園圃ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シ通行人ヲ刺激シタル者ハ前二項ヲ適用ス)

第三 出入ヲ禁シタル場所ニ官命ニ違背シテ濫リニ出入シタル者(刑、第四百二十九條第九項)

第四 群集又ハ集會ヲ解散スルノ官命ニ違背シテ濫リニ集會シタル者

第五 他人ヲ教唆シテ前三項ノ罪ヲ犯サシメタル者

第六 官吏ヨリ氏名年齢職業住所ヲ質サレテ之ヲ告ルヲ肯セサル者又ハ之ヲ詐稱スル者

第七 雜種商人其職業ニ關スル規則及ヒ盜罪ヲ防ク警察ノ規則ニ違背シタル者

第八 鍵師、器械師、其他工人他人ノ需ニ應シ門戶及ヒ箱籠ノ鍵及ヒ出入口ヲ製造シ盜罪及ヒ拘摸ヲ防ク警察ノ規則ヲ犯シタル者

第九 劇場、觀物場、寄席、旅人宿、下宿舍、茶店、酒店、其他公ケニ開キタル建物等ノ取締ニ關スル規則ニ違背シタル者(刑、第四百二十七條第八項第四百二十八條第五項)○佛刑、第四百七十五條第五項)

第十 人力車、車、又ハ公ケニ供スル船舶ノ検査ヲ受ケサル者

第四百八十條

〔第一千號〕 現節ニ於テ規定スルトコロノ場合ハ人ノ生命ニ對スル犯罪ノ如ク衆多ノ安危ニ關スル者ニアラスシテ只ク世ノ靜寧ニ關スル者ナリ且ツ此種ノ犯罪中ニハ直チニ人ノ生命ヲ危フス可キ場合ハ盡ク之ヲ除キ去レリ故ニ我輩曩ニハ勉メテ區分ヲ少フス可シト斷言セリト雖トモ此類ノ場合ヲ前節ノ場合ヨリ分チ而シテ別ニ一節ヲ設クルヲ得可シ

現條ノ規則ニ關シテ復タ多言スルヲ要セス只ク一言説明セサル可カラサルヲアリ現條中違警罪ノ教唆者ヲ罰スル猶ホ其主犯者ヲ罰スルカ如クスルノ明文ヲ掲グルハ獨リ第五項ニ於テノミ其他ニ於テハ更ニ之ヲ見ルヲナシ是ニ依テ之ヲ看レハ此他ノ場合ニ於テハ誘導者ヲ罰ス可カラサルカ曰ク否夫レ煽動教唆ノ徒ヲ以テ共犯者ト同視ス可シトハ第一百一十八條ヲ以テ確定セシトコロノ原則ナリ而シテ此原則ヤ其包含スルトコロ頗ル廣ク之ヲ違警罪ニ適用スルヲ猶ホ重罪輕罪ニ適用スルカ如クスルヲ得可シ然ラハ則チ何ヲ以テ特ニ之ヲ茲ニ掲出スルヤ是レ他ナシ現條第二第三及ヒ第四項ニ舉クルトコロノ違警罪ハ他人ノ教唆ニ依ツテ起ルヲ最モ多キ者ナルヲ以テ法律ハ特ニ其教唆ヲ罰シテ之ヲ未然ニ防キ且其禁制ヲシテ益々其効力ヲ有セシメント欲スルナリ

第三節 道路ノ安全及ヒ其便宜ニ對スル違警罪

第四百八十一條 左ノ規則ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以内ノ拘留ニ處シ五拾錢以上壹圓ニ危險ナル違警罪

以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

- 第一 故意ヲ以テ衆人ニ危險ナル速力ヲ以テ公道ニ馬又ハ馬車ヲ疾驅セシメタル者(刑、第四百二十七條〇佛刑、第四百七十五條第四項第四百七十六條第四百七十九條第三項)
- 第二 官署ノ禁止ヲ肯ンセス人ノ群集中ニ進行ノ急徐ヲ問ハス馬又ハ馬車ヲ牽入レタル者
- 第三 夜中燈火無ク馬又ハ馬車ヲ急行セシメタル者

〔若シ手牽ノ車ヲ牽キタル者以上三項ノ違警罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ拘留ノ刑ニ處セス〕

- 第四 官署ノ許可ヲ得ルト雖モ道路ニ材石若クハ工事ノ物件又ハ其他ノ物ヲ堆積シテ其標識ノ點燈ヲ怠リタル者(同上、第四項〇佛刑、第四百七十一條第四項第四百七十九條第四項)
- 第五 惡意ヲ以テ公ケノ點燈ヲ消シタル者(刑、第四百二十九條第十三項)
- 第六 惡意又ハ惡戯ヲ以テ公有又ハ私有ノ場所ニ於テ他人ノ繫キタル馬牛又ハ其他ノ繫

道路ノ安全及ヒ其便宜ニ對スル違警罪

獸ヲ放チタル者又公有又ハ私有ノ河流ニ於テ他人ノ繫キタル舟舸又ハ筏ヲ解放シタル者(刑、第四百二十八條第一項)

(若シ以上二項ヲ犯シタルニ因リ直接ニ他人ノ死傷ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四百七十二條ヲ適用スルヲ得ヘシ)

交通妨害

第四百八十二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ五拾錢以上壹圓以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

第一 官署ノ許可ナク及ヒ止ムヲ得サルノ必要ナクシテ公道ニ建築用又ハ取毀ノ材又ハ庭園家屋ノ泥土又ハ舊材ヲ堆積シタル者及ヒ雪又ハ氷ヲ堆積シテ通行ヲ妨害シタル者亦同シ(佛刑、第四百七十一條第四項)

第二 官署ノ許可ナク又止ムヲ得サルノ必要ナクシテ橋梁又ハ堤防ノ杭木ニ舟筏ヲ繫キタル者(刑、第四百二十九條第一項)

第三 車馬舟舸ノ積載又ハ搬運ノ不良ニ因リ又ハ河岸ニ工事ヲ起シタルニ因リ道路掘割又ハ河流ニ堆積ヲ爲シタル者(刑、第四百二十九條第二項第三項第四項)

第四 能ク馴レサル馬又ハ牛ヲ公ケノ場所ニ牽キ又ハ之ヲ看守スルヲ若クハ繫クヲ忽クシタル者(刑、第四百二十九條第八項)

第五 官署ノ許可ナクシテ道路其他公ケノ場所ニ於テ飲食物小間物ヲ販賣スルノ目的又ハ其他ノ目的ヲ以テ床店ヲ開キタル者又ハ同上ノ場所ニ於テ卓上若クハ地上ニ商品ノ羅列ヲ爲シ官署ノ制止ニ依テ一旦取除ヲ爲スモ同日ノ中ニ再度其近傍ニ羅列ヲ爲シタル者(刑、第四百二十七條第十四項第四百二十八條第七項)

第六 警察ノ規則ニ依テ定メタル標識ヲ車馬ニ附セサル者

第七 通行禁止ノ場所ニ於テ步行騎馬又ハ乗車ニテ通行シタル者(刑、第四百二十九條第十項)

第八 官署ノ許可ナクシテ道路ノ側又ハ溝渠河流ノ岸上ニ建築柵圍ヲ始メ又ハ植物ヲ植ヘタル者又ハ掘割河流ニ柵、支柱、水車、浴場又ハ其他水ノ公供ヲ妨害スヘキ事業ヲ爲シタル者(刑、第四百二十七條第十三項)

第九 別ニ刑ノ定メナキ場合ニ於テ通車及ヒ通川ニ關シタル其他ノ警察規則ヲ犯シタル者(佛刑、第四百七十五條第三項第四項第四百七十六條)

承前

第四百八十三條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ貳拾五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
第一 官署ノ定メタル規則ニ從ヒ其所有地前ノ道路ヲ掃除スルヲ怠リタル者(刑、第四百二十九條第六項)○佛刑、第四百七十六條第三項

道路ノ安全及ヒ其便宜ニ對スル違礙罪

第二 官署ノ制止ヲ肯セスシテ路上ニ於テ輸贏ヲ競フノ遊戯ヲ爲シ氷履ヲ踏ミ紙鳶ヲ飛
 ハシ疾驅ヲ爲ス等通行ヲ妨害ス可キ遊戯ヲ爲シタル者(刑第四百二十九條第七項)
 第三 故意ヲ以テ止ムヲ得サルノ必要ナクシテ行軍又ハ公私ノ行列ヲ妨害シ又ハ横切リ
 タル者

第四百八十一條

〔第一千二號〕 陸路或ハ水路ヲ問ハス總テ公道ノ使用ニ關シタル規則ヲ破ルノ所爲ハ人ヲシ
 テ危難ニ罹ラシメ易キ者ナリ第四百八十一條ハ即チ此場合ノ犯罪ノ爲メニ設ケタル者ナ
 リ而シテ以下ノ二條ハ公道ノ使用ヲ妨害スルノ所爲ヲ規定セリ故ニ現條ノ犯罪ハ人ノ安寧
 ヲ害スルニ關シ而シテ以下二條ノ犯罪ハ只タ交通ノ便利ヲ妨碍スルノ所爲ニ關スル者ナリ
 現條ノ場合ノ規則ハ別ニ説明スルヲ要セス然レモ只タ一言ス可キコトアリ現條ノ第一第二
 及ヒ第三項ノ罪ヲ犯セシ者ハ馬車ニ非スシテ人力ヲ以テ動かストコロノ車ナル時ハ(人
 力車其外同類ノ車)法律ハ之レニ當ツルニ拘留ノ刑ヲ以テスルノ場合ナシトセリ其然ル
 所以ノ者ハ蓋シ危難ノ際ニ當リテ車夫ノ自ラ止マルハ馬ヲ抑止スルヨリ容易ナルヘキヲ
 以テナリ
 現條最終ノ兩項ニ於テハ口ハタ其意志ヲ以テスルノミナラス尙ホ之レニ加フルコト惡意ヲ以

テシ以テ罪ヲ犯スノ場合ヲ規定セリ犯罪者既ニ此惡意アリ法律ハ第四百七十一條ノ定則
 ニ從ヒ若シ此場合ニ於テ人ノ危害ヲ蒙ル者アル時ハ該條ノ例ニ照シテ之ヲ犯罪者ノ責
 ニ歸セリ然レモ非違ノ所爲只タ諸處ニ出ツルニ過キサル時ハ其結果ノ大小輕重如何ニ拘
 ハラス只タ之レニ當ツルニ不注意犯罪ノ刑ヲ以テス可シ

第四百八十二條及ヒ第四百八十三條

〔第一千三號〕 現兩條ニ掲クルトコロノ犯罪ハ只タ道路ノ交通ヲ妨ケ其便利ヲ害スルノ所爲
 ニ關シ之ヲシテ危難ナラシムルノ所爲ニ關セス第四百八十二條ニ於テ目撃セシトコロノ
 場合ハ其最モ較著ナル者ナリ然レモ時ト土地トノ異ナルニ從ヒ舟道或ハ車道ニ關シテ或
 ハ永久ニ施ス可ク或ハ一時ニ行フ可キ種々ノ規則ヲ設定スルヲ得可シ故ニ該條ハ豫メ此
 ノ場合ヲ規定シテ曰ク此他各地方ノ舟道或ハ車道ニ關シタル規則ヲ犯セシ者ニ對シ此等
 ノ規則ヲ以テ特別ニ其刑ヲ定ムルコトナキ時ハ現條ノ例ニ照シテ處斷ス可シト
 第四百八十三條ニ掲クルトコロノ犯罪ハ前條ノ場合ニ於ケル犯罪ヨリ輕ロシ故ニ現條ノ
 場合ニ於テハ拘留ノ刑ヲ命スルコトナシ(附言參看)

〔附言〕 本條ハ道路ニ於テ演技或ハ遊戯スルヲ禁セリ是レ嚴ニ過ルニ似タリ然レモ人
 烟稠密ナル大都府殊ニ一月初日ノ如ク往來繁劇ナル時ニ當ツテ其行人ニ障礙ヲ施スコ

道路ノ安全及ヒ其便宜ニ對スル遊藝罪

幾何ナルヤヲ思ハ、此ノ禁制ノ止ヲ得サルヲ知ルニ足ル可シ且ツ車馬ニ乗スル人ノ如キハ遊戯者ヲシテ傷害ナカラシメント欲シ其勞苦言フ可カラサル者アリ然レモ道路ノ中ニハ演技或ハ遊戯スルモ往來ヲ害セサル者亦タ許多アリ故ニ制止ニ從ハスシテ遊戯スルニアラスンハ違警罪ヲ以テ論スルヲ得ス

第四節 信用ニ對スル違警罪

第四百八十四條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ拾錢以上壹圓以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

第一 飲食物又ハ日用消費物ノ積重又ハ重量ヲ増加スル爲メ健康ヲ害セサル可キ他ノ物質ヲ混合シタル者(佛刑、第四百七十六條第六項第四百七十六條)

第二 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者(刑、第四百二十八條第一項(佛刑、第四百七十九條第六項))

第三 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リタル者(刑、同前第二項)

第四 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者(刑、同前第三項)

第五 路上ニ於テ賭博ヲ勸メ又ハ富籤ノ切手ノ購求ヲ勸ムル者(刑、同前第四項(佛刑、第

第四百七十五條第五項)

第六 吉凶禍福ヲ説キ未來ヲ豫言シ紛失物ヲ占現シ夢ヲ解ク等祈禱符呪ノ業ヲ爲シ人ヲ盡惑シ利ヲ圖ル者但シ因テ詐僞取財ヲ爲シタル者ハ詐僞取財ノ本條ニ照シテ處斷ス

(刑、第四百二十七條第十二項(佛刑、第四百七十九條第七項))

第七 度量衡ノ製造販賣又ハ其量目ニ關スル官署ノ規則ニ違背シタル者(佛刑、第四百七十九條第五項第六項)

第八 通用紙幣ニ類スル標識、商標其他ノ印刷物又ハ通用貨幣ニ類スル骨牌、佩玉又ハ玩弄物ヲ製造販賣シタル者

第九 偽造若クハ變造ニ非サル通用貨幣又ハ通用紙幣ノ拂ヒヲ受クルヲ肯セサル者(佛刑、第四百七十五條第十一項)

第十 俳優ノ外其權利ナクシテ軍人文官又ハ僧侶ノ制服ヲ着ケタル者
第四百八十四條

(第十四號) 本條第五項ニ關シテ一言ス可キアリ法律ハ公道ニ於テ賭博ヲ勸メ或ハ富籤ヲ賣ラントスル者ヲ以テ公ニ賭博ノ罪ヲ勸誘シ或ハ公然富講ヲ織成スルノ罪ヲ教唆シタル者トナスヲ得可キニ似タリ此二罪ハ第二百九十三條第二百九十四條及ヒ第二百九十五

條ヲ以テ規定スル所ナリ然レモ此罪タルヤ主唱者ノ如クシテ其坐ヲ有シ或ハ實際之ヲ演
スルニアラスンハ其罪ヲ成サ、ル者ナレハ人ノ未タ之ヲ承引セサル以前ニ在テ之ヲ發見
スルモ未タ以テ犯罪ト爲スコ足ラサルナリ今一例ヲ以テ之ヲ詳ニセシ一人アリ奕ナ人ニ
勸ム然レモ他人ヲシテ其坐ヲ開カシムルニアラス如何トナレハ其坐ヲ有スル者ハ之ヲ勸
ムル者タル可ケレハナリ是レ只タ他人ヲ勸誘シテ金錢ヲ賭セシムルノミ然リ而シテ第三百
九十四條ヲ見ルニ奕者只タ金錢ヲ賭セシノミナル時ハ其現行犯ヲ發見スルニアラスンハ
之ヲ罰スルヲ得ス然ラハ則チ賭博ノ教唆モ亦タ現行犯ニアラスンハ罰スルヲ得サル可シ
既ニ挑撥ノ現行犯ヲ罰スル時ハ則チ賭博實行セラル、ニ由ナシ其實行ナキ時ハ則チ如何
ナル名稱ヲ以テ教唆ヲ罰ス可キカ此場合ニ於テハ教唆ノ如何ナル犯罪ニ關スルヤ我之ヲ
見ル能ハサルナリ然レモ人ニ勸メテ金錢ヲ賭セシムルモ既ニ不正ノ所爲ニシテ且ツ世ノ
風俗ニ關スル大ナリ故ニ本條ノ茲ニ之ヲ罰セシハ其理ヲ得タル者ナリ

〔第一千五號〕 本條第六項ニ於テ規定スル所ノ犯罪モ亦タ輕罪ト相關セリ詐僞ノ罪是レナリ
若シ夫レ犯罪者衆庶ノ淺智ナルニ乘シテ些少ノ利ヲ圖ルニ止マル時ハ之ヲ罰スルニ至輕
ノ刑ヲ以テスレハ則チ足レリ然レモ犯罪ノ性質重キ加ヘ第四百三十四條ヲ以テ罰スルカ
如キ性質ヲ具フルニ至ル時ハ之ヲ論スルニ輕罪ヲ以テシ詐僞ノ例ニ照シテ之ヲ罰セサル

可カラス

第八項ヲ以テ規定スルカ如キ違警罪ハ日本ニ於テハ其例甚タ多カラサルヘシ然レモ亦タ
豫メ之ヲ慮リ之ヲ罰セサル可カラサルナリ只ク思フニ之ヲ此ニ掲ケンヨリハ寧ロ之ヲ論
スルニ輕罪ヲ以テシ貨幣贋造ニ關シタル節ノ終尾ニ列スルノ愈レルニ若カサルナリ刑法
ヲ改正スルノ時ニ至ラハ容易ニ之ヲ爲スヲ得可シ但ク之レニ加フルニ極メテ輕キ輕罪ヲ
以テセサル可カラス如何トナレハ此ノ如キ詐僞ノ意志ヲ生スルハ隻々ナラサルヲ以テナ
リ只ク恐ル、所ノ者ハ世人ヲシテ紙幣或ハ貨幣ノ形容ヲ畫キタル廣告賞牌等ニ目ヲ注セ
シムル事是レナリ〔附言參看〕

〔附言〕 佛國ニ於テハ此等ノ弊害頗ル大ナルヲ以テ曩ニ輕罪ヲ以テ之ヲ論センカ爲メ

ニ一ノ法律ヲ提出セリ然レモ此法律ハ未タ決議ヲ經サルヘシ

第五節 衛生ニ關スル違警罪

第四百八十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上二日以下ノ拘留ニ處シ貳拾錢以上壹圓
以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

第一 腐敗シタル飲食物又ハ有害物トシテ禁セラレタル飲食物ヲ販賣シタル者〔刑、第四
百二十六條第三項〕佛刑、第四百七十五條第十四項千八百五十一年三月廿七日ノ佛法〕

第二 禽獸ノ死屍又ハ其腐敗シタル肉骨其他汚穢物若クハ汚穢水ヲ道路、廣地、園圃等ニ棄擲シタル者(刑、第四百二十七條第六項第七項)佛刑、第四百七十一條第六項)

第三 自己ノ所有地前ノ溝渠下水ヲ毀損シ又ハ定則ニ若クハ官ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者(刑、第四百二十八條第六項)

第四 都市街衢ニ於テ禽獸ノ肥料ノ外汚穢物、糞類ニ蓋ヲ用ヒスノ路上ニ運搬シタル者

第五 病院又ハ醫學學校ノ外特別ノ官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者(刑、第四百二十五條第七項)

第六 官許ヲ得スシテ十五歳ニ滿タサル少年ヲシテ公ケニ體操ヲ爲サシメタル者

第七 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者(刑、第四百二十八條第九項)

第八 官許ヲ得スシテ公ケニ猛獸ヲ闘ハシテ遊戯トシ又ハ利ヲ圖ル者

第九 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病流行ノ場合ニ於テ官ヨリ特別ニ設ケタル衛生ノ規則ニ違背シタル者但第二百七十八條及其次條ニ記載シタル規則ニ牴觸スルヲ勿ル可シ(刑、第四百二十六條第四項)

第四百八十五條

(第一千六號) 第一項ヨリ第八項ニ至ルノ場合ニ關シテハ其理由ヲ説明スルヲ要セス而シテ世

ノ健康ヲ保護スルニ關シテハ法律ノ定規ヲ制限ス可カラサルヲ以テ現條ノ最終項ニ於テ規定スルカ如ク總テ健康ノ爲メニ設ケタル警察規則ノ犯罪者ニ加フルニ同一ノ刑ヲ以テセサル可カラス

彼ノ疫病及ヒ獸類傳染病ノ如キ特ニ重大ナル場合ノ爲メニ設ケタル豫防規則ヲ破ル時ハ之ヲ罰スルニ違警罪ヲ以テセス第二百七十八條以下ノ例ニ從ヒ輕罪ヲ以テ之ヲ論シ之ヲ嚴刑ニ處ス可シ是レ現項ノ明示スルトコロナリ

第六節 風儀ニ對スル違警罪

第四百八十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ五拾錢以上壹圓

五拾錢以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

第一 都市街衢ニ於テ路上又ハ厠場ノ外公ケノ場所ニ大小便ヲ爲シタル者

第二 公ケノ場所又ハ人ノ觀ルヘキ場所ニ於テ浴湯其他ニ依リ行儀ヲ怠リ裸體ヲ暴ハシタル者

第三 充分ニ浴場ノ外戸ヲ掩ハス又ハ場内ニ男女ノ分ヲ爲サスシテ浴場ヲ設ケタル者又ハ猥リニ男女ノ別アルヲ犯シテ混湯シタル者

第四 劇場又ハ官許ヲ得タル祭祀ノ外男ニシテ女装シ女ニシテ男装シタル者

風儀ニ對スル違警罪

第五 公ケノ場所ニ於テ醉臥シ喧噪シ又ハ醜體ヲ現ハシタル者

但此規則ハ第二百七十二條ニ記載スル阿片烟ニ醉フタル者ニ關スル規則ト抵觸スルヲ勿ル可シ(刑第四百二十九條第十二項○千八百七十三年一月廿三日ノ佛法)

第六 公ケニ放歌吟詠シ又ハ猥褻ノ語ヲ發シタル者

第七 婦人公ケニ角力ノ遊戯ヲ爲シタル者

第八 神祠佛堂、墓碑及ヒ公ケノ場處ニ在ル宗教上又ハ標識ヲ毀損シ又ハ汚漬シタル者

(刑第四百二十六條第十項第十一項)

第四百八十六條

〔第七號〕 我輩ハ此條ノ規則ニ關シテ只タ二箇ノ説明ヲ爲スニ止マルヘシ

第一、第五項ヲ以テ揭示スルトコロノ違警罪ハ第二百六十三條第二項ヲ以テ規定シタル服飾借用ノ場合ト相似タリ然レ其大ニ相異ナル者アリ心術ノ如何是レナリ即チ第二百六十三條ノ場合ニ於テハ犯罪者多少詐僞ノ心ヲ抱キ利益ヲ營マント欲スルモ現條ノ場合ニ於テハ只タ諧戲ニ出テ其風儀ヲ害スルハ尤ム可シト雖ヒ其心術ノ惡ム可キ者ナシ且ツ彼此ノ規則其位地ヲ異ニスルヲ見ルモ尙ホ二種犯罪ヲ分別スルヲ得可シ如何トナレハ第一ハ詐僞例中ニアリ詐僞例ノ性質ハ人ヲ害シ不正ノ利ヲ營ムノ心術ニアリ然リ而シテ第二

ハ只タ風儀ニ對スル犯罪中ニ列席シ男女衣服服用例ノ次ニアルヲ以テナリ二者區別ノ明白ナル此ノ如シ然レ法律ハ尙ホ疑念ヲ生スルコトナカラシメント欲シ現項ハ僞詐ノ意志ニ出ツル場合ヲ規定スル者ニアラサルコトヲ明記セリ

〔第八號〕 第二、此ニ説明スルトコロハ現條中ノ諸項ニ關スル者ニアラズ風儀例中我カ故

ラニ遺棄スルトコロノ場合アリ今マ其然ル所以ヲ辨明セント欲ス

世ニ風俗ヲ害スル最モ甚シキ一ノ犯罪アリ舊草案ニ於テハ之ヲ擧ケ之ヲ罰セリ而シテ今措テ而シテ顧ミス人其所以ヲ解セサル可シ密賣淫是レナリ

然レ此我之ヲ措テ問ハサル者ハ亦タ其理アリ第一、此場合ニ於テ法律ノ罰セント欲スルトコロハ既ニ其秘密ナル性質ニアル時ハ則チ世ノ風俗ヲ害スルノ罪ハ固ヨリ其尤ムルトコロニアラサルヘシ何ヲ以テ之ヲ言フ夫レ彼ノ遊廓ハ官容(官ノ之ヲ容ス亦タ止ヲ得サルニ出ツルナルヘシ故ニ官許ト言ハス)ヲ得公然奢侈ヲ極メテ其業ヲ營ム者ナリ之ヲ各個人ノ密ニ賤業ヲ行フ者ニ比スレハ其風俗ヲ害スル何レチ最モ甚シトスルカ今マ公然之ヲ行フヲ許ルス則チ其罰スルトコロハ秘密ノ性質ニアリ然レヒ公然ノ害ハ秘密ノ害ヨリ甚シ而シ今マ此ノ如シ然ラハ則チ何ヲ以テカ密ニ之ヲ營ム者ヲ罰セン(附言參看)

〔附言〕 世界周遊者ノ日本ヨリ歸ル者皆其日記中ニ遊廓建築、庭園、燈籠其華美ヲ極ムル

「ヲ」ヲ載セリ然レモ此等ノ建築ハ都府ノ中央ヲ距ル頗ル遠ク特別ナル區域内ニアリ而シテ
營業者ハ其區域ヲ出テ、行人ヲ招クヲ得ス以テ少シク其害ヲ救フ「ヲ」ヲ得可シ
今マ公然之ヲ營ムヲ許ス時ハ則チ密ニ之ヲ營ムヲ罰スルノ理安ニアルカ或ハ醫藥足フス
健康ヲ害スルカ爲ナルコアラサルカ

然レモ又タ風俗ヲ重スルヲ以テ其理由ト爲スヲ得サルニアラサルヘシ試ニ之ヲ説カン婦
女ノ此ノ如キ賤業ヲ營ム者ハ此業ノ爲メニ定置セラレタル土地ノ外ニ在リテ秘密ノ場處
ニ借伏シ且ツ其惡行ヲ隠サント欲シ種々ノ方法ヲ用ユト雖モ遂ニ全ク之ヲ蔽フ能ハサル
ヘシ隣人ニ對スルカ如キ殊ニ然リトス而シテ竟ニ正人ノ嫌惡ヲ來スニ至ルヘシ是レ或ハ以
テ之ヲ罰スルノ理由ト爲スニ足ランカ

然レモ我輩ハ之ヲ以テ風俗ヲ害スルトナシ或ハ之ヲ以テ健康ヲ害スルトナシ以テ之ヲ罰
スルヲ欲セス如何トナレハ之ヲ論スルニ違警罪ヲ以テスルハ其甚タ輕キニ過ルアルニ似
タルヲ以テナリ然レモ又タ風俗ニ對スル輕罪ノ例ニ加フルニ一ケ條ヲ以テシ以テ之ヲ罰
スルヲ欲セス(第二百九十一條及ヒ第二百九十二條ヲ參看スヘシ)如何トナレハ他ニ特別
ナル規則ノ之レヲ罰スル頗ル嚴ナル者アルヲ以テナリ故ニ第二百九十二條ニ於テハ追加
ノ規則ヲ設ケテ日ヲ從來ノ慣例及ヒ後日定ムルトコロノ規則ニ照シテ之レヲ處斷ス可シ

只タ我輩ノ言ハント欲スル所ノ者ハ密賣淫ノ罪ヲ以テ告訴セラレタル婦女ヲ普通ノ裁判
所ノ裁判ニ付セン事是レナリ夫レ娼婦ノ其營業規則ヲ犯セシ者ヲシテ特別ナル裁判管轄
ニ屬セシムルモ尙ホ且ツ甚タ非議ス可シ況ンヤ密賣淫ノ罪未タ其確證ヲ得サル時ニ於テ
之レニ通常裁判管轄ノ惠ヲ剝クニ於テオヤ我輩其理ヲ見サルナリ
佛國其他ノ諸邦ニ於テモ亦タ密賣淫ヲ以テ行政裁判所ノ管轄ニ屬セリ是レ法律家ノ可ト
スル能ハサルトコロナリ

第七節 公共ノ所有權ニ對スル違警罪

第四百八十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上二日以下ノ拘留ニ處シ拾錢以上壹圓五
拾錢以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

第一 揭示榜示其他官署ヨリ發シタル廣告ノ標榜等ヲ故意ニ毀棄損壞シタル者(刑、第四
百二十七條第十六項)

第二 故意ニ非ルモ疎虞又ハ規則ノ不注意ニ依リ公道、塔舍其他公ケノ建物及ヒ公道公
園ノ常燈及ヒ其所屬物若クハ電信電話ノ杭木、電線、電機ヲ毀損シタル者(刑、第四百二十

七條第十五項)佛刑、第四百七十九條第十一項)

公共ノ所有權ニ對スル違警罪

第三 官許ヲ得スシテ官有地縣有地又ハ町村共有地ニ獸類ヲ放チ又ハ牧畜シタル者(刑第四百二十八條第八項○佛刑第四百七十九條第十項)

第四 公園内ノ花菓枝葉ヲ折取シタル者又ハ公園ノ規則ヲ犯シタル者(刑第四百二十九條第十七項)

第四百八十七條

〔第九號〕 違警罪ヲ以テ罰スル所ハ犯罪者ノ過失ニシテ其過失ハ其不注意或ハ其淺慮或ハ又タ其怠慢ニ在リ故ニ人ヲ害スルノ意志又ハ罪ヲ犯スノ意志ノ如キハ違警罪タルニ必要ナル者ニアラサルナリ然レモ亦此意志ナクシテハ論スルニ違警罪ヲ以テセサル許多ノ場合アリ

今マ茲ニ本條ノ第一第二兩項ヲ説明スルニ當リ我輩ハ只タ此意志ヲ要シ又之ヲ要セサル場合ノ區別ヲ舉クルニ止マルヘシ抑官省ノ揭示或ハ公布ヲ破毀汚損スルモ其所爲タル極メテ輕ク又タ之ヲ改修スル極メテ易キ者ナリ故ニ其所爲故意ニ出ルニアラサルヨリハ法律ハ之ヲ罰スルニ違警罪ヲ以テセサルナリ此所爲故意ニ出ル時ハ法律ノ之ヲ罰スル所以ノ者ハ他ナシ蓋シ此場合ニ於テハ犯則者ノ心事甚タ惡ム可ク且之ヲ不問ニ置ク時ハ或ハ惡意或ハ私利ノ爲メニ社會ノ損害ヲ蒙ルルヲ偶然ノ過失ニ因リテ蒙ルルヨリ更ラニ多キ

ニ至ル可キヲ以テナリ
然レモ堂宇、道路、或ハ其他公共ノ建造物、或ハ電信柱或ハ其線等ヲ破壞毀損スル場合ニ於テハ上例ト異ナリ其所爲縱令ヒ思慮ヲ用ヒサルノ過ニ因ルト雖モ其レカ爲メニ社會ノ被ムル所ノ損害頗ル大ナレハ以テ之ヲ懲スニ刑罰ヲ以テシ以テ之ヲ屢スルヲ豫防スルニ足ルヘシ

其所爲只過失ニ出ル時ト雖モ尙ホ然リ況ンヤ其害心ニ出ル場合ニ於テチヤ其道路若クハ交通ノ方便ニ對スルト或ハ堂宇其他公共ノ建造物ニ對スル犯罪トチ別ダス宜ク之レニ加フルニ一層ノ嚴刑ヲ以テシ輕罪ノ例ヲ以テ之ヲ論セサル可カラサルナリ(第一百五十八條以下及ヒ第二百十條ヲ參看ス可シ)

第五項ニ於テ掲クル所ノ違警罪モ亦タ輕罪ト相類セリ其相異ナル所以ノ者ハ只タ其意志ニ出ルト過失ニ因ルトノミ夫レ公共ノ土地ニ於テ瓦、石、砂礫、草其他ノ物件ヲ採收スル者ハ或ハ不正ノ利ヲ圖ラント欲スル者アルヘシ此ノ如キ時ハ公共ノ物品ヲ竊取スルノ例ニ照シ輕罪ヲ以テ之ヲ論ス可シ(第四百十四條第一項ヲ參看スヘシ)然レモ所有者或ハ借家人或ハ又タ小作人其庭園或ハ其田野ニ急要ナル修繕ヲ加ヘント欲スルモ適々其材料ヲ缺クヲ以テ本條ニ目舉スル諸物件中ノ少許ヲ近傍公共ノ土地ニ取り以テ其用ヲ濟スノ場合

公共ノ所有權ニ對スル違警罪

モアルヘシ此ノ如キ場合ニ於テ其人ノ心ヲ探ルニ費用ヲ省キ私利ヲ圖ラント欲スルニア
ラスシテ寧ロ遅緩ヲ避ケント欲スル者ナルヘシ且公共ノ土地ニ於テ少許ノ物件ヲ取ルモ
人ノ之レカ爲メニ損害ヲ蒙ルコト極メテ僅少ナルヲ以テ此ノ如キ所爲ハ別ニ尤ムルコ足
ラストスルハ世際一般ノ習俗ナリ上ノ如キ竊取者モ亦之ヲ考ヘ以テ上ノ如キ所爲ニ及
ブ事アル可シ故ニ其心事甚タ惡ム可キ者ナシ

此場合ノ犯罪ハ第二百十條ニ掲グル場合ノ犯罪ヨリ更ラニ多カルヘシ是レ即チ本條ノ違
警罪ヲ以テ論セント欲スル所ナリ

第二章 各個人ニ對スル違警罪

第一節 人身ニ對スル違警罪

第四百八十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ壹圓以上壹圓九
拾五錢以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

第一 故意ヲ以テ人ニ暴行ヲ加ヘテ創傷疾病ニ至ラサル者

第二 人ニ傷害ヲ加フルコトナシト雖モ故意ニ犬又ハ其他ノ猛獸ヲ人ニ嚙シタル者又ハ自
己ノ犬ノ人ニ薄ルヲ留メサル者(佛刑、第四百七十五條第七項)

第三 人ヲ毆テ及ヒ人ヲ傷クルノ意ナシト雖モ故意ニ石又ハ其他堅牢物ヲ人ニ投シタル

者(佛刑、前同條第八項)

第四 醫師、外科醫、穩婆、正當ノ事故ナクシテ重病急病ノ場合ニ人ノ招キニ應セサル者

(刑、第四百二十七條第九項)

(以上ノ違警罪ヲ犯シタルニ因リ直チニ人ノ死傷ヲ致シタル者ハ第四百七十二條ノ二
ヲ適用ス可シ)

第四百八十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上二日以下ノ拘留ニ處シ五拾錢以上壹圓
五拾錢以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

罵詈及ヒ 嘲弄

第一 言語又ハ形容ヲ以テ一個又ハ數個ノ他人ノ前ニ於テ人ヲ罵詈嘲弄シタル者(刑、第
四百二十六條第十二項)○佛刑、第四百七十一條第十一項)

第二 人ヲ嘲弄スルノ意ナシト雖モ故意ヲ以テ汚物又ハ失敬トナル可キ物ヲ人ニ投シ若
クハ人ノ所有物ニ投シタル者(刑、第四百二十七條第七項)○佛刑、前同條第十二項)

第三 人ノ家屋前ニ高聲又ハ器物ヲ鳴ラシ喧噪シタル者又ハ公然罵詈嘲弄ノ狀ヲ呈ハシ
タル者(佛刑、第四百七十九條第八項、第四百八十條第五項)

本條ニ記載シタル三項ノ場合ニ於テハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百八十八條及ヒ第四百八十九條

(第一千十號) 人身ニ對スル違警罪ニ二種アリ一ニ曰ク其安全ヲ害ス二ニ曰ク其品位ヲ害ス

是レナリ

各個人ニ對スル違警罪 人身ニ對スル違警罪

八七九

第二ノ場合ニ於ケル違警罪ハ其刑少シク第一ノ場合ニ於ケル者ヨリ輕シ其理由ハ同性二種ノ輕罪其刑ノ輕重ヲ異ニスルト同シ即チ品位ニ施セシ損害ヲ療スルハ身體ニ施セシ瘡傷ヲ療スルヨリ容易ナルヲ以テナリ

輕罪ニ於テハ既ニ此區別ヲ爲ス則チ違警罪ハ其罪是レヨリ輕シト雖モ亦タ之ヲ爲スヲ得可キナリ

第四百八十八條第四項ハ醫師穩婆ノ正當ナル事故ナクシテ急病人ノ招ニ應セサル者ヲ罰セリ夫レ本條ノ場合ハ只タ一個人ノ利益ニ關セリ而シテ彼ノ第二百十二條ニ於テ傳染病或ハ獸類傳染病流行ノ際ニ當リ醫師或ハ獸醫ノ其術ヲ施スヲ肯セサル者ヲ罰スルハ社會全般ノ利害ニ關スルヲ以テナリ然リ而シテ今マ一個人ノ利害ヲ以テ社會全般ノ利害ト同視シ玆ニ均シク之ヲ罰スルハ蓋シ伊太利法律草案ニ依レル者ナリ

第四百八十八條ノ場合ニ於ケル違警罪ヲ罰スルコト此ノ如ク輕キ所以ノ者ハ蓋シ其犯則ニ因リ一モ他人ニ損害ヲ及ホスコトナキヲ以テナリ然レモ若シ之レニ反シテ人ニ損害ヲ及ホシタリトセンカ則チ本條第一ヨリ第三項ニ至ルノ場合ニ於テハ只過失ノミナラス意志ノ責ム可キ者アリ而シテ醫師ニ關シテハ其傍觀甚タ罪ス可キヲ以テ只尋常ノ違警罪ヲ以テ之ヲ罰ス可カラズ宜シク第四百七十二條ノ二ヲ以テ設ケタル新刑ヲ以テ之ヲ論ス可シ新刑トハ不注意ニ因テ生セシ損傷ノ刑ト故意ヲ以テ爲セシ損傷ノ刑トノ中央ヲ持スルモノナリ

〔第一千十一號〕 第四百八十九條第一項ハ罵詈訕弄ノ場合ヲ規定セリ此點ニ關シテ一言ス可

キ事アリ本條ノ法文ニ於テハ單ナルノ字ヲ用ヒタリ蓋シ一モ惡事洩行ヲ摘指スルコトナキ

場合ヲ指シ彼ノ輕罪ヲ以テ論スル所ノ誹毀ト相混スルナカラシメント欲スルナリ然レモ此ノ如キ罵詈訕弄ノ刑ハ彼ノ公然惡事洩行ヲ摘發誹毀スルノ刑ニ比スレハ頗ル輕シト雖モ尙ホ均シク輕罪ヲ以テ之ヲ論セリ(第四百條ノ二ヲ參看ス可シ)故ニ其輕罪ニ當ル場合ト又タ違警罪ニ觸ル、場合トチ區別スル事下ノ如クモサル可カラズ曰ク公然人ヲ罵詈スルニアラスンハ輕罪ヲ以テ論スルヲ得ス而シテ一名或ハ數名ノ外人ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス時ハ之ヲ罰スルニ違警罪ヲ以テス可シ蓋シ此ノ如キ場合ニ於テハ未ダ以テ公然ト稱スルニ足ラサルヲ以テナリ

第二節 財産ニ對スル違警罪

第四百九十條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上二日以下ノ拘留ニ處シ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ヲ附加ス又ハ單ニ拘留若クハ科料ノミニ處ス

第一 故意ヲ以テ人ノ繫キタル馬又ハ牛ヲ放チタルニ因リ其損害ヲ生シ價ヲ減シ又ハ一時紛失セシメタル者

第二 人ノ船舶又ハ舟筏ヲ水上ニ流放シテ前項ノ損害ヲ生シタル者(刑第四百二十八條第十一項)

惡意ヲ以テ本條ニ記載シタル違警罪ヲ犯シタル者ハ第四百七十二條ノ二ヲ適用ス

第四百九十一條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第一 故意ニ邸宅ノ番號、標札、招牌、賣家貸家ノ貼紙又ハ其他道路ニ貼付シタル有用ノ標示等ヲ毀損シタル者(刑、第四百二十九條第十五項)

第二 植付又ハ播種アル田圃ヲ徒歩、馬上又ハ車上ニテ通行シ若クハ牛馬ヲ牽入レ又ハ之ニ秣ヒ以テ人ノ耕作ニ損害ヲ生シタル者(刑、第四百二十九條第十八項)○佛刑、第四百七十一條第十三項第十四項

第三 牆圍ナキ他人ノ田圃圍圍ニ於テ惡意ニ非スシテ二三ノ菜葉ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者(刑、第四百二十九條第十六項)○佛刑、第四百七十一條第九項第十項

第四百九十條及ヒ第四百九十一條

〔第一千十二號〕 財産ニ對スル違警罪モ猶ホ人ニ對スル違警罪ノ如ク之ヲ分ツテ二種トス而シテ法律ノ之ヲ罰スル最モ重キ者ハ馬、家畜、大小船舶ノ如ク其概テ特別ナル保護ヲ與フル所ノ物件ヲシテ喪失スルニ至ラシムル犯罪是レナリ

此等ノ物件ニ對シ故意ヲ以テ罪ヲ犯シ且法律ノ指擧スルカ如キ條件ノ存スルアル時ハ但テ之ヲシテ喪失スルニ至ラシムルノミナラス尙ホ或ハ危害ヲ人ニ及ホスコトアル可シ且ツ此ノ如キ犯罪ハ只ク過失ニ出ツルノミナラス意志ノ之レニ加ハルアルヲ以テ之ヲ論スル宜シク第四百七十二條第二ノ定則ヲ以テ之ヲ可キナリ
第四百九十一條ノ場合ノ如キハ拘留ニ處ス可キ者ニアラスハ之レニ加フルニ罰金ノ刑

キ以テ之ヲ可キナリ
總テ財産ニ對スル違警罪ノ場合ニ於テ罰金ノ外民事上ノ賠償ヲ命スルハ復テ論スルヲ須ヒサルヘシ而シテ此賠償ハ過失ノ刑中大抵最重ナル者ナリ蓋シ刑ト賠償ト其性質ヲ異ニシ互ニ相獨立スル者タルハ重罪輕罪違警罪ノ三者ニ通適ス可キ原則ナリ(第五十八條ヲ參看ス可シ)

附加則

第四百九十二條、第五百七十六條 本法ニ規定セサル事項ニ付キ特殊ノ規則ニ依リ從前制

定シタル違警罪ノ刑ハ第十條第二項ニ記載セル區別ニ從ヒ引續キ之ヲ適用スヘシ

將來管轄官廳ヨリ布達セラレヘキ行政規則又ハ一般若クハ地方警察規則ノ違警罪ニシテ特別ノ刑ヲ設ケサルモノハ本編九節ノ各項目ニ照シテ處斷スヘシ(刑、第四百三十條)○佛刑、第四百八十四條

第四百九十二條、第五百七十六條

〔第一千十三號〕 既ニ第十條第一項ニ於テ本法ノ規定セサル或ル特別犯罪ニ關スル法律規則ハ依然之ヲ適用スルヲ原則トスルヲ述ヘタリ然レモ本法ハ敢テ從前ノ規則ニ影響ヲ及ホサ、ルコトアラズ蓋シ其總則ハ常ニ從前ノ規則ニ適用シ又將來ノ規則ニ至テハ反對ノ法則ヲ除クノ外之ヲ適用スヘキナリ(同第二項及第三項)

本條ハ其區域較々狹クシテ刑罰ヲ指定スルニ止マリ刑罰ノ種類ニ至テハ特別犯罪ニ關ス

ル従前ノ法律規則ヲ適用スヘキモノトス唯本法總則ニ從ヒ加減スヘキモノハ之ニ從フ
將來ノ行政規則又ハ一般若クハ地方警察規則ノ遵奉ノ制裁トシテ特ニ刑罰ヲ定メタルモ
ノハ茲ニ定メタル總則ト對照シテ之ヲ行フヘキモノトス然レモ若シ明カニ刑罰ヲ定メサ
ルキハ制裁ヲ附セサルヘカラスト雖モ亦其專横ニ流レサルカ爲メ本條ハ本編諸款ノ各項
目ニ照シ處斷スヘキ旨ヲ定メタリ

又一款ニシテ二條若クハ三條アリテ各條ノ刑相異ナルキト雖モ各條ノ規定スル損害ノ性
質ト新規則トヲ對照スルヲ敢テ難シトセス然レモ警察規則ヲ以テ其更ラニ規定スル犯罪
ノ刑罰ヲ定メサルコトハ稀レナルヘシ
然レモ此條例ハ亦裁判官ヲシテ新法ノ犯罪ニ該ツヘキ刑ヲ定ムルニ容易ナラシムルモノ
ナリ蓋シ特別ノ新法ト最モ接近セル刑法ノ條項ト對照スル敢テ難シトセサルナリ
舊草案(末條)ニハ將來ノ規則ニ刑ヲ掲ケサルキハ違警罪ノ二刑ヲ其最少限ヨリ最多限ニ至
ルマテ併科シ又ハ分科スルコトヲ裁判所ニ許シタリ是レ裁判所ニ過當ノ權力ヲ附スルモノ
ナリ

〔附言〕 本案ニ追加シタル律條ヲ舉ク採可セラル、ニ至ラハ改定刑法ハ五百七十六條
アルヘシ
全ク新制ニ係リ又ハ舊律條ヲ分離シタルカ爲メ増加シタル律條ハ第三百二十六條第二ニ
首トシテ其數八十四アリ

增加規則

小山田詮太郎譯

〔附言〕 左ニ掲クル増補規則ヲ認可セラル、以上ハ再閱刑法ハ五百七十六箇條トナ
ル可シ

新正條即チ舊正條ヲ分別スルニヨリ生ズル條數ハ第三百二十六條第二ヨリ起算シテ八十
四箇條トナル可シ

從來用ユ
ル規則

第四百九十二條即チ第五百七十六條 本法ニ豫定セサル事項ニ特別ナル規則ヲ以テ從來設
定シタル違警罪ノ刑ハ第十條第二項ニ掲ケタル變更ヲ用非引續テ適用ス可シ

將來ノ規
則

將來ノ爲メ管轄權ヨリ頒布シタル
行政規則又ハ一般若クハ一地方ノ警察規則ニ關スル違警罪ニ未タ特別刑ヲ定メサル者ハ
其性質ノ關スル本篇九節中ノ節目ノ刑ニ從テ罰ス可シ(第四百三十條○佛刑第四百八十四條)

第四百九十二條即チ第五百七十六條

〔第一千〇十三號〕 本法ニ豫定セサル或ル特別犯罪ニ關スル法律及ヒ規則ハ引續ヒテ適用ス
ヘシトノ原則ハ既ニ第十條第一項ニ於テ掲ケタル所ナリ○然レモ總則ハ從來用ユル諸規
則ニ適用スヘシトノ意義ヨリ觀レハ本法ハ此等ノ規則ニ影響ヲ及ボス可キモノナリ但シ

增加規則

將來ノ規則ニ付キ反對ノ條例ヲ設ケタルキハ此例ニ在ラス(第十條第二項及ヒ第二項并ニ同條註解第四十一號第四十二號)

本條ハ特ニ刑ヲ定ムルノミニ關シ汎博ニ渉ルモノニアラサルナリ特別犯罪ニ付キ從來用ユル法律及ヒ規則ハ刑罰ノ爲メニ引續ヒテ適用スヘシ但シ本篇ノ總則ニ因テ生シタル多少ノ變更ハ此例ニアラス

行政規則ト一般又ハ一地方ノ警察規則トチ問ハス凡テ將來ノ規則ニシテ其遵守ノ制裁トシテ確定ノ刑ヲ記載スヘキモノハ茲ニ掲ケタル總則ト其規則ノ文面トチ折衷シテ實行スヘキモノナリ○若シ其規則ニ毫モ明瞭ナル罰則ヲ掲ケサルコトアリト雖モ必ス制裁ヲ設クヘク而シテ其制裁タルヤ隨意ニ設クルコトヲ得サルカ故ニ本條ハ其制裁力新規則ノ關スヘキ本篇ノ節目ニ定メラル、旨ヲ掲ケタリ

若シ其節目ニシテ二三ノ正條ヲ含有シ其正條ニ定ムル所ノ刑相異ナルキハ其各正條ニ豫定スル損害ノ性質ニ新規則ヲ附着セシムルハ困難ナルコトニアラス○又警察規則ニシテ新タナル犯罪ニ科スヘキ刑ヲ規定セサルハ甚ク稀レナルコトナリ

然レハ此規則ハ新犯罪ノ刑ヲ定ムルコト付キ法廳自ラノ補助トナルコトモアルヘシ即チ此場合ニ於テハ法廳ハ特別ナル新法ト最關係アルヘキ刑法ノ正條ニ從テ刑ヲ定ムルハ容易ナリ
舊草案(末條)ハ裁判所ヲシテ將來ノ規則ニ刑罰ヲ定メサルキハ合セテ又ハ分ツテ刑ノ最下點ヨリ其最高點ニ至ルマテノ違警罪ノ二箇ノ刑ヲ宣告スルコトヲ許シタリ然レトモ如斯モノハ裁判所ニ附與スルニ太タ過分ノ權利ヲ以テセシモノナリ

〔附言〕 頒布法典(第四百二十條)ハ規則ヲ設定シタル「地方ノ行政官憲」ニ附與スルコト其規則ニ背反スル所爲ノ刑ヲ定ムルノ權利ヲ以テセリ然レトモ別段此權利ニ制限ヲ設ケス○吾人ニ於テハ此官憲ニ於テ違警罪ノ刑ヲ除キ其他ノ刑ヲ制定シ得ルモノトスルニ付テハ疑ヒヲ抱ク所ナリ

増補及ヒ改正

〔附言〕 本草案ノ此増補及ヒ改正ハ頒布法典ノ再閱ヲ任セラルヘキ者ノ爲メニ殊更設ケタルモノナリ

注意ナル文字ヲ記シテ別段「」又ハ「」印シナク記載シ始メタル諸項ハ此増補ヲ讀ム者ノ爲メニ設ケタルモノニシテ本文ニ加ヘタルモノト看做スヘカラス

(一) 増補

〔佛法典第四百八十四條〕

〔第四十二號第二 犯罪ノ其他ノ目次〕

増加ノ部

増補文ヲ記スヘキ箇所
上卷第三二葉第十條ノ下
同第三五葉(第十條ノ)要旨ノ下

〔然レトモ後文ニ於テハ法律上任意ノ救助ノ欠缺ヲ罰スルニ箇ノ場合ヲ發見スヘシ即チ自己ノ所有地内ニ遺棄セラレ又ハ迷失シタル兒子、老者、廢疾者又ハ病者ヲ發見スルモ之レニ救助ヲ加ヘスシテ其儘ニ置キタル場合(第二百七十八條)及ヒ自己ノ所有地内ニ死骸ヲ發見シテ其旨ヲ地方官憲ニ報知セサル者ノ場合(第四百七十九條第八項并ニ第四百八十八條第四項參觀)〕

〔同第五四葉 (第二條ノ註解第
二十五號ノ末)
第五行ノ下〕

〔佛法典第七十條第七十一條及第七十二條〕

〔同第一〇一葉第二十四條
ノ下〕

〔佛法典第三十四條〕

〔同第一〇六葉第三十九條
第九項ノ下〕

〔佛法典第二十八條〕

〔同上第四十條ノ下〕

〔頒布法典第三十四條〕

〔同第一〇七葉第四十三條
第二項ノ下〕

〔及時云々〕

〔同第一〇八葉第四十九條
法律ニテ定タル場合ノ下〕

注意 草案カ監視ヲ命スル場合ノ列記ヨシテ第四十九條ノ下ニ掲ケタルモノハ不充分ナリ故コアベセ順事項振録表ノ「シユルウエイヤノス」(監視)ナル文字ニ於テ其列記ノ完全ナルヲ發見ス可シ

〔第一三五葉 (第一編第二章第一
節註解第四十四號)〕

〔同第一四七葉 (第四十四
號ノ第二)
第七行ノ「既ニ注意セシメ
タル」ノ下〕

〔佛國ニ於テハ現今死刑執行ノ公示ヲ廢止スルカ爲メ議院ニ提出シタル法案アリ〕

〔同第一七六葉 (第十七條註
解第五十五
號) 第二行ノ下ニ附言ヲ
以テ記載ス可シ〕

〔然レモ第四百六十五條ヲ參觀スヘシ〕

〔同第一九八葉第七行ノ下
(第三十一條註解
第七十六號ノ末)〕

〔罰金ヲ拂ハサルキニ禁錮ノ刑ヲ以テ之ニ代ユルハ惡意ノ刑罰ナルヲ認容スル以上ハ此禁錮ノ刑ハ輕禁錮ノ代ハリニ重禁錮(苦役ヲ強メシムル禁錮)タルヲ以テ條理ニ適スヘシ蓋シ受刑者ヲシテ苦役ヲ強メシムルキハ其上納セサル罰金ノ一分ヲ賠フヘケレハナリ〕

〔同第二一二葉第八十六號
ノ終リ〕

増加ノ部

〔如斯貴族ノ稱號ヲ掲ケタル後ニ日本政府ハ數多ノ高等官吏ニ恩賜物ト共ニ種々ノ階級アル貴族ノ稱號ヲ與ヘタリ〕
同第二二一葉第九行ノ下
(第三十九條註解第九十四號第三項ノ下)

〔上卷第四三一葉(第九九條註解第百三十三號第三項)及ヒ同葉ニ設ケタル増補ニ於テ第七十六條第三項ノ原則ノ第三ノ結果ヲ見ルヘシ即チ減刑ニ因テ代ヘタル刑ハ裁判宣告ニ因リ命セシモノトシテ看做スヘキモノ是レナリ〕
同第二九三葉第二項ノ下
(第七十六條註解第百四十四號ノ末)

〔第八十一條ハ輕罪ノ刑ニ適用ス可シ〕
同第三〇四葉第八十三條第三項トシテ記スヘシ

〔重罪ノ事項ニ於ケル〕
同第三〇五葉第八十七條〔從タル刑〕ノ前

〔輕罪ノ事項ニ於テ法律ニテ別段ノ條則ヲ設ケサルハ從タル刑ハ主タル刑ノ如ク等級ニ因テ上下スヘシ〕
同第三〇五葉第八十七條ノ第二項トシテ記スヘシ

〔以下ニ於テハ刑ノ加重又ハ減輕ハ確定又ハ直接ノ刑ヲ以テ概子置キ代ヘタルニ因リ大ニ困難ヲ減シタリ(事項撮録表直接ノ刑ヲ參看スヘシ)〕
同第三一九葉第十五行ノ下ニ附言トシテ記スヘシ
(第七十八條註解ノ末附言トシテ)

〔少ナクモ重罪ノ事項ニ付テハ〕
同第三二二葉第七行ノ下(第八十七條第百五十八號ノ下)
同第三二二葉第七行ノ下(第八十七條第百五十八號ノ下)

〔輕罪ノ事項ニ於テハ監視ノ刑ハ當然宣告スヘキニアラスシテ別段之レカ爲メ法文ヲ要スルモノナレハ若シ法文カ本刑ノ爲メニ設ケアルハ監視ハ減シ又ハ増シタル刑ニ附加スヘキ旨ヲ法律ニテ再ヒ述フルヲ必要トセス○又主タル刑ノ増減ナキハ其附加刑ニ長短アルハ正當ナラサルヘシ故ニ附加刑ハ主タル刑ノ如ク漸次ニ増減スヘシトノ原則アルモノナリ○然レトモ主タル刑ノ減シタル場合ニ於テ法律上其附加刑ニハ右ニ述ヘタル如キ結果ヲ認許セスシテ之レニ特別ノ期限ヲ定ムルヲモアルヘシ故ニ此場合ハ法律ニ貯存スル所ニシテ吾人ハ盜取物隱藏者ニ之レカ適用ナシタルヲ發見スヘシ(第四百四十四條第三)〕
同第三二六葉第六行(第八條註解第五項ノ首部ノ區別スベシノ前ニ)
同第三二六葉第六行(第八條註解第五項ノ首部ノ區別スベシノ前ニ)

〔又〕
同第三二六葉第六行(第八條註解第五項ノ首部ノ區別スベシノ前ニ)

〔特別ノ沒收ハ其性質上分ツヘカラサルモノニシテ漸次ノ増減〕
同第三二三葉第七行

ヲ惹起セサルヲ注視セシムルハ敢テ必要ナラス
注意 犯罪執行ニ當リテノ錯誤特ニ被害者ニ關スル錯誤ハ罪責
ト刑ノ適用トチ必スシモ除却セストノ原則ヲ擴ムルニ就キ吾
人ハ現今疑惑ヲ懷ク少シ蓋シ此場合ニ於テハ吾人カ第三百
三十三條第三百四十一條第三百六十三條第二（後ノ増補ニ於
ケル）及ヒ第二百八十五條第四ニ於テ發見スヘキ條例ト同様
ナル條例チ數ト反覆スルニ至ルコアリテ遺憾トスル所ナリ而
シテ身體ニ對スル犯罪及ヒ財産ニ對スル一切ノ犯罪ノ事項ニ於
テ右ノ條例チ一般ノ規則トシテ發見セサルハ奇怪ナルカ如シ
故ニ吾人ハ茲ニ故殺罪及ヒ故意ノ毆打創傷罪ニ適用スルノミ
ナラス尙ホ不法ノ逮捕及ヒ不法ノ監禁脅迫墮胎兒ノ委棄幼者
ノ略取誘拐及ヒ目的タル被害者カ官吏又ハ官廳ニ奉職スル者
ニシテ其人ノ上ニ錯誤アリシキハ公益ニ對スル犯罪ニモ適用
スヘキ一般ニ渉ル法文チ提出ス○其規則ハ尙ホ財産ニ對スル
犯罪ニモ適用スヘシ

其規則ノ文面左ノ如シ

「第八十九條第二 公私ノ人又ハ他人ノ財産ニ對スル既遂又ハ
未遂ノ重輕罪ニ於テハ人又ハ財産上ノ錯誤ハ犯罪ノ元素トシテ
有罪ノ意思ヲ除却セス

其既遂犯ノ刑、決意シタル犯罪ノ刑ト異ナルキハ其最モ輕キ刑
ノミチ適用スヘシ但隨意ノ放火罪及ヒ隨意ノ決水罪ノ事項ニ揭
ケタルモノハ此例ニ在ラス」

此條例ハ第八十九條ノ註解即チ吾人カ或ル犯罪ニ特別ナル條
例ノ狹隘ナル方法ヲ掲ケテ其範圍ヲ出テサリシ所ノ第六十
五號第三及ヒ第六十五號第四ノ文ニ變更ヲ爲スヘキニ至ル
加之此條例ハ第三百八十五條第四ヲ廢止シ第三百六十三條第
二ナル増加ノ箇條（後文ニ就テ
見ルヘシ）チ無効ナラシム
今吾人ノ提出シタル新箇條ノ註解左ノ如シ

『若シ此新規則ノ認許セラル、ニ於テハ本條第二項ニ述ヘタ
ルカ如ク既ニ遂ケタル事實ノ眞實ナルコト決意トチ斟酌スル

増加ノ部

同第三六〇葉（第六十五
號第三ノ末）

ヲ要ス既遂ノ事實ト決意トハ罪ノ輕重ノ點ニ付キ異ナレルヲアリ此ノ如キ場合ニ於テハ一般ノ原則ニ從ヒ常ニ其中ノ最モ輕キ刑ヲ適用スヘシ

故ニ尋常故殺罪ヲ犯ント欲セシ者其父ヲ殺セシキハ殺尊族親ノ犯人トシテ罰スヘカラス何トナレハ其父ヲ死ニ致スノ意思ヲ有セサレハナリ○之レニ反シテ殺尊族親罪ヲ犯ント欲シテ尊族親ニアラサル者ヲ死ニ致セシキハ尋常故殺罪ヲ犯セシ者トシテ罰セラルハ過キス何トナレハ其遂ケタル所爲ハ其決意セシ所爲ヨリモ輕ク又異ナレハナリ

法律ノ深意ヲ尋ヌルニ後文右ニ述フル所ト類スル困難アルニ因リ其困難ヲ決シタルハ右ニ掲グル場合ト同様ノ決定ヲ爲シタリト云フヘシ後文ニ掲グル場合トハ即チ決意シタル犯罪ト異ニ遂ケタル犯罪トハ重劇ノ點ニ異ナリタルモノナリ(第百二十一條參觀)

他人ノ財産ニ損害ヲ加ヘタル犯人ハ確定財産ヲ毀却セント欲

シテ他ノ財産ヲ毀却シ而シテ其他ノ財産ニ就テハ刑罰ノ一層重キカ又ハ一層輕キ場合ナリシトセンニ此二箇ノ場合ニ於ケル論決ハ同様ナルヘシ(第四百六十五條以下參觀)
隨意ノ放火罪及ヒ隨意ノ決水罪ニ付テハ以上述フル所ト異ナル論決ヲ爲シタル所以ノモノハ(第四百五十三條及ヒ第四百五十八條)社會ノ危險ノ非常ニ重劇ナルヲ基テ設ケタル嚴重ナル例外法ナルニ由レルナリ

〔又〕

〔吾人ノ考フル所ニテハ〕

同第三八八葉第二行
(第九十七條註解第百七十八號第
二ノ八項註ノ儘カナルノ前)

同第三九八葉第十三行
(第百八十五號
第一項ノ末)

注意 此ノ如ク「吾人ノ考フル所ニテハ」ナル疑ヒノ文ヲ加ヘタリ其故何トナルニ吾人ハ千八百六十七年十月四日ノ白耳義法典ハ陪審官ヲ除キ諸院諸裁判所ニ減輕情狀ヲ宣告スルヲ許シテ「減輕スヘキ情狀ハ諸判決文ニ指示スヘキ旨」ヲ附記シタルヲ知リタレハナリ○右ノ如キヲ附記シタレハ是レ其減輕スヘキモノト稱シタル事實

増加ノ部

ナ明言スヘシトノヲ指示シタル法文ナラン、吾人ニ於テハ如此法律ニ向テハ嚴重ナル駁議ヲ與フヘシト雖モ果シテ是レ眞ニ白耳義法ノ意義ナルヤ如何ト疑フ所ナリ

〔又第四百七十五條ヲ看ルヘシ〕

同第四〇〇葉第七行
〔第百條第百一條第百八十六號ノ最尾〕

注意 草案ニ於テ刑ノ最高點ヲ直ニ宣告スル場合ハ稀レナリト

記シタリ(如此直ニ最高點ヲ宣告スルハ刑ヲ分ツヘカラサルモノト爲スナリ)然レトモ後ニ草案ヲ改正シ且ツ完全ナラシメテ吾人ハ其直ニ最高點ヲ宣告スル新ナル場合ヲ提出スルニ至レリ而シテ此ノ方法ニ於テハ或ル構造事實又ハ加重事實ノ故ニテ刑ヲ重クスルニ當リ之レヲ高等ニ至ラシメスシテ重クスルノ方法ヲ發見セリ(第二篇第三章第三第四條及ヒ第十五條并ニ第二百二十三條第二百三十七條第二百三十八條第二百四十二條第二百四十九條第四百二十五條第二百四十六條參觀)

同第四一三葉并ニ第四一四葉
〔第百九十二號〕

〔吾人ハ又違警罪ノ事項ニ於ケル三犯ニ付キ加重スヘキヲ發見〕(同第四一八葉第一四行)

見スヘシ(第四百七十六條參觀)

〔第百二條第百九十一條參觀〕

注意 軍律(第四十五條)ハ軍人ノ犯シタル一切ノ犯罪ニシテ該法律ノ管轄ニ屬スルモノニアラサレハ軍人ニ再犯ノ刑ヲ適用セズ

同第四二八葉第十行
〔第百六條註解ノ末〕

此規則ニハ駁議ヲ呈スヘキヲアリ然レトモ今駁議ヲ呈スルノ所ニアラサルナリ

注意 茲ニ豫定シタル場合ニ於テ第百二條ヲ適用セズシテ第百三條ヲ適用スヘシト述ヘタルハ至當ナルニアラス是レ蓋シ吾人ノ述ヘタル差異ヲ構造セサレハナリ何トナレハ右兩條ニ於テハ第二ノ刑ハ輕罪ニシテ一等ヲ加ヘタルモノナレハナリ此場合ニ付キ掲ケタル文面ヲ左ノ如ク改正スルヲ要ス

(前略)扱テ吾人カ重罪ノ刑減刑シテ輕罪ノ刑トナリ其後ニ其犯者更ニ重罪ヲ犯セシ場合ヲ想像スルハ第百二條ヲ之ニ適用セサルヘシ何トナレハ最初ノ處刑ハ最早重罪ト看做サレサルナリ且第百三條モ亦之レニ適用セサルヘシ何トナレハ其更

同第四三一葉第十一行
〔第百九條註解第百三號第三項ノ中〕

増加ノ部

ニ行フタル犯罪ハ尋常ノ輕罪ニアラサレハナリ則チ此場合ニ於テハ犯者ハ再犯ノ爲メニ毫モ其刑ヲ加重セラル、コナシ何トナレハ加重ハ始メ輕罪ヲ犯シ後チ重罪ヲ犯シタル場合ノ再犯ノ爲メニ存セサレハナリ(第百三條註解第百九十七號參觀)

〔舊草案第六章〕

〔第六章〕

〔佛法典第四百四十條乃至第四百四十二條〕

〔大臣〕

〔頒布法典第三百四十五條〕

〔第四百六十一條以下參觀〕

〔既ニ加重ノ普通原由ノ存スル所ノ〕

〔佛法典第二百三十一條乃至第二百三十三條〕

〔鐵ヲ被ラシタル杖竹鎗農具、石ノ如キ〕

〔第四百八十九條第一項ヲ比較スヘシ〕

〔公ケノ官吏ニ對シテ罵詈誹譏ヲ爲サスシテ脅迫ヲ爲シタル者ハ其刑ハ第三百六十五條第二項ニ因テ規定ス〕

〔脅迫〕

〔然レトモ吾人カ脅迫又ハ暴行ヲ爲サス亦獄舎ヲ毀壞セズシテ逃走シタル囚人ハ罰スルコアルヘシトノコトヲ認許スヘキ場合アリ即チ彼ノ火災又ハ洪水ノ如キ重劇ナル危害ニシテ囚人ノ性命

増加ノ部

同第四四二葉(第百十六條)〔要旨〕ノ下

同第四四五葉(第百二十七條)註解ノ首

同第四五九葉第百十四條ノ終

同第五九三葉第十三行(第百九十一號)參議ノ前ニ

同第六六一葉第十五條ノ下

同第七二二葉第十四行ノ終(第百八十三號)參議ノ終

同第七二四葉第五行(第百八十五號)參議ノ終

同第七二七葉第百六十八條第三ノ下

同第七三八葉第十五行(第百九十二號)參議ノ終

同第七四二葉第九行(第百九十五號)參議ノ終

同第七四五葉第九行(第百九十七號)參議ノ終

同第七四六葉第百七十二條第十二行(第百九十八號)參議ノ終

ヲ害スヘキトニ其危険ノ過キタル後ハ復ヒ歸ルヘキノ明瞭ナル
條件ヲ以テ一時囚人ヲ自由ノ身ト爲シタル場合はナリ而シテ如
此例ハ日本ニ往々存スルモノニシテ此ノ如ク自由ニ置カレタル
囚徒ハ率テ歸獄スル者ナリ

此ノ如キ場合ニ於テ獄舎ニ歸ラサル囚徒ニ對スル特別刑ヲ設ケ
タルハ宜シキヲ得タルモノト云フヘシ而シテ其條例ハ囚徒ノ利
益トナルノミナラス等シク社會ノ利益トモナルヘシ何トナレハ
監獄長ハ若シ此條例ナキニ於テハ危険ノ場合ニ囚人ヲ逃レシム
ルニ就キ躊躇シテ事ヲ決セサルノコトアルヘクシテ若シ之レヲ逃
レシメスシテ遂ニ囚人ニ死ヲ加ヘタルカ如キコトアレハ其之レヲ
逃レシメサル者ニ對シ宣告シタル頒布法典(第二百八十一條)ノ
刑ニ處セラル、ニ至ルヘケレハナリ(此事ニ付キ記載シタル第
三百十五條ノ註解第六百三十九號第三ヲ看ルヘシ)○此道逃シ
タル囚人ノ刑ハ獄舎ヲ破リテ逃レシ者ノ刑ト輕重ナキコトヲ以テ
當然トス(第七十二條及第七十四條)

同第七五三葉第十五行
第三百九十九
號第一項ノ末

此事ニ付キ吾人ノ提出スル法文左ノ如シ

第七十四條第二 火災、洪水、地震ノ場合ニ於テ其災害ヲ經過
スルノ後ニ歸獄スヘキ明約ヲ以テ縱ダレタル一切ノ囚人ニシテ
此明約ニ背ヒタル者ハ第七十二條第一項并ニ第七十四條ニ
掲ケタル刑ニ處ス可シ

〔第七八二葉第三行
第四百二十三
號末項ノ終〕
同第八〇七葉第二百三條
第二項ノ本文トシテ加フ
ヘシ

〔犯者不法ニ封印ヲ開ク爲メニ官吏ノ身分又ハ徽章ヲ借シタル
件ハ刑一等ヲ加フ〕

注意 第二百十條ノ下ニ身分證書ノ破壊又ハ之レヲ使用シ得
サラシムルニ致シタル罪ニ關スル第四百七十三條第二ノ規則
ヲ設置スルコトヲ得ヘシ○此犯罪ハ同時ニ公益及ヒ各人ノ利益
ニ關スルモノナルカ故ニ第二篇又ハ第三篇ニ記載スルモ殆ソ
ト不都合ナキ旨ハ吾人ノ既ニ説明(第三百八十五條第二第七

同第八〇八葉(第二百十
條ノ下)

百九十二號第二ノ附言并ニ第四百七十三條第二ノ第九百八十七號)セシモノナリ

〔海陸軍ノ兵役ヲ自ラ免カレ又ハ他人ヲ免カレシメントノ目的ヲ以テ自己又ハ他人ノ手足等ヲ截斷シタル者ハ云々〕

同第八一八葉第二百十三條ノ修正文トシテ加フヘシ

〔佛法典第四百七十五條第十二項〕

第二百十三條第二ノ下

〔最初ノ〕

同第八二一葉第十行
(第二百十二條第四百五十四號第二項ノ首ノ編制ノ前)

〔軍役ニ服従スヘキ者ニシテ右截斷罪ノ正犯ニモ從犯ニモアラサルヲ想像スヘシ此場合ニ於テモ尙ホ其正從犯ニ對シテ刑ヲ免カレシムヘキニアラス例ヘハ父若クハ母其子ノ兵役ニ就クヲ免カレシメンガ爲メ子ノ承諾ヲ得ス其子ノ犯罪ニ加効スルヲナク其子ノ手足等ヲ截斷セシヨアルヘシ〕

同第八二五葉第二百十三條第四百五十八號第三項ハ末文ヲ削リテ其代ハリニ加フヘシ

〔下卷第二葉第二二行(第四百六十號第二項)中著書等ノ製造ノ次キ〕

〔著書所有權(即チ著權發行)ニ關スル法律ハ明治八年(千八百七十五年九月三日)ニ制定シ同十六年(千八百八十三年六月二十九日)ノ法律ニテ改正シタリ製造標ニ關スル法律ハ同十七年(千八百八十四年六月七日)ニ制定シ發明品製造及ヒ販賣ニ關スル法律ハ同十八年(千八百八十五年四月十八日)ニ制定シタリ〕

同上ノ附言トシテ

〔頒布法典第四百二十五條第十四項〕

同第一一二葉第二百五十一條第一項ノ下

〔違警罪ノ事項ニ於テハ被告人ノ利益トナル僞證ノ刑ハ違警罪ノ刑ナルカ故ニ其犯罪モ亦自カラ違警罪ナレハ嚴重ナル方法ニ於テハ公ケノ信用ヲ害スル違警罪中ニ設置スヘキナリ(第四篇第一章第四節)然レトモ僞證ニ關スルモノヲ分別セサルハ亦利益アルモノナリ〕

同第一一二三葉第十一行(第二百五十一條第五百四十三號第三項)ノ附言トシテ記スヘシ

〔總テ此等ノ註解ヲ印刷ニ附シタル後日本政府ハ何等ノ制限ヲモ設ケスシテ紙幣ヲ持參スル者ニハ貨幣ヲ渡スヘキ旨ヲ明言セリ然ルニ實際其引替ヲ求ムル者少ナクシテ紙幣ハ全ク消却スル〕

同第二七葉(第四百七十二號)ノ附言ノ終リ

増加ノ部

マテ銀貨ト同位ニ流通ス

〔茲ニ欲シタル處置ハ暗ニ前記シタル處置ト共ニ設ケタルモノ、如シ即チ紙幣ヲ撰擇セスシテ銀貨ヲ撰擇スル者ハ之レカ爲メニ各人ヨリ紙幣ヲ受ルコト大ナルヘシ而シテ其者ハ貨幣ト引替ユルノ勞ヲ爲サ、ルヘカラス〕

〔官ノ封印ヲ不法ニ破棄シ又ハ開封シタル罪ノ(第二百三條第二項)〕

〔下卷第二六六葉ノ附言(第六百三十一號)ヲ比較ス可シ〕

〔第一項 總テ(公ケ)、、、、、、ノ會計官總テ、、、、、、受託者又ハ監守者ニシテ其會計、保有又ハ監守セシ所ノ金額、有價物又ハ證券ノ全部若クハ一部ヲ或ハ曲取シ或ハ竊取スル者ハ其景狀ニ從ヒ背信又ハ竊盜ノ刑ニ二等ヲ加ヘテ罰ス可シ

第二項 右會計官吏、、、、ノ屬員又ハ雇員ニシテ同様ノ竊取又ハ曲取ヲ爲ス者ハ右ノ刑(背信又ハ竊取)ニ一等ヲ加ヘテ罰ス可シ

〔同第三〇葉(第四百七十項)ノ附言トシテ記スヘシ〕

〔同第一六一葉第十三行(第六十三條註解第五百六十八號)第三項ノ中ハ不法ノ逮捕ノ次キ〕

〔同第一六六葉第七行(第二百六十四條第二項ノ註解第五百七十一號第二項ノ終リ)〕

〔同第二五四葉第三百二十四條ノ修正文トシテ同條ニ記ス可シ〕

〔記載方ニ於ケル〕

〔後文ニ說シカ如ク(第九百九號第三項ノ附言)第三百二十四條ニ右ノ修正ヲ爲シタル理由ハ左ニ掲ケタル附言ニ於テ說ク可シ而シテ斯ク修正ヲ加ヘタル以上ハ竊盜ト背信トノ區別ハ更ニ明瞭ナル可シ

附言 第三百二十四條ノ修正文ハ場合ニ從ヒ或ハ背信罪ノ刑(第四百二十七條)ヲ宣告シ且ツ之レヲ加重セリ斯クノ如ク場合ヲ區別スルコトハ忽ニ

スヘカラス即チ官金ノ會計官ニ就テ論スレハ該官吏ハ定リタル使用ノ爲メニ自己ノ處分權内ニ在ル金額ヲ所持スル者ナレハ其犯罪ハ曲取ニシテ背信罪ヲ犯セシ者ナリ又官ノ物品ノ受託者、監守者又ハ物品出入記録掛ノ如キハ其物品ヲ所持セズ即チ彼ノ一箇人ニ屬スル物品ノ受託者ノ如クニアラスシテ自己ノ家屋ニ物品ヲ有セサル者ナレハ其犯罪ハ竊取、竊盜ニシテ恰モ彼ノ僕婢カ主人ノ財物ヲ取リタル罪ハ盜罪ニシテ背信

附加ノ部

〔同第一二五〇葉第十二行(第六百三十五號)ノ附言ニ

〔同第二八八葉末行ノ次キ(第三百二十四條註解第六百四十七號附言ノ次キ)〕

〔上卷第三五九葉（第八十九條註解第百六十五號第三）〕并ニ同葉ノ増加ヲ參觀スヘシ
〔公ケノ官吏ノ職務執行中又ハ其職務ニ際シテ之レニ故意ノ毆打又ハ暴行ヲ加ヘシキモ亦前三箇條ニ掲ケタル刑ニ一等ヲ加フヘシ（佛法典第二百二十八條乃至第二百三十四條）〕

同第三二七葉第九行ノ下
〔第三百三十三條第（六百七十四號ノ下）〕
同第三二八葉第三百三十
七條第二項トノ記スヘシ

〔故意ノ暴行ヲ公ケノ官吏ニ加ヘタルハ刑一等ヲ増加スルニ付キ躊躇スルヲナシ然レトモ此點ニ付キ佛法典ニ爲セルカ如キ點ニマテ至ルヘカラス何トナレハ佛法ニ於テハ法官ヲ死ニ致サントノ意思ヲ以テ之レニ毆打創傷ヲ加ヘタルハ其結果ノ如何ナルヲ問ハス總テ此犯者ニ死刑ヲ宣告シタレハナリ抑モ此法ハ千八百六十三年ニ保持セシモノニシテ嚴重ニ之レヲ適用セサルヘシ殊更陪審官ニ於テハ之レヲ適用セサルヘシ
右ノ增則ハ政治上ノ性質ヲ有スル謀反ノ場合ニ第六十八條第三ノ適用スルヲテ除却セス但シ謀反ノ刑ト毆打創傷ノ刑トノ比較ノ手段ハ變更スヘシ〕

同第三三八條第六行ノ下
〔第三百三十七條第（終註解ノ末）〕ニ前述第三
百三十七條第二項ノ註解
トシテ記スヘシ

〔連續犯ヲ遂ケントノ目的ヲ以テ豫謀シタル暴行ヲ加ヘシキハ二箇ノ加重即チ一ハ其豫謀ノ爲メ一ハ其連續犯ノ爲メニ二箇ノ加重ヲ爲スヘカラス何トナレハ連續犯ヨリ生スル加重ノ原由ハ豫謀ヨリ生スル加重ノ原由ヲ含有スルモノニシテ法律カ連續犯ノ故ニテ暴行ニ關スル刑ヲ加重スルキハ連續犯ト殆ント離ルヘカラサル豫謀アルヲ斟酌スレハナリ故ニ暴行ヲ以テ犯セシ盜罪ノ連續犯ハ其暴行ニ付キ刑ヲ加重スト雖モ其豫謀ニ付テハ暗ニ之レヲ罰シタルモノナリ

同第三三八葉第三百三十
八條註解ノ末

〔故意ノ暴行ヲ以テ加ヘタル墮胎ノ罪ノ事項ニ於テ右同一ノ意義ニテ掲ケタルモノ即チ第三百七十三條註解第七百七十二號ヲ比較スヘシ〕

〔公然〕

同第三六八葉第六行
〔第三篇第一章第三節第二項第（條ノ云々ノ目的ヲ以テノ次キ）〕

〔第三百五十五條第三 公益又ハ常人ニ對スル有罪ノ所爲ニ因リ犯者ノ意欲ニ出テスシテ直ニ殺害罪ヲ犯シ又ハ人ノ身體ヲ毀傷シ若クハ其精神ヲ錯亂セシメシ事項ニ關シ法律ノ別ニ條例ヲ

増加ノ部

設ケサルモノハ第四百七十二條第二ニ設定シタル區別ヲ以テ該條ニ掲ケタル刑ヲ適用スヘシ

九〇八
同第四一二葉第三百五十五條第二ノ次キ

注意 本條ノ證明ハ第四百七十二條第二ニ於テ發見スヘシ
(同條註解第九百八十五號)

注意 吾人ハ被害者其人ノ上ニ錯誤ヲ爲シタル事項ニ付キ設定シタル第三百三十三條及ヒ第三百四十一條ノ條例ト同様ナル條例ヲ第三篇第一章第六節即チ不法ノ逮捕及ヒ監禁ノ事項ニ加フヘキ旨ヲ述ヘタリ(第百六十五號第三)然ルニ之レヲ記載スルノヲ忘レタリ(第三百八十五條第四ノ附言ヲ參觀スヘシ)故ニ左ノ如キ一箇條ヲ更ラニ加フルヲ得ヘシ(第三百六十三條ノ次キ)

〔第三百六十三條第二 被害者其人ノ上ニ爲シタル錯誤ハ本節ノ刑ヲ免除セス〕

然レモ後又吾人ハ斯カル箇條ヲ加フルキハ類似ノ條例ヲ屢々掲載スルノ不都合アルヲ認メタルニ因リ第八十九條第二(前ニ掲ケタリ)ナル一箇條ヲ設ケ以テ増加ノ箇條ヲ無効タラシメタリ然レトモ第三百三十三條及ヒ第三百四十一條ハ原則

同第四三〇葉(第三百六)ノ次キ

ノ適用ニ付キ尤モ屢々要スルモノトシテ吾人ハ之レヲ保持スヘシ

〔約務〕

〔第七百八十號 遺棄サレタル人迷失シタル人ニ救助ヲ缺キタル罪ヲ遺棄ノ犯罪ト同視スル事〕

第七百八十一號 刑一等ヲ減スル事

第七百八十二號 (舊第七百八十一條ヲ其儘ニ記スヘシ)

第七百八十三號 第三百七十九條ハ監守人其監守スル囚人ヲ

返還セサル罪ニ適用セサル事

〔佛法典第四百條第四項及ヒ第五項〕

〔第四百十三條第二ノ二 盜ヲ犯スノ目的ヲ以テ被害者ノ意欲ヲ巧ミニ停止シ其停止ニ乘シテ盜罪ヲ犯セシキ〕

〔此ノ如キ竊盜ト強盜トノ區別ハ羅馬法律ノ顯明ナル盜罪(現

增加ノ部

同第四三九葉第三百六十五條第二ニ有價物ノ次キ

同第四七二葉第三百七十四條乃至第三百七十九條ノ要旨ノ修正文トシテ附記スヘシ

同第五九七葉第四百十條第一項ノ下

同第五九八葉竊盜ノ加重情狀トシテ第四百十三條第二ノ次キニ記スヘシ

行犯及ヒ顯明ナラサル盜罪(非現行犯)ノ區別ト其實毫モ類似スルヲナシ而シテ行爲中ニ發覺セラレシ者(顯明ナル盜人)ヲ罰スルニ一層巧ミナル盜人(顯明ナラサル盜人)ヨリモ更ニ嚴格ニ罰スルハ正當且ツ理由アルモノニアラサリシナリ

同第六〇七葉第十一行
第八百五十一號第二項中ノ竊盜及ヒ強盜ノ區別ノ附言トシテ記ス

佛法典ハ差押ヘタル物件又ハ質入シタル物件ニ關スルニアラサレハ毀却ヲ以テ盜罪ト同視セス(第四百條第四項及第五項)其他ノ場合ニ於テハ毀却ヲ以テ盜罪ト同視スルコトハ果シテ法律ノ意思ナルヤ否ニ付キ疑團ヲ生スヘシ

同第六一五葉第一行ノ次
キ(第八百五十一號第一項)ノ次キ

主人ノ財物ヲ奪取シタル僕婢ヲ背信ノ罪ヲ犯スモノトシテ罰セスシテ盜罪ヲ犯シタル者トシテ罰スルハ異シムヘキコトニ

アラス其故何トナルニ僕婢ハ其主人ニ屬スル物品ヲ所持セスシテ只其財物ノ監守人タルニ過キサルト恰モ前述ノ第三百二十四條ノ修正文ニ掲載シタル官ノ物品出入記録ト一般ナリ

同第六二五葉第十二行ノ次
次(第八百五十七號第三項)

官廳ニ奉職スル者ノ稱號又ハ徽章ヲ借用シテ犯シタル盜罪ヲ想像スル法律ハ眞ノ官吏ノ犯シタル盜罪ヲ想像スルニアラ

同第六二七葉第十行(第八百五十七號)ノ次キ附言トシ

ス其理由ハ第八百六十一號第二項ノ附言ニ於テ論セリ

本條ニ於テ書面又ハ口頭ヲ以テ脅迫ノ行ハル、旨ヲ説明セスト雖モ斯ル方法ヲ以テ脅迫ヲ爲シ得ルコトハ固ヨリ然ルヘクシテ敢テ之レヲ法文ニ掲ケサルモ可ナリ

同第六五九葉第二行ノ次
キ(第八百六十一號第一項)ノ次キ

第二百四十二條第四百二十五條第二及ヒ第四百二十六條

事實ノ重大ナルト再犯ノ危險アルトノ理由アルニ因リ此場合ニ於ケル監視ハ裁判所ニ命ジタルモノナリ

同第六六七葉(第八百七十一號)ノ附言

金額、有價物或ル動產物又ハ或ル不動產物ノ交附ヲ不當ニ得、書面又ハ口頭ヲ以テシタル讓渡、義務又ハ義務免除ヲ不當ニ得若クハ是等同一ノ目的ノ一ヲ有シタル訟求ニ於テ願下ケ、承認又ハ有利ナル裁判宣告ヲ不當ニ得タル者云々

同第六九八葉第四百三十四條ノ修正文トシテ記ス

吾人ハ詐欺取財ノ構造事實トシテ佛法(第四百五條)ニ倣フコト過キタリ即チ佛法ニハ不當ノ利得ハ元資、動產、義務等詳言スレハ物件又ハ證書ノ實際ノ交附又ハ引渡コト成立スルコトヲ要セリ〇然ルニ欺計ヲ以テ不當ノ利得ヲ獲ントスルニハ尙ホ他

前述第四百三十四條第一ノ文ヲ増加シタルニ因リ其結果トシテ同第七〇七

ノ手段アルヲハ日本ニ於テ日々實驗上之ヲ證明スル所ナリ
故ニ第四百三十四條ニ加ヘタル變更ハ正シク其文義ヲ擴メテ
種々ノ欺計ヲ含有セントノ目的ニ出テタルモノナリ

〔常ニ裁判所ニ云々ヲ附スルヲ要ス〕

〔吾人ハ既ニ官吏ノ重罪及ヒ輕罪ニ付キ右ト同一ノ階級ヲ設
定セリ(第二篇第九章第二百四條乃至第三百二十六條)〕

〔我新制ノ編纂法ニテハ章數二箇、節數九箇、條數拾四箇、號數
八十九箇ノ階級ヲ提出ス是レ種々ノ違警罪ノ數ニ應スルモノ
ナリ〕

〔佛法典第四百八十條第二項第三項〕

九二二
葉(第八百九)ノ附言ニ加フ
ヘシ

同第八二六葉第六行七行
(第九百八十四號
第七項ノ終リ)

同第八四二葉第二項ノ終
(第九百九十一號
第六項ノ終リ)ノ附言トシ
テ記ス可シ

同葉ノ附言(第九百九十一號
第八項ノ附言)

同第八六六葉第四百八十
四條第七ノ下

(二) 改正

〔一國ノ〕

〔八章(舊第四章ハ第三章ニ合シタルニ
因リ)〕

改正文ヲ載スヘキ箇所

上卷第二葉緒論第十二行(第一號ノ)「國ノ」ヲ改メ

同第二二葉第三行(第十四號第四項ノ初文中)「九章」ヲ改メ

〔上卷第一五八葉(第四十七號ノ附言)ニ記シタル
修正文ハ左ノ如シ〕

〔白耳義及ヒ伊太利ノ法典ハ云々ヲ拋
棄ス〕

〔獨乙法典ハ云々ヲ有ス〕

〔第四百十一條第一項〕

〔第四百十三條及第四百三十七條〕

〔第二百二條(上卷第四一二葉)〕

〔第五十一條ト第五十二條トヲ顛置ス
ヘシ〕

〔第四百三十六條〕

〔第六十八條ノ末項ヲ除キテ之レヲ第
七十二條ノ終リニ記スヘシ(第七十二

同第四五葉第一行(第二十二號第
六項ノ始メ)「白耳義法典ハ云
々ヲ拋棄ス」ヲ

同葉第四行(第二十二號
第七項ノ始)「獨乙及ヒ伊太利法典ハ云
々ヲ有ス」トアルヲ

同第四八葉第十四行(第二十四號
第三項ノ終)ニ「第四百十五
條」ト有ルヲ

同第五〇葉第二行(第二十四號
第六項中)ニ「第四百十五條
及ヒ第四百三十八條」トアルヲ

同第五八葉第十行(第二十六號
第十項中)ニ「第百五條」トアルヲ

同第一〇九葉

同第一一一葉第五十六條ノ下「第二百三十六條」
(第二十六十二號
ノ誤リナランカ)トアルヲ

同第一一五葉

改正ノ部

條ノ註解ノ附言ヲ觀ルヘシ

〔第七十二條末項頒布法典ノ引用箇條ヲ除クヘシ〕

同葉

〔處斷(第四百二十二號註解第十項ノ附言ヲ比較スヘシ)〕

同第一一八葉第三行(第七十四條末項中)「犯罪」トアルヲ

〔第六十三條〕

同葉第九行(第七十五條中第三)「第五十六條」トアルヲ

〔第八十二號第二ノ附言ニ指定シタルカ如クニ要旨ヲ改ムヘシ〕

同第一一二三葉(要旨第八十)二號以下

〔假出獄ハ社會及ヒ道德ノ利益ナルコト改ムヘシ〕

同第一二八葉要旨第二百二十五號

〔第六節ノ要旨ヲ第六十六條ノ附言ニ指示シタルカ如ク改ムヘシ〕

同葉(第六十六條以下ノ要旨)

〔トラマイユ、フタルセ(強イテ就カシムル苦役)〕

同第一二二六葉(第四十四條第三項)ノ附言ニ「トラボー、ブオ

〔第三百二十二條ト記シタルヲ除クヘシ〕

同第一五八葉第十一(第四十六條第五項中括弧中ニアム引用ノ箇條)

〔第三百二十七條以下〕

同第一六八葉第十一(第五十二條)ニ「第三百二十七條以下」トアルヲ

〔第四百六十一條第二〕

同葉第十五行(第五十二條末)ニ「第四百六十一條」トアルヲ

〔第四百五十八條〕

同第一六九葉第三行(第五十二條第十九項中)ニ「第四百五十六條」トアルヲ

注意 決水罪ヲ以テ放火罪ト同視スルコトハ正當ナラサルヘシ故ニ吾人ハ堤防ヲ毀壞シ

テ人ノ住居スル家屋ニ隨意ニ決水シタル場合ニ於テ之カ爲メ人ヲ死ニ致サ、リシキ

ハ死刑ヲ除クヲ要スト信セリ(第四百五十八條第一項并ニ其註解第九百五十七號參觀)

〔千八百七十五年〕

同第二〇六葉(第八十二條第八項)ノ附言ニ「千八百七十七年」トアルヲ

〔其住所〕

同第二三八葉第七行(第二百五號)ニ「其住所」トアルヲ

〔第五十一條ト第五十二條トヲ顛倒セ

シ如ク其註解ヲモ顛倒スヘシ〕

同第二四一葉(第五十一條及五十二條ノ註解)

〔吾人ハ此意義ヲ以テ草案ヲ確定セサ

〕同第二六五葉第一行(第六號末項)ニ「吾人ハ草案ヲ此

改正ノ部

九一五

ルハ是レ蓋シ刑ノ總則ヲ侵サ、ルカ爲メナリ」
〔意義ニ變更スヘシトアルヲ〕
九一六

〔第二百二條〕

同第二七一葉第一行(第百三十號第)ニ「第百一條」トアルヲ

〔主タル刑ト從タル刑トヲ顛置スヘシ〕

同第二八一葉第二行及ヒ第五行(第百三十八號第)ニ「第百一條」トアルヲ

〔頒布法典第六十六條〕

同第三〇三葉第七十九條ノ下「頒布法典第六十七條」トアルヲ

〔第百四十七號〕ノ文字ヲ加フヘシ

同第三〇九葉第二項(第百四十六號)

〔漸次〕

同第三一四葉第四行(第百四十九號)「グラヂユエール」

同第三一五葉第六行(第百四十九號)ニ「引用シタル第

第二百三十二條第二百三十三條并ニ二百五十七條第二」

二百十七條第二」二百二十條第二百三十條等」トアルヲ

注意 此際ニハ直接ノ刑ヲ以テ減輕又ハ増加シタル刑ニ容易ニ代ハラシムルヲ得ルモノトハ信セサリシナリ然レトモ數多ノ場合ニ於テ容易ニ代ハラシムルヲ得タリ

キ(此事ニ關シテハ事項表ノ直接ノ刑ヲ觀ルヘシ)

〔第二百四十五條及ヒ第二百四十六條〕

同第三一七葉第七行(第百四十九號)ニ「第百九十六條」

〔第八十九條及ヒ第九十條ノ欄外ニ記シタル文ヲ顛置スヘシ〕

同第三三七葉及ヒ三三八葉

〔泥水ノ有様〕

同第三三九葉第九十一條ニ「只」有様」トアルヲ

〔此場合ニ道德上ノ惡アルハ明カナリ云々〕

同第三五五葉第八行(第百六十五號)ニ「此場合ニハ道德上ノ害惡アル云々」ヲ

〔第二百四十一條〕

同第三六〇葉末項(第百六十五號第三ノ第)ニ「第三百四十二條」トアルヲ

〔第四百五十八條〕

同葉同項ニ「第四百五十六條」トアルヲ

〔犯罪〕

同第三六一葉第二十行(第百六十五號)ニ「違警罪」トアルヲ

〔第四百八十六條第六項〕

同第三七一葉(第百七十一號第)ニ「第四百七十九條第十九項」トアルヲ

〔違警罪裁判所〕

〔第十四條及ヒ第十五條〕

〔元老院ニテ採用セラレス〕

注意 現今ハ此事項ニ關スル法律ヲ千八百八十五年五月二十七日ノ日附ヲ以テ布告セリ
〔刑法ノ新箇條第五十八條〕

〔第一及ヒ第二〕

〔第二百二十五號〕

〔第四百十三條第六〕

〔第二百二十九條 第三百八十五條第二〕
第四百二十五條第二ノ第四及ヒ〕

同第四〇一葉第四百四條（第四百九條ノ誤）ノ末文

同第四五一葉（第九十二）ノ附言ニ「第十一條」トアルヲ

同第四一八葉第六行（第九十四號）ニ「元老院」ニ因
リテ提出セラレストアルヲ

同第四二三葉第九行（第九十七號）ニ「第五十八
條」トアルヲ

同第四二六葉第九行（第九十九號）ニ「第一」トアルヲ

同第四七五葉第二行（第一百十二條）ニ「第二百二十四
號」トアルヲ

同第四九四葉第七行（第二百三十二號）ニ「第四百十四
條」トアルヲ

同第四九六葉第一行（第二百三十三號）ニ引用シタ
ル數字ヲ

〔第二百七十六條ト記シタルヲ除ク〕

同葉第十二行（第二百三十三號）

〔第二百八十九條第二、第四百十三條第
四百十九條第四百二十五條第二ノ第一〕

同葉第五行（第二百三十三號）

〔吾人ハ既ニ此云々ノ差異ヲ掲ケタリ
（第二百三十二號中）〕

同第五〇三葉第十一行ニ「吾人ハ既ニ掲ケタリ
○此差異云々」トアルヲ

〔第四百十三條〕

同第五〇六葉第七行（第二百四十三號）ニ「第四百十
四條」トアルヲ

〔假面ヲ用井又ハ其他ノ方法ヲ以テ面
部ヲ蓋フ〕此加重情狀ヲ廢止シタルニ
因リトノ文ヲ除キ之レニ代ユルニ數
名ノ犯者官吏ノ命令ヲ詐稱シ又ハ官吏
ノ徽章ヲ借用スルトノ文ヲ以テスヘ
シ（第四百二十五條第二）

同葉第八行（第二百四十三號）

〔第二百十八條〕

同第五一一葉第十一行（第二百四十六號）ニ「第二百
十七條」トアルヲ

〔第四百十六條〕

○。○。○。規定スル

〔規定ス〕

〔注意 五一二葉第六行并ニ五一三葉第二行(第六項并ニ第七項)ニ「アレピユ」ノ字ヲ掲ケタルモ通常ノ意義ヲ用キテ掲ケタルモノニシテ前ノ「アレポア」トハ同意義ニアラス

〔音ニ軟弱心云々ニ因ルニアラス〕

○。○。〔工具〕

〔第一款乃至第九款〕

〔第四百十條〕

同第五一一葉第十五行(同號同項ノ末括弧ノ中)ニ「第四百十四條」トアルヲ

同第五一一葉第六行(同號第六項)外國法典ハ豫定スル「ヲ」ヲ怠タルト云フ箇所ニ「豫定」スルトアルヲ

同葉第十一行(同號第七項ノ始メ法律ハ云々)ニ「豫定」トアルヲ

同第五二一葉第三行及ヒ第四行(號第二項ノ末)ニ「軟弱心ニ因ルニアラス」トアルヲ

同第五三二葉ノ末(第二百五十九號第十一項ノ末)ニ「銃」トアルヲ

同第五六八葉第十四行(第二百七十八號第三項ノ括弧中)ニ「第一款乃至第十三款」トアルヲ

同第七二七葉第十五行(第六十八條第三項ノ末)ニ「第四百十三條」トアルヲ

〔第二百五十九條〕

〔法文ニ引用シタル諸條ヲ「第四百十三條第四百十九條并ニ第四百二十五條第二」ト改ムヘシ〕

〔desquelles (其レニ付キト云フ) 字ノ女性ノ複稱〕

〔第一節乃至第十節〕

〔第四百二十五條第一項〕

〔概ネ「然レトモ第四百十一條ヲ看ルヘシ」〕

〔第四百十三條第四百十六條第四百十九條及ヒ第四百二十五條第二〕

同第七五〇葉第十二行(第六十八條ノ末)ニ「第三百四十九條」トアルヲ

同第八〇八葉第二百八條「トアルヲ」

同葉第二百十條中ニ「desquelles (同意ニシテ男性ノ複稱)トアルヲ」

同葉同條ノ終リニ「第一節第二節并ニ第七節乃至第十節」トアルヲ

同第八一二葉第七行(第四百四十四號第三項括弧ノ中)ニ「第四百二十五條第五項參觀」トアルヲ

同葉第十三行(第四百四十五號第一項ノ末)ニ「總テ其他ノ場合ニ於テハ」トアルヲ

同第八一五葉第三行(第四百四十八號第二項括弧ノ中)ニ「第四百十一條及ヒ第四百二十五條」トアルヲ

〔第四百十三條第四百十六條第四百十九條及ヒ第四百二十五條第二〕 同第八一五葉第三行(第四百四十八號中)ニ「第四百十一條及ヒ第四百二十五條」トアルヲ

〔第二百四十六條〕 同第八二五葉第十二行(第四百五十八號末項中)ニ「第二百四十七條」トアルヲ

〔第百八十五條〕 下卷第四葉第一行(第二百七十七條第二項ノ下)ニ「第百八十九條」トアルヲ

〔貳拾圓〕 同第一一三葉第二百五十三條第一項ニ「拾圓」トアルヲ

〔被告人ノ利又ハ不利ナル〕ノ分ヲ除クヘシ 同第一一四葉第二百五十七條第二(陳述)ノ前

注意 此文ヲ除クキハ本條ハ民事ノ事項ニ於ケル偽證ニ容易ニ適用スヘシ尤モ本條ハ「前條々ニ掲ケタル一切ノ刑云々」ト説キタリ

〔第四百三十四條第二〕 同第一四六葉第二百六十二條ニ「第四百三十六條」トアルヲ

同第一六一葉第十四行(第五百六十八號末項中)ニ「第

〔第四百三十五條第二〕

四百三十四條」トアルヲ

〔佛法典第三百五十八條〕 同第一八〇葉第二百八十五條ノ下ニ「第五百五十八條」トアルヲ

〔Zoon (獸ノ義)〕 同第二〇一葉附言(第五百九十號甲附言)ニ「Zoon」トアルヲ

〔第二百八十六條〕 同第二一二葉及ヒ第二一二葉第十三行及ヒ第九行(第六百一號始文并ニ同號第三項中)ニ「第二百八十五條」トアルヲ

〔二十九日〕 同第二一七葉第八百九十五條(第二百九十五條ノ誤リナラン乎)ニ「五月二十一日」トアルヲ

〔動産又ハ不動産ノ所有權又ハ收益權〕 同第二三六葉第二百九十九條ニ「動産ノ所有權又ハ收益權」トアルヲ

〔第四百七十條〕 同第二三八葉第一行(第三百二條中)ニ「第四百七十一條」トアルヲ

注意 本條ノ修正ハ増加ノ箇所ニ就テ看ルヘシ 同第二五四葉第三百二十四條ノ下

改正ノ部

〔少ナクモ或ル時間ハ〕

〔自殺ヲ企テタル二名ノ中一名ハ云々〕

〔出火スヘキ〕

〔第三百四十條〕

〔第二百二十二條第三項〕

〔第四百七十三條第二〕

〔前項〕

〔共犯〕

同第三一八葉第十二行(第六百六十號末項)ニ「尙ホ或ル時間」トアルヲ

同第四二六葉第四行(第七百四十號末項)ニ「二名ノ自殺者ノ中一名ハ云々」トアルヲ

同第四三九葉第八行第三百六十五條ニ「燃ユヘキ」トアルヲ

同第四七一葉第九行(第三百七十號末)ニ「第三百三十條」トアルヲ

同第四八一葉第九行(第七百八十一號第二項中)ニ「第二百二十三條第三項」トアルヲ

同第四九八葉附言(第七百九十二號第四項ノ附言)ニ「第四百七十三條第二」トアルヲ

同第五〇二葉第三百八十九條第三項ニ「前條」トアルヲ

同第五〇四葉第二百九十二條欄外ニ「從犯」トアルヲ

〔第四百三十四條第二項〕

〔第四百九十一條第三項〕

〔第四百六十六條〕

〔第二百七十九條〕

注意 第四百三十四條ノ法文ノ變更ハ增加ノ箇所ニ設置シタリ蓋シ該變更ハ法文ノ意ヲ改正シタルヨリモ寧ロ其意義ヲ増加シタル者ナレハナリ

〔avait été〕(有ルト云フ動詞ノ大過去)

〔毀却ノ語ヲ除クヘシ〕

改正ノ部

同第五七六葉第九行(第八百三十六號第一項ノ末)ニ「第四百三十六條」トアルヲ

同第六三九葉附言(第八百五十九號末項ノ附言)ニ「第四百七十九條第二十四項」トアルヲ

同第六四五葉第十五行(第八百六十號末項)ニ「第四百六十八條」トアルヲ

同第六五四葉第八行(第四百二十四號末項)ニ「第三百七十條」トアルヲ

同第六九八葉(即チ第四百三十四條ノ法文)

同第七〇一葉第四百二十八條ニ「avait été」(有ルト云フ動詞ノ不定過去)トアルヲ

同第七〇二葉第四百四十條第六行

〔上卷第三五四葉以下(第百六十五號第二以下)〕

〔第四百二十五條第七項〕

同第八一九葉第五行(第百八十二號第二項ノ括弧中)ニ「上卷第四九二葉以下」トアルヲ

同第八一七葉(第百八十五條中第五ノ末)ニ「零」トアルヲ

治罪法草案ノ改正

第二百一十一條第四項ヲ改正スルヲ左ノ如シ

〔鑑定人宣誓ヲ拒ムキハ刑法ニ循フテ罰スヘシ〕
〔刑法新草案第二百一十二條註解第四百五十四號ヲ比較スヘシ〕

頒布法典及ヒ再閱草案對照表

頒布法典

第一篇

再閱草案

- 第一條
- 第二條
- 第三條
- 第四條
- 第五條
- 第六條
- 第七條
- 第八條
- 第九條
- 第十條
- 第十一條
- 第十二條

法典再閱草案對照表

- 第一條
- 第二條
- 第三條
- 第九條
- 第十條
- 第十一條
- 第十二條
- 第十三條
- 第十四條
- 第十五條
- 第十六條
- 第十七條

第十三條
第十四條
第十五條
第十六條
第十七條
第十八條
第十九條
第二十條
第二十一條
第二十二條
第二十三條
第二十四條
第二十五條
第二十六條
第二十七條

第十八條
第十九條
第二十條
第二十一條
第二十二條、第二十三條
第二十二條
第二十四條
第二十五條、第二十六條
第二十七條、第三十條
第二十八條
第二十九條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條

第二十八條
第二十九條
第三十條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條
第三十五條
第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條
第四十一條
第四十二條

第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條
第四十一條
第四十二條、第四十三條
第四十四條
第四十六條
第四十八條
第四十九條
第四十七條
第五十條
第五十二條
第五十四條

第四十三條
第四十四條
第四十五條
第四十六條
第四十七條
第四十八條
第四十九條
第五十條
第五十一條
第五十二條
第五十三條
第五十四條
第五十五條
第五十六條
第五十七條

第五十五條
第五十五條
第五十七條
第五十八條
第五十九條
治罪法草案第三百五十九條
第六十一條
第六十二條
第六十三條
第六十四條
第六十五條
零
第六十六條
第六十七條
第六十七條

第五十八條
第五十九條
第六十條
第六十一條
第六十二條
第六十三條
第六十四條
第六十五條
第六十六條
第六十七條
第六十八條
第六十九條
第七十條
第七十一條
第七十二條

第六十九條
第七十條
第七十一條
第七十二條
零
第七十五條
第七十六條
第七十七條
第七十八條、第七十九條
第七十九條
第八十條
第八十二條
第八十三條
第八十四條
第八十五條

第七十三條
第七十四條
第七十五條
第七十六條
第七十七條
第七十八條
第七十九條
第八十條
第八十一條
第八十二條
第八十三條
第八十四條
第八十五條
第八十六條
第八十七條

第八十六條
零
第九十條第一項第二項
第九十條第三項
第八十九條
第九十一條
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十九條
第九十七條
第九十八條
零

第八十八條
第八十九條
第九十條
第九十一條
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十七條
第九十八條
第九十九條
第一百條
第一百一條
第一百二條

第九十七條
第一百條
第一百一條
第一百二條
第一百四條
第一百八條
第一百五條
第一百六條
第一百九條
第一百二條第二項第四百七十六條
第八十八條
第一百十二條
第一百十三條
第一百十四條

第三百三條
第三百四條
第三百五條
第三百六條
第三百七條
第三百八條
第三百九條
第三百十條
第三百十一條
第三百十二條
第三百十三條
第三百十四條
第三百十五條
第三百十六條

第二篇

第三百十六條
第三百十七條
第三百十八條
第三百十九條
第三百二十一條
第三百二十二條
第三百二十三條
第三百二十四條
第三百二十五條
第三百二十六條、第三百二十九條、第三百三十條
零
零
第三百三十一條

第三百十七條
第三百十八條
第三百十九條
第三百二十條
第三百二十一條
第三百二十二條
第三百二十三條
第三百二十四條
第三百二十五條
第三百二十六條
第三百二十七條
第三百二十八條
第三百二十九條
第三百三十條
第三百三十一條

法典、再閱草案對照表

第三百二十二條、第二百九十七條第三項
零
第三百二十二條
第三百二十三條
第三百二十四條
第三百三十八條第一項
第三百四十四條
第三百三十八條第一項
第三百三十九條
第三百四十一條
第三百四十六條
第三百四十四條
第三百四十八條
第三百四十九條、第三百五十條
第三百五十條、第三百五十一條

第三百二十二條
第三百二十三條
第三百二十四條
第三百二十五條
第三百二十六條
第三百二十七條
第三百二十八條
第三百二十九條
第四百十條

第四百十一條
第四百十二條
第四百十三條
第四百十四條
第四百十五條

第三百五十四條

△第一條

△第三條

第三百五十七條

第三百三十七條

第三百二十八條

第四百四十四條

第三百三十七條、第三百六十七條

第三百六十八條ノ三、第三百三十七條第二

項(增加之部)

第三百六十九條

第三百七十二條

第三百七十三條

第三百七十四條

第三百七十五條

第四百四十六條
第四百四十七條
第四百四十八條
第四百四十九條
第四百五十條
第四百五十一條
第四百五十二條
第四百五十三條
第四百五十四條
第四百五十五條
第四百五十六條
第四百五十七條
第四百五十八條
第四百五十九條
第四百六十條

第三百七十六條
第三百七十七條
第三百七十九條
第三百八十八條
第三百七十八條
第三百八十五條
第三百八十六條
第三百八十七條
第三百八十二條
第三百八十三條
第三百八十四條
第三百八十九條
第三百九十一條
第三百九十二條
第三百九十四條

第六十一條
第六十二條
第六十三條
第六十四條
第六十五條
第六十六條
第六十七條
第六十八條
第六十九條
第七十條
第七十一條
第七十二條
第七十三條
第七十四條
第七十五條

第九十五條
第九十八條
第九十九條
第一百零一條
第一百零二條
第一百零三條
第一百零四條
第一百零五條
第一百零六條
第一百零七條
第一百零八條
第一百零九條
第一百一十條
第一百一十一條
第一百一十二條
第一百一十三條
第一百一十四條
第一百一十五條
第一百一十六條
第一百一十七條
第一百一十八條
第一百一十九條
第一百二十條
第一百二十一條
第一百二十二條
第一百二十三條
第一百二十四條

第七十六條
第七十七條
第七十八條
第七十九條
第八十條
第八十一條
第八十二條
第八十三條
第八十四條
第八十五條
第八十六條

第二百七條第二項
第二百十一條
第二百十三條第一項、第二百四十六條第二項
第二百十二條第一項
治罪法第九十六條
第二百十二條第二項第三項
第二百十四條第一項、第二百十四條第二項
第一項
同上第二百十五條ノ二
第二百十六條
第二百十七條、第二百十七條ノ二、第二百十四條第一項
十四條第一項
第二百十四條ノ二第二項、第二百二十二條第二項

第八十七條
第八十八條
第八十九條
第九十條
第九十一條
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十七條
第九十八條
第九十九條
第一百條
第一百一條

九四〇
第二百二十條、第二百二十一條第二項
第二百二十一條第一項
第二百十九條
第二百十四條以下
第二百二十五條
第二百二十四條
第二百二十六條
第二百二十八條
第二百二十九條
第二百三十條
第二百三十二條
第二百三十一條
第二百三十五條
第二百三十六條
零

第二百二條
第二百三條

第二百十條、第二百二十八條
第二百十條、第二百三十七條、第四百七十
三條ノ二

第二百四條
第二百五條
第二百六條
第二百七條
第二百八條
第二百九條
第二百十條
第二百十一條
第二百十二條
第二百十三條
第二百十四條
第二百十五條

零
第二百三十八條
第二百三十九條
零
第二百四十條、第二百四十一條ノ二
第二百四十一條
第二百四十一條、第二百四十二條
第二百四十三條
零
第二百四十四條
第二百四十五條
第二百四十六條第一項第三項

第二百十六條
第二百十七條
第二百十八條
第二百十九條
第二百二十條
第二百二十一條
第二百二十二條
第二百二十三條
第二百二十四條
第二百二十五條
第二百二十六條
第二百二十七條
第二百二十八條
第二百二十九條
第二百三十條

九四二
第二百四十六條第二項
第二百四十七條
第二百五十一條
零
第二百五十三條
第二百五十四條第一項、第二百五十五條
第二百五十四條第二項、第三項
第二百五十六條
第二百五十七條
第二百五十八條
第二百五十九條
第二百六十條
第二百六十一條
第二百六十二條
第二百六十一條

第二百三十一條
第二百三十二條
第二百三十三條
第二百三十四條
第二百三十五條
第二百三十六條
第二百三十七條
第二百三十八條
第二百三十九條
第二百四十條
第二百四十一條
第二百四十二條
第二百四十三條
第二百四十四條
第二百四十五條

九四三
第二百六十三條
第二百六十三條
第二百六十五條
零
第二百六十六條
第二百六十七條
第二百六十八條
第二百六十九條
第二百七十條
第二百七十一條、第二百七十二條第二項
第二百七十二條第一項
第二百七十三條
第二百七十五條
第二百七十六條
第二百七十七條

第二百四十六條
第二百四十七條
第二百四十八條
第二百四十九條
第二百五十條
第二百五十一條
第二百五十二條
第二百五十三條
第二百五十四條
第二百五十五條
第二百五十六條
第二百五十七條
第二百五十八條
第二百五十九條
第二百六十條

第二百七十八條
第二百七十九條
第二百八十條
第二百八十一條
第二百八十二條
第二百八十三條
第二百八十四條
第二百八十六條
第二百八十七條
第二百八十八條
第二百八十九條
第二百九十條
第二百九十一條
第二百九十二條
第二百九十三條

第二百六十一條
第二百六十二條
第二百六十三條
第二百六十四條
第二百六十五條
第二百六十六條
第二百六十七條
第二百六十八條
第二百六十九條
第二百七十條
第二百七十一條
第二百七十二條
第二百七十三條
第二百七十四條
第二百七十五條

第二百九十四條
第二百九十五條
第二百九十六條
第二百九十七條
第二百九十七條
第二百九十七條第四項
第二百九十八條
第二百九十九條
第三百條
第三百一條
第三百二條
第三百三條
第三百四條
第三百五條
第三百九條

第二百七十六條
第二百七十七條
第二百七十八條
第二百七十九條
第二百八十條
第二百八十一條
第二百八十二條
第二百八十三條
第二百八十四條
第二百八十五條
第二百八十六條
第二百八十七條
第二百八十八條
第二百八十九條
第二百九十條

第三百十條
第三百十四條
第三百十一條
第三百十三條
第三百十五條
零
第三百十六條
第三百十八條
第三百十九條
第三百十九條
第三百二十條
第三百二十一條
第三百二十三條
第三百二十四條
第三百二十六條

第三篇

第二百九十一條
第二百九十二條
第二百九十三條
第二百九十四條
第二百九十五條
第二百九十六條
第二百九十七條
第二百九十八條
第二百九十九條
第三百條
第三百一條
第三百二條
第三百三條
第三百四條

零
第三百二十七條
第三百二十九條
第三百三十一條
第三百二十八條
第三百三十條
第三百三十二條
第三百三十三條
第三百三十四條
第三百三十五條
第三百三十六條
第三百三十七條
第三百三十八條
第三百四十一條

法典、再閱草案對照表

第二百五五條
第二百五六條
第二百五七條
第二百五八條
第二百五九條
第二百十條
第二百一十一條
第二百一十二條
第二百一十三條
第二百一十四條
第二百一十五條
第二百一十六條
第二百一十七條
第二百一十八條
第二百一十九條

第三百二十九條
第三百二十九條
第三百四十條
第三百四十二條
第三百四十三條
第三百四十五條
第三百四十六條
第三百四十七條
第三百四十九條
第三百五十條
第三百五十一條
第三百五十二條
第三百五十三條
第三百五十四條
第三百五十五條

第二百二十條
第二百二十一條
第二百二十二條
第二百二十三條
第二百二十四條
第二百二十五條
第二百二十六條
第二百二十七條
第二百二十八條
第二百二十九條
第二百三十條
第二百三十一條
第二百三十二條
第二百三十三條
第二百三十四條

第二百五十六條
第二百五十七條
第二百五十九條、第三百六十條
第三百六十一條
第三百六十二條
第三百六十三條
第三百六十四條
第三百六十五條
第三百六十六條
第三百六十七條
第三百七十條第二項
第三百七十條第一項、第三百七十一條
第三百七十二條
零
第三百七十三條

第三百二十五條
第三百二十六條
第三百二十七條
第三百二十八條
第三百二十九條
第三百四十條
第三百四十一條
第三百四十二條
第三百四十三條
第三百四十四條
第三百四十五條
第三百四十六條
第三百四十七條
第三百四十八條
第三百四十九條

第三百七十三條第三項
第三百七十四條
第三百七十五條
第三百七十六條
第三百七十七條
第三百七十八條
第三百八十條
第三百八十一條
第三百八十三條
第三百八十三條
零
第三百八十六條、第三百八十七條第一項
第三百八十七條第二項
第三百八十九條
第三百八十八條

第三百五十條
第三百五十一條
第三百五十二條
第三百五十三條
第三百五十四條
第三百五十五條
第三百五十六條
第三百五十七條
第三百五十八條
第三百五十九條
第三百六十條
第三百六十一條
第三百六十二條
第三百六十三條
第三百六十四條

第三百九十條
第三百九十一條
第三百九十二條
第三百九十三條、第三百九十三條ノ二
第三百九十四條
第三百九十五條
第三百九十六條
第三百九十七條
第三百九十八條
第四百條
第四百二條
第四百三條
第四百四條
第四百五條
第四百六條

第二百六十五條
第二百六十六條
第二百六十七條
第二百六十八條
第二百六十九條
第二百七十條
第二百七十一條
第二百七十二條
第二百七十三條
第二百七十四條
第二百七十五條
第二百七十六條
第二百七十七條
第二百七十八條
第二百七十九條

第四百七條
第四百十條、第四百十二條
第四百十三條第二項
第四百十七條、第四百十八條
第四百十六條第六項、第四百十九條
第四百十八條、第四百十九條
第四百十一條
第四百十四條第一項
第四百十四條第三項、第四項、第五項
第四百十五條
第四百二十一條
第四百二十二條
第四百二十三條
第四百二十四條
第四百二十四條第三項、第四百二十五條

第二百八十條
第二百八十一條
第二百八十二條
第二百八十三條
第二百八十四條
第二百八十五條
第二百八十六條
第二百八十七條
第二百八十八條
第二百八十九條
第二百九十條
第二百九十一條
第二百九十二條
第二百九十三條

ノ二第四項
第四百二十六條
零
第四百二十四條第二項
第四百十三條第二項ノ二(增加之部)
第四百二十八條
第四百二十九條
第四百三十條
第四百三十一條
第四百三十二條第一項第二項
第四百三十二條第一項
第四百三十四條第一項
第四百三十九條
第四百三十四條第二項
第四百三十四條第三項

第三百九十四條
第三百九十五條

九五四

第四百三十六條
第四百三十七條第一項、第四百三十七條

ノ三

第三百九十六條
第三百九十七條
第三百九十八條
第三百九十九條
第四百條
第四百一條
第四百二條
第四百三條
第四百四條
第四百五條
第四百六條
第四百七條

第四百三十七條第二項
第四百四十二條
第四百四十三條
第四百四十四條
第四百四十四條ノ三
第四百四十四條第一項
第四百四十五條第一項
第四百四十六條
第四百四十七條
第四百四十五條第二項、第四百四十九條
第四百四十八條、第四百四十九條
第四百五十二條

第四百八條
第四百九條
第四百十條
第四百十一條
第四百十二條
第四百十三條
第四百十四條
第四百十五條
第四百十六條
第四百十七條
第四百十八條
第四百十九條
第四百二十條
第四百二十一條
第四百二十二條

第四百五十一條
第四百五十四條
第四百五十五條
第四百五十六條第一項第二項
第四百五十六條第一項第三項
第四百五十七條
第四百六十條
第四百六十一條、第四百六十一條ノ二
第四百六十二條
第四百六十五條、第四百七十二條ノ二
第四百六十七條
第四百六十八條
第四百六十六條
第四百七十條
第四百七十一條

第四百二十三條
第四百二十四條

第四篇

第四百二十五條第一項
第四百二十五條第二項
第四百二十五條第三項
第四百二十五條第四項
第四百二十五條第五項
第四百二十五條第六項
第四百二十五條第七項
第四百二十五條第八項
第四百二十五條第九項
第四百二十五條第十項
第四百二十五條第十一項
第四百二十五條第十二項

第四百七十二條
第四百七十三條、第四百七十三條ノ二

第四百七十八條第一項
第四百七十八條第五項
第四百七十八條第一項
第四百七十八條第二項
第四百七十八條第三項
第四百七十九條第一項
第四百八十五條第五項
第四百七十九條第八項
零
零
零
第四百九十六條第一項

第四百二十五條第十三項
第四百二十五條第十四項
第四百二十六條第一項
第四百二十六條第二項
第四百二十六條第三項
第四百二十六條第四項
第四百二十六條第五項
第四百二十六條第六項
第四百二十六條第七項
第四百二十六條第八項
第四百二十六條第九項
第四百二十六條第十項
第四百二十六條第十一項
第四百二十六條第十二項
第四百二十七條第一項

第二百八十五條
第二百五十一條第一項
第四百七十八條第四項
第二百十三條ノ二
第四百八十五條第一項
第四百八十五條第九項
第四百七十九條第二項
第四百七十九條第六項
第四百七十九條第五項
第四百七十九條第六項
第四百七十九條第七項
第四百八十六條第九項
第四百八十六條第九項
第四百八十六條第九項
第四百八十九條
第四百八十一條第一項

第四百二十七條第二項
第四百二十七條第三項
第四百二十七條第四項
第四百二十七條第五項
第四百二十七條第六項
第四百二十七條第七項

第四百二十七條第八項
第四百二十七條第九項
第四百二十七條第十項
第四百二十七條第十一項
第四百二十七條第十二項
第四百二十七條第十三項
第四百二十七條第十四項
第四百二十七條第十五項

九五八

第四百八十一條第二項
第四百八十一條第三項
第四百八十一條第四項
第四百七十九條第四項
第四百八十五條第二項
第四百八十五條第二項并第四百八十九條第二項

第四百八十條第九項
第四百八十八條第四項
第四百七十九條第七項
第四百七十九條第十項
第四百八十四條第六項
第四百八十二條第八項
第四百八十二條第五項
第四百八十七條第二項

第四百二十七條第十六項
第四百二十八條第一項
第四百二十八條第二項
第四百二十八條第三項
第四百二十八條第四項
第四百二十八條第五項
第四百二十八條第六項
第四百二十八條第七項
第四百二十八條第八項
第四百二十八條第九項
第四百二十八條第十項
第四百二十八條第十一項

第四百二十九條第一項
第四百二十九條第二項

法典、再閱草案對照表

九五九

第四百八十七條第一項
第四百八十四條第二項
第四百八十四條第三項
第四百八十四條第四項
第四百八十四條第五項
第四百八十條第九項
第四百八十五條第三項
第四百八十二條第五項
第四百八十七條第三項
第四百八十五條第七項
第四百八十一條第六項
第四百八十二條第二項
第四百八十二條第三項

第四百二十九條第三項
第四百二十九條第四項
第四百二十九條第五項
第四百二十九條第六項
第四百二十九條第七項
第四百二十九條第八項
第四百二十九條第九項
第四百二十九條第十項
第四百二十九條第十一項
第四百二十九條第十二項
第四百二十九條第十三項
第四百二十九條第十四項
第四百二十九條第十五項
第四百二十九條第十六項
第四百二十九條第十七項

第四百八十二條第三項
第四百八十二條第三項
第四百八十二條第一項
第四百八十三條第一項
第四百八十三條第二項
第四百八十二條第四項
第四百八十二條第三項
第四百八十二條第七項
第四百八十六條第六項
第四百八十一條第五項
零
第四百九十一條第一項
第四百九十一條第三項
第四百八十七條第四項

第四百二十九條第十八項
第四百三十條

第四百九十一條第二項
第四百九十二條又、第四百七十六條

〔附言〕 此表中圈點ヲ施シタル語辭及ヒ數字ハ本草案ノ區別即チ章、節ニ應スルモノニシテ主タル事項ヲ指示ス

圈點ヲ施サ、ル數字ハ章、節外ノ箇條ニ應ス

第何號トアルモノハ註解ニ記シタル號數ニ應ス

正條中ニ存セスシテ註解ノミニ存スル語辭多シ是等ノ語辭ニ就テハ註解ニ設ケタル記號ヲ掲ケテ搜索ニ便ナラシム

正條中ニ掲載スヘキ程ノ充分緊要ナル語辭及ヒ論理ハ更ニ詳細ノ説明ヲ下シテ註解中ニモ掲ケタルヲ勿論ナリ故ニ只正條ノミニ引用シテ註解ノ號數ハ別段掲ケサルヲ往々之レアリ

正條及ヒ註解ノ記號ヲ引用スルハ原書ノ枚數ヲ引用スルニ優レリトス此ノ如ク正條及ヒ記號ヲ引用スルノ目的ハ此表ヲシテ譯文ニ適用セシムルニ在リ○斯ル注意ハ治罪法草案及ヒ民法草案ニ爲サ、リシ所ナリ

或ル數字ニシテ〔印中ニA、B、Cノ標目ヲ附シテ記載セシモノアリ是等ノ數字ハ舊草案ニ存セサル三箇ノ事項ニ應スルモノニシテ之レカ爲メ特別記號ヲ設クルヲ要セリ即

ナ左ノ如シ

[A 第一條乃至第十七條]ハ第二篇第三章ノ二萬國公法ニ關スル重罪及ヒ輕罪ニ應ス
 [B 第一條乃至第四條]ハ第二篇第四章第六節ノ二兇徒結黨ノ罪ニ應ス
 [C 第一條乃至第十二條]ハ第三篇第一章第三節ノ二決闘ニ應ス
 譯者曰ク此表中字傍ニ單線ヲ書スルモノハ人名トシ雙線ヲ書スルモノハ地名國名等
 トス

○アノ部

刑ノ漸次ノ減輕 *Abaissement graduel des peines* 第七十八條以下(刑ノ減輕參觀)
 幼者、老者、疾病者及ヒ癡疾者ノ遺棄 *Abandon d'enfants, de vieillards, de malades et d'infirmes* 第三百七十四條以下
 尊族親ノ遺棄 *Abandon d'ascendants* 第四百五條
 刑ノ廢止 *Abolition de peine* 第六十八條第四項、第九條
 船舶衝突、覆沒 *Abordages, échouements* 第四百六十一條以下
 不法ノ闕爲 *Abstention illégale* 第三百十九條
 威權ノ濫用 *Abus d'autorité* 第三百十條、第三百八十九條ノ二、第

背信 *Abus de confiance*

四百三十五條ノ二、第六百八條、第四百三十七條以下、第三百二十四條并ニ第三百二十四條ノ増加ノ部

船長ノ背信 *Abus de confiance par un capitaine de navire*

第四百四十條

調印又ハ署名シタル白紙ノ濫用 *Abus de blanc seing*

第四百三十八條○第九百十一號

幼者又ハ瘋癲人ノ情慾ニ乘スル犯罪 *Abus des passions d'un mineur ou d'un fou*

第四百三十九條

無錢飲食ノ罪 *Abus du crédit alimentaire*

第四百四十一條

意外ノ事變 *Accident imprévu* 第三百六十三條、第三百六十八條、第三百八十四條(人ノ身體ノ毀傷參觀)

分娩(ノ術) *Accouchement (art d'1^{er})*

(醫術參觀)

重罪被告人 *Accusé*

放免 *Aquittement*

(被告人參觀) 第五十八條、第七十四條、第二百五

事項表、アノ部

公證書 Acte authentique

繼續又ハ爾後ノ所爲ニ因レル徒犯

Acte consécutif ou subsequent (complicité par)

十三條

(偽造文書參觀)

第二百二十二條第三項○第二百三十四號

第四百七十三條ノ二

第六百六號

第三百八十九號、第四百九號

第二百二十二條、第百二十四條、第百三

十一條第三項、第百三十九條、第百五

十三條(A第一條、第八條、第十三條)○

第二百五十九號、第二百六十二號、第

四百三號

第四百三十二條(所働高參觀)

第一條

能働高(一ニ現在ノ財) Actif

罰ス可キ所爲 Action punissable

公訴 Action publique

公賣落札 Adjudication publique

行政官署 Administration publique

姦通 Adultère

第五條

第二百九十九條

第二百十條(官憲參觀)

第三百四十六條、第三百九十三條、第

三百九十三條ノ二○第六百七號、第

六百九十三號、第八百二十五號

第九百二十二號

第二百八十六號、第四百三十六條(裁

判宣告書ノ公示參觀)

第二十六號、第三十三號、第百號、第百

九十四條、第二百六十三號、第二百六

十九號

第三百六十四號、第三百六十五號

第二十四條、第二十八條

亞弗利加洲 Afrique

六十歳以上ノ年齢 Age: plus de 60 ans

二十歳、十二歳、五歳以下ノ年齢 Age: moins de 20, de 12, de 5 ans

事項表、アノ部

公務ニ従事スル者 Агентъ власти
Agent de l'autorité

兩替商 Агентъ обмена
Agent de change

外交官 Агентъ дипломатический
Agent diplomatique

刑ノ加重 Агривация
Aggravation de peine

第九十二條乃至第九十六條〔A 第十
五條〕第九十九條、第三百七十四條、
第三百七十五條、第三百八十條、乃至
第三百九十二條

第一百十條、第四百三十五條ノ二〔公ケ

ノ官吏參觀〕

フオンケ

第四百三十三條ノ二

〔A 第四條〕

第八十九條、第一百二條乃至第一百一
條、第一百二十條、第二百二十三條、第六
十三條、第六十八條、第七十七條
第八十一條、第九十六條、第二百
條乃至第二百二條、第二百八條、第二
百四十五條、第二百七十九條、第二十
八條、第二百九十六條、第二百九十

七條、第二百九十九條

第三百四條、第三百十二條、第三百二
十四條、第三百二十七條、第三百三十
八條、第三百五十五條ノ二、第三百五
十九條、第三百六十五條、第三百七十
二條、第三百七十六條、第三百八十九
條ノ二、第三百九十二條ノ二

第四百四條乃至第四百六條、第四百
十三條、第四百十六條、第四百十九條、
第四百二十五條ノ二、第四百三十條
ノ二、第四百三十三條ノ二、第四百三
十五條ノ二、第四百三十七條ノ二、第
四百四十四條、第四百六十六條、第四
百七十三條、第四百七十三條ノ二〔加

重ス可キ情狀、漸次ノ加重參觀〕

コンスタンス、ソグラーヴァント、エレヴァシオン、ゾラヂニエール

最先降手 Aggression

助力 Aide

精神錯亂 Aliénation mentale

讓渡、義務、義務免除 Aliénation, obligation, libération

第三百五十條

第二百二十二條

第三百三十五條、第三百六十八條、第三百六十九條

第三百六十九條

第二百四十條、第四百二十七條、第四百三十四條第一項、第四百三十五條、

第四百三十八條、第四百七十三條

第十九號(獨逸法典參觀)

第八百四十二號(系統、血屬親參觀)

(公ケノ水參觀)

(偽造文書、偽造貨幣參觀)

第二十二條乃至第二十五條

第二十七條〇第九百九十七條

獨逸國 Allemagne

配偶、姻屬 Alliance, Alliés

水ノ汚穢 Altération des eaux

文書、貨幣ノ偽造 Altération d'écritures, de monnaies

輕罪ノ罰金 Amende correctionnelle

違警罪ノ罰金(科料) Amende de simple police

重罪刑ノ附加ノ罰金 Amende accessoire d'une peine criminelle

第三十五條、第五十四條、第七十一條

第三項、第三百三十四條、第三百三十六條、

第三百五十四條(A第八條、第十一條、第十五條)第二百六十八條

(代ヘタル禁錮參觀)

第三百十四條

第三百十四條

未納ノ罰金 Amende non payée

變換シタル罰金 Amende restituée

受刑者ノ良心ニ復スル Aménagement des condamnés

第四十四號、第七十四號

第三十六號、第五十四號、第九十七號、

第三百五十三號、第三百六十四號、第

三百六十五號、第九百六十一號

第五條、第七十六條、第七十七條、第百

九條

第三號、第二十三號、第二十六號、第四

恩赦 Amnistie

類似(ノ危險) Analogie (dangers des)

事項表、アノ部

十四號

刑ト犯罪トノ類似

Analogie de la peine avec le délit

英國 Angleterre

第四十四號ノ二、第八百四十九號

第三十六號、第五十四號、第七十四號

第九十四號、第三百六十四號、第三百

六十五號、第三百六十七號、第三百七

十二號、第五百九十號

第四百七十二條

第四百七十九條第六項

第一百五十二條、第四百八十七條第二

家畜獸類 Animaux domestique

猛獸 Animaux dangereux

電信機械 Appareils télégraphique

刑法ノ適用 Application de la loi pénale

不正ノ所爲ヲ以テ公私ノ印影ヲ捺スル一
ou privés

第一條乃至第十條

Apposition illégale, fraudulense, de sceaux publics

第二百三十二條、第二百四十一條ノ

二(偽造文書、偽造印影參觀)

專恣(ノ處分) Arbitraire (mesure)

樹木 Arbres

銀 Argent

艦船者 Armateur

軍隊 Armée

明顯ナル、隱蔽シタル、危險ナル殺害スルニ足ル可キ兇器
uses, meurtrières

第六百二十四號乃至第六百二十六號

第四百六十八條

(偽造貨幣參觀)

[A 第五條、第八條、第十一條、第十四條]

第二百二十條

(公權、國ノ外部ノ安寧參觀)

Armes, apparentes, cachées, dangere

第六十八條、第七十七條、第九

十六條、第二百條、第三百六十五條、第

四百十三條、第四百十六條、第四百二

十四條、第四百二十五條ノ二

第三百三十八條、第四百十九條、第八

十九條

第三百八十九條以下

第三十四條、第三十八條、第六十三條、

兵器 Armes de guerre

禁制ノ武器 Armes prohibées

逮捕(トテ留ス) Arrestation

事項表、アノ部

專恣ノ逮捕 Arrestation arbitraire
未決拘留 Arrestation preventive

第七十三條
第三百十一條、第三百十二條
第六十三條、第七十四條、第七十
八條、第八十條、第八十五條○第
九十號

助カシタル逮捕 Arrestation procurée
不法ノ逮捕 Arrestation illégale
拘留 Arts

第七十九條、第二百二十四條
第三百五十九條以下

國ノ武庫ノ(劫掠、引渡) Arsnaux de l'Etat (pillage, livraison des)

第二十六條、第三十八條、第六十一條

烟火ノ基礎 Artifices (pièces d')

第三百二十八條、第四百十九條

欺計 Artifices

第四百七十八條第一項第二項
(狡計參觀)

工商 Artisans

第二百六十二條

尊屬親(ニ對スル卑屬親ノ重罪及ヒ輕罪) Ascendants (crimes et délits des descendants contre les)

第四百五條以下

尊屬親(ニ對スル加重) Ascendants (aggravation contre les)

第三百八十九條ノ二、第三百九十二
條ノ二

謀殺 Assassinat

第三百二十七條、第三百二十八條

兇徒結黨 Associations de malfaiteurs

第二篇第四章第六節ノ二B。第一條
乃至第四條)○第二百五十五號、第六
百六十一號

博徒ノ結黨 Associations de joueurs

第二百九十三條○第四百三十八號

施濟、慈悲ヲ爲ス者ノ結黨 Associations charitables, philanthropiques

第十三號、第七十四號、第三百六十五
號、第四百三十號

政黨團結 Associations politiques

第四百三十八號

社員 Associés

[A 第十一條]第四百十一條

保險、保險者 Assurances, Assureurs

[A 第九條、第十四條]第四百五十條、第
四百六十三條

人ノ身體ニ對スル犯罪

Attentats contre les personnes

九七六

第三百六十四條、第四百二十四條、〇

第六百六號、第七百九十七號、第八百

六十八號

第四百十三條

第二百十二條

旅舎主

Aubergistes

解剖

Autopsie

Antorité impériale (attentat contre l')

第三百三十四條

行政官憲

Autorité administrative

第一千十三號

法律及ヒ事實ノ權力

Autorité de droit, de fait

第三百八十九條ノ二〇第八百六號

中央官廳

Autorités centrales

第三百三十五條、第三百三十七條、第七

十一條、第二百二十九條、第三百六十

四條

府縣官廳

Autorités départementales

第三百三十五條乃至第三百三十七條、第

二百二十九條、第三百九條

地方官廳

Autorités locales

第三百二十六條、第六十七條

他人ノ正當防衛

Autrui (défense légitime d')

第三百四十四條、第三百五十條、第三

百六十六條

他人ノ德行

Autrui (pudeur d')

第三百八十六條乃至第三百八十八條

他人ノ榮譽

Autrui (réputation d')

第三百九十五條以下

他人ノ財産物件

Autrui (biens, choses d')

第四百十條、第四百十一條、第四百五

十條、第四百六十五條以下

手形ノ保證

Aval

第二百四十條

不正當ノ利潤

Avantages illégitimes

(利得參觀)

白狀セシムル

Aveux arrachés

第三百十六條

代言人

Avocats

第四百二條

墮胎

Avortement

第三百七十條以下

代書人

Avoués

第四百二條〇第八百三十七號

單元

Axiomes

第五十八號、第四百十號、第四百十四

號、第六十五號、第八十九號、第五

事項表、アノ部

九七七

百七十八號、第八百五十四號、第九百七十九號

○シノ部

資本ノ貸貸人 Baillieur de fonds

[A 第九條、第十四條]

聚集 Bandes

第百三十七條、第百三十九條

追放 Bannissement

第四十四號ノ二

詐欺又ハ尋常ノ倒産 Banqueroute fraudulense, simple

第四百三十二條以下

銀行者 Banquiers

第四百三十三條ノ二

船ノ指令者ノ詐欺 Baraterie de patron

第九百十八號

暴虐ノ所爲 Barbarie (actes de)

第三百二十八條

バルバリー(ノ海岸) Barbarie (côtes de)

第三百六十六號

漁船 Bateaux de pêche

第四百四十條○第九百十八號

運送船 Bateaux de transport

第三百五十五條ノ二

人ノ住居シ又ハ住居セサル船舶 Bateaux habités, inhabités

(建築物、人ノ住居スル場所、船舶參觀)

船夫 Mateliers

第四百十三條、第四百三十七條ノ二

人ノ住居シ又ハ住居セサル建築物 Bâtimens habités inhabités

第二百八十一條、第四百十五條、第四百五十六條、第四百七十一條

白耳義國 Belgique

第五十二號、第七十四號(白耳義法典參觀)

ペンタム Bentham

第十一號

家畜馬 Bestiaux, bétail, chevaux

第四百八十七條、第四百九十條

財産(ニ對スル重罪及ビ輕罪) Biens (crimes et délits contre les)

第四百十條以下、第三百二十四條以下

財産(ニ對スル違警罪) Biens (contravention contre les)

第四百八十七條、第四百九十條、第四百九十一條

他人ノ財産 Biens d'autrui

(他人參觀)

事項表、スノ部

國ノ財産

Biens de l'Etat

九八〇

重婚 Bigamie

銀行ノ紙幣 Billets de banque

富籤 Billets de loteries

振出手形 Billets à ordre

調印又ハ署名シタル白紙(ノ濫用) Blanc seing (abus de)

故意ノ創傷 Blessures volontaires

第二百十條、第四百八十七條〇第六百四十七號

第三百九十四條〇第六百七號

第四條、第二百十六條

第二百九十五條

第二百四十條

第四百二十八條

第三百三十四條以下、第百六十八條

ノ三、第百七十二條、第百七十六條、第

三百二十四條、第三百四十一條(〇第

四條)第四百五條、第四百七條、第四百

二十四條〇第二百六十二號、第二百

六十三號、第二百六十九號、第二百七

十一號、第三百九十四號

過失創傷 Blessures involontaires

臨戰封鎖 Blocus

森林 Bois, forêts

品行方正 Bonne conduite

信用 Bonne foi

善良ナル風儀(ニ關スル重罪及ビ輕罪)

Bonnes mœurs (crimes et délits contre les)

第三百八十六條以下(公ケノ德義參
觀) モラル、ビュブリック

第二百二十一號

(A 第五條)

第二百三條以下

第百七十二條

第四百五十六條ノ三

第百三十八條、第百五十八條、〇第二

百七十四號、第三百二號、第三百六號、

ブレジール Brésil

強盜 Brigandage

封印ノ破毀 Bris de scellés

獄舎ノ毀壞 Bris de prison

土工 Brise-lames

目的 But

第三百十號、第三百二十一號、第三百七十二號、第三百八十九號、第三百九十四號、第四百十六號、第五百三十六號、第六百七十號、第九百四十八號、第九百七十六號(方法參觀)

モアイヤン

○セノ部

屍體ノ隠蔽) レキールイオン、ド、カヌア Cadavre (recèlement de)
變災 Calamités カラムチー

第百八十六條

第四百十三條、第四百二十五條ノ二、

第四百三十七條ノ二

(刑期參觀)

第六十一條

デユレ、デー、ベリス

第二百五十三條、第三百九十五條、第

三百九十七條、第四百三十五條(誹毀

參觀)

第四百條

○ ○ カレキエー Calcul
適法ノ曆 カラメ、トリ、エー、ラ、ゼー Calendrier légal
誣告 カロムニ Calomnie

死者ニ對スル誣告

カラムニ、ア、ア、エー、ラ、パ、ア Calomnie envers les morts

船長 カピタイン、ド、ナビ Capitaine de navire

船貨 カルクオン Cargaison

鑛坑 カリエー Carrières

陰陽毀壞 (一ニ器丸毀) 敗ト譯ス カストラシオン Castration

原由ト果効ノ關係 カウザリテ Causalité
毀傷ノ直接ノ原由 カウゼ、ディレク、ド、レシオン Cause directe de lésions

抗拒ス可カラサル原由 カウゼ、マジェウ Cause majeure

原由、場合 カウゼ、オカシオン Cause, occasion

刑ノ減輕及ヒ加重ノ一般及ヒ特別ナル原由
et d'aggravation des peines

カウゼ、ダ、エ、ネ、ロ、ド、ス、タ、カ、エ、ス、イ、ア、エ、タ、ラ、ウ、ラ、ミ、ニ、サ、イ、ス、ニ、ス Causes (généraux et spéciaux) d'Abaissement

第八十八號(減輕、加重等ノ語參觀)

事項表、セノ部

(A 第五條、第八條、第十一條乃至第十四條) 第二百二十條、第二百七十九條、第四百四十條、第四百六十一條ノ二、第四百六十二條○第九百十八號
第四百六十一條、第四百六十二條
第四百五十六條
第六百五十三號、第六百九十八號(切斷參觀)

ナラシモン

第六百六十八號、第八百七十七號

増加ノ部 第三百三十五條ノ三○第九

百八十四號、第九百八十五號

第三百八十四條

第九百八十四號